

少い。

2) 尋常性痤瘡 Acne vulgaris: 部位異なり潰瘍を欠き色も鮮紅色である。

療法 1) Künstliche Höhensonne と Tuberculin の intrakutane Injektion 又は 1% 亞硫酸曹達水の注射

2) 膿疱には Pick 氏膏を貼じ、潰瘍には Dermatol, Jodoformsalbe を用ふ。

3) 全身の栄養に注意す。

V 腺病性硬結性紅斑

Erythema induratum scrophulosorum

又はバザン氏硬結性紅斑 Erythema induratum Bazin

定義 主として四肢の皮下に、慢性の硬結を發生して皮膚に暗褐色の紅斑を呈し、屢々潰瘍に陥る結核疹である。

症候 1) 10—30 歳に青春期の女子に多く、主に Unterschenkel の皮下組織中に結節として發生する。

2) 初めは bohngross で、Haut には何等の變化を呈せず觸診して之を知り得るのみであるが、漸次増大すると Haut を扁平に隆起し境界不明の紅斑を呈する。其色は煉瓦の如く赤褐色、暗褐色、蒼紅色を呈し大小不同で erbsengross から taubeneigross に達する。

3) spontaner Schmerz はないが Druckschmerz がある。

4) Verlauf は緩慢で、此儘吸収されて治癒し又再發し、一進一退

數年に渉る。時に症狀變化すれば硬結が擴大して皮膚と癒着し皮膚は菲薄となり遂に破潰して潰瘍をなす。

5) 此 Geschwür は Scrophuloderma に似て、創縁菲く暗紅色を帯び Unterminierung があり、Granulation は anaemisch 且 atonisch である。又 Fistel を作つて深く硬結中に達することもある。創面からは käsige od. blutige Sekret を分泌する。Geschwür は治癒の傾向少ないが早晩 Narbe を形成して治癒する。

6) 時に硬結が隆起せずに數個の結節が皮下深部で融合して扁平の浸潤を作る事もある。又皮下に strangartig に肥厚した Gefäss を觸れる事もある。

7) Induration が多數に發生し或は屢々再發した際には、Peripherie の下腿、足部の Haut に Oedem を來し、Oedem が永く存在すれば Bindegewebe の肥厚増殖を伴ひ Elephantiasis の如くなる事もある。

部位 好發部位は Unterschenkel の前外側と足趾、足甲であるが、稀に Oberschenkel, Vorderarm, Hand und Finger に及ぶ事がある。後者の場合には數も少なく形も小さい。

病理解剖 結節は眞皮深層又は Subcutane Fettgewebe の動靜脈を中心として其周圍の限局性細胞浸潤で、Gefässwand も肥厚して屢々栓塞する。

Infiltration は主に Epitheloidzellen と Lymphocyten よりなるが、多く Riesenzellen を伴ひ käsige Degeneration も證明され、時に Tuberkelbacillen が證明される。

診断 1) Unterschenkel に好發すること 2) 硬結を作り壓痛を有し特異な煉瓦様着色を示し再發する事 3) 硬結が屢々 Ge-

schwür に變じ経過が慢性な事。

類症鑑別 硬結性紅斑 Erythema nodosum: 部位が類似するが経過が急速で發熱, 關節痛を伴ひ, 色も鮮紅色で疼痛がある。炎症症状も強いが決して Geschwür に陥らず Oedem を來す事もない。

療法 1) Röntgen, Ultraviolettstrahlen, と Tuberculin の intracutane Injektion を併用す。

2) Geschwür は Lysolbad を行ひ發生機は Jodogas を用ふ。

3) 又 Pityrol-, Euguform-, Jodoformsalbe を用ふ。

VI 結節状結核性靜脈炎

Phlebitis tuberculosa nodosa Dohi et Hashimoto

定義 Hautvenen の tuberculöse Infiltration に依り Haut に結節を生ずるものである。

症候 身體末梢部の淺在靜脈に一致して bohnergross, fingerspitzgross の結節を生ずる。周圍とは明劃に境し質は硬く時に strangartig に觸れる。之を bedecken する Haut は常色又は多少潮紅し, 結節と癒着する事と移動する事がある。急性に現はれる事と慢性に現はれる事があり, 急性の場合には發熱, 身體違和を伴ふ。

Verlauf も種々で數日で吸收されるものもあり又 永く存在するものもある。histologisch には Venenwand の tuberculöse Infiltration で屢々塞栓を伴ふ。常に内臓結核又は屢々 Erythema induratum Bazin に伴つて現はれる。

療法 Radium, Röntgen を用ひ Allgemeine Behandlung を行ふ。

VII 惡液性瘰癧 Acne cachaecticorum

定義 Kachexie の Kind に於て Blutbahn を介して Tuberkelbacillen の皮膚傳染を起し, disseminiert に全身に發する瘰癧様結核疹である。

症候 1) 初め暗紅色の小膿疱疹を發生し, 多く中心が軟化して茶褐色の痂皮を被むり其跡に淺在性の小潰瘍を作る。

2) Geschwür は Untermimierung を示し周圍に roter Hof がある。

3) 多く小兒を侵し屢々内臓結核を證明し又 Lichen scrophulosorum を併發するので, 往々發熱があり衰弱が著しい。

類症鑑別 1) 丘疹膿疱性微毒疹 Syphilis papulopustulosa: 周圍に浸潤が著明である。

2) 壞疽性丘疹状結核疹 Papulonekrotische Tuberculid: 常に乾燥し膿潰するは稀である。部位も四肢の伸側に多い。

3) 尋常性瘰癧 Acne vulgaris: Gesicht, Brust, Rücken とに局限し潰瘍を作らない。

療法 1) 日光浴, 海氣浴, 温泉浴, Lysol 浴

2) 潰瘍には Ultraviolettstrahlen の照射を行ひ, 沃度ホルム軟膏, クレーデ氏軟膏, Pitzrol 軟膏を貼布す。

3) 栄養に注意する。

VII 類狼瘡 Lupoid Baeck

定義 Cutis od. Subcutane Gewebe に tuberculöse Infiltration を生じ, Haut には粟粒或は結節又は扁平浸潤として現はれ, 決して軟化又は破潰しな

い稀有の結核疹である。

- 症候** 1) 初め Haut の軽度の Rötung, Oedematöse Anschwellung 及び軽度の Jucken と共に真皮深層又皮下組織に小結節を生じ、麻痺大(丘疹型)から胡桃大(結節型)に達し時に廣面の浸潤(浸潤型)を呈す。
- 2) 是等の Ausschlag は Hautniveau から扁平又は半球狀に隆起し、表面滑澤で淡紅色、鮮紅色、蒼紅色乃至赤紫色を呈す。次で退行期に入ると黄色又は黄褐色に變じ硝子壓により多少の着色を認める。
- 3) 又少しく Abschuppung を伴ひ、時に結節の中央が陥凹して擴張した Kapillaren を認める事がある。
- 4) 本症は決して軟化し Geschwür に陥る事はなく、永い経過の後に narbige Atrophie を貽して消散する。

部位 好發部は Gesicht, Interskapulargegend, Extremitäten であるが稀に全身に汎發することがある。

組織像 tuberculöse Infiltration が Bindegewebige Faserbündel により lappig に分界されてゐるのが特色である。

- 療法** 1) Röntgen, Radium, Ultraviolettstrahlen Kohlensäureschnee
- 2) Arsenpraeparat, Jodopraeparat, 金製劑

結核疹に類する組織像を示すもの

I 凍瘡狀狼瘡 Lupus pernio

定義 凍瘡に伴ふて發生する慢性の疾患で、暗紫色の局面を作り夏季に至つても消失しないものである。

- 症候** 1) Nasenspitze, Wange, Hand u. Fuss, Finger u. Zehe Ohrmuschel 等に初め冬期に蒼紅色又は暗紫紅色の境界明劃でな

い, infiltrierte Fleck を發生し, Oedem を來し稍硬く全く Pernio に一致する。

- 2) 溫暖の候に入つても消褪せず, Infiltration は深部に亘り表面には dilatieren した Kapillaren 又は Veren を認め, 中央は少しく萎縮陥凹するが軟化して潰瘍を作る事は極めて稀である。
- 3) 常に symmetrisch に來り Subjektive Beschwerde を缺く。
- 4) 通常大人殊に中年に多く, 一進一退數年に亘り時には浸潤が扁平板狀になり, 或は表面に高く tumorartig に隆起することもある。
- 5) 時として Periost, Knochensubstanz に變化を伴ふ事もある。

組織像 tiefe Schicht der Cutis 及び Subcutane Gewebe に scharf begrenzt の結節様又は束狀の Eptheloidzellen, Spindelzellen 及び僅かの Lymphocyten とからなる Zellinfiltration がある。Riesenzellen は時には多數存在し時には全く缺如する。

診断 1) 凍瘡状をなし夏季にも消褪せず。2) 軟化破壊しない

- 類症鑑別** 1) 尋常性狼瘡 Lupus vulgaris: 個有の Lupusknötchen を有し Geschwür を作る
- 2) 圓板狀紅斑性狼瘡 Lupus erythematosus discoides: 中央の narbige Atrophie が遙に著明で且つ周縁部には Hyperkeratose がある。
- 3) バザン氏硬結性紅斑 Erythema induratum Bazin: Unterschenkel に好發し著色なき結節もあり。自然に消失するものも多く又潰瘍を作るものもある。

- 療法** 1) Radium, Röntgen, Ultraviolettstrahlen
- 2) Pityrol, Glyteer の純液塗布。
- 3) 一般榮養療法

I 光澤苔癬 Lichen nitidus

定義 主として Penis の Haut に来る小丘疹で、表面光澤に富み決して變形せず又浸潤せず、炎症を伴わずに慢性に経過する一種の Granulom (肉芽腫)である

部位 陰莖の皮膚、龜頭、包皮内板が好發部位で、次に腹部、前膊、胸部、大關節屈面等にも現はれ、全身に汎發することもある。

瘡候 1) 刺針頭大の丘疹で、形は圓形又は不正形、扁平又は半球状に隆起し境界明瞭である。

2) 表面滑澤で象牙様光澤を帯び、色は健康皮膚色が多く時に淡赤色乃至黃褐色を呈し、周圍には毫も炎症々状を伴はない。

3) 時に軽度の落屑を示し、又丘疹の中央に小陥凹を認める。

4) 硬度は中等軟で硝子壓を加へると灰白色硝子様透明體として認められる。

5) Ausschlag は散在性又は集簇性に現はれ決して融合しない。

6) Haarfollikel と関係なく又一定の配列を示さない。

7) Subjektive Beschwerden を缺く

経過 1) 慢性で數年に亘る。

2) 20Lj 代の青年に多い。

3) 自然に消滅することもあるが再發し易い。

組織像 真皮上層に位する tuberculöse Zellinfiltration であるが決して Käsig Degeneration を呈しない。結核菌も證明されない。

鑑別 1) 扁平紅色苔癬 Lichen ruber planus: Papel が大きく光澤は鈍く紅色又は紅褐色で癢痒があり、融合して局面を作る。

2) 青年性扁平疣贅 Verrucae planae juveniles: 多く褐色を呈し、融合し形も半米粒大に達す、光澤なく中央の陥凹なく部位も異なる

療法 Röntgen, Radium

II 環状肉芽腫 Granuloma annulare (Radcliffe Crocker)

定義 硬い丘疹を發生して屢々環状の配列を示し、entzündliches Zeichen を缺く一種の慢性肉芽腫である。

瘡候 1) Primärefflorescenz は stecknadelkopfgross から erbsengross に至る rundlich 又は polygonal の扁平な小結節で、表面は平滑に色は象牙様蒼白色又は帶赤白色を呈し、周圍とは可なり明瞭に境す、硬度は硬く時に軟骨硬に至り下層とはよく移動する。

2) 此 Primärefflorescenz が擴大して豌豆大乃至直徑數釐に達すると、中央は周圍から稍陥没し少しく軟かになり色も健康皮膚色、紫赤色乃至帶褐赤色となり少しく萎縮状を呈するに至り、周縁部に原疹の性状を留めるから従て數釐の幅を有する輪状を呈する。是が本症の特徴である。併し初めから輪状の配列をなして發生する場合もある。

3) entzündliche Rötung なく、subjektive Beschwerden も缺如する。

部位 好發部位は手背、手指の伸側並に側面で次に足背に多い。

経過 幼年期にも來るが青年期に最も多く、突然に或は徐々に始まり、其後の Verlauf は甚だ慢性で一旦消失しても再發する事が屢々である。

組織 1) 真皮の中層及下層に Epitheloidzellen の浸潤があり中に polynukläre Leucocyten, Riesenzellen, Mastzellen, Plasmazellen を混じ、周圍には Lymphocyten がある。

2) Zelleninfiltration の中心は時に壞死に陥る。

3) Blutgefäss, Haarbalg, Schweissdrüsen の周圍にも浸潤があり Blutgefäss では内被細胞の肥厚及内腔閉塞するものを見る。

診断 蒼白色、環状の配列、硬度。

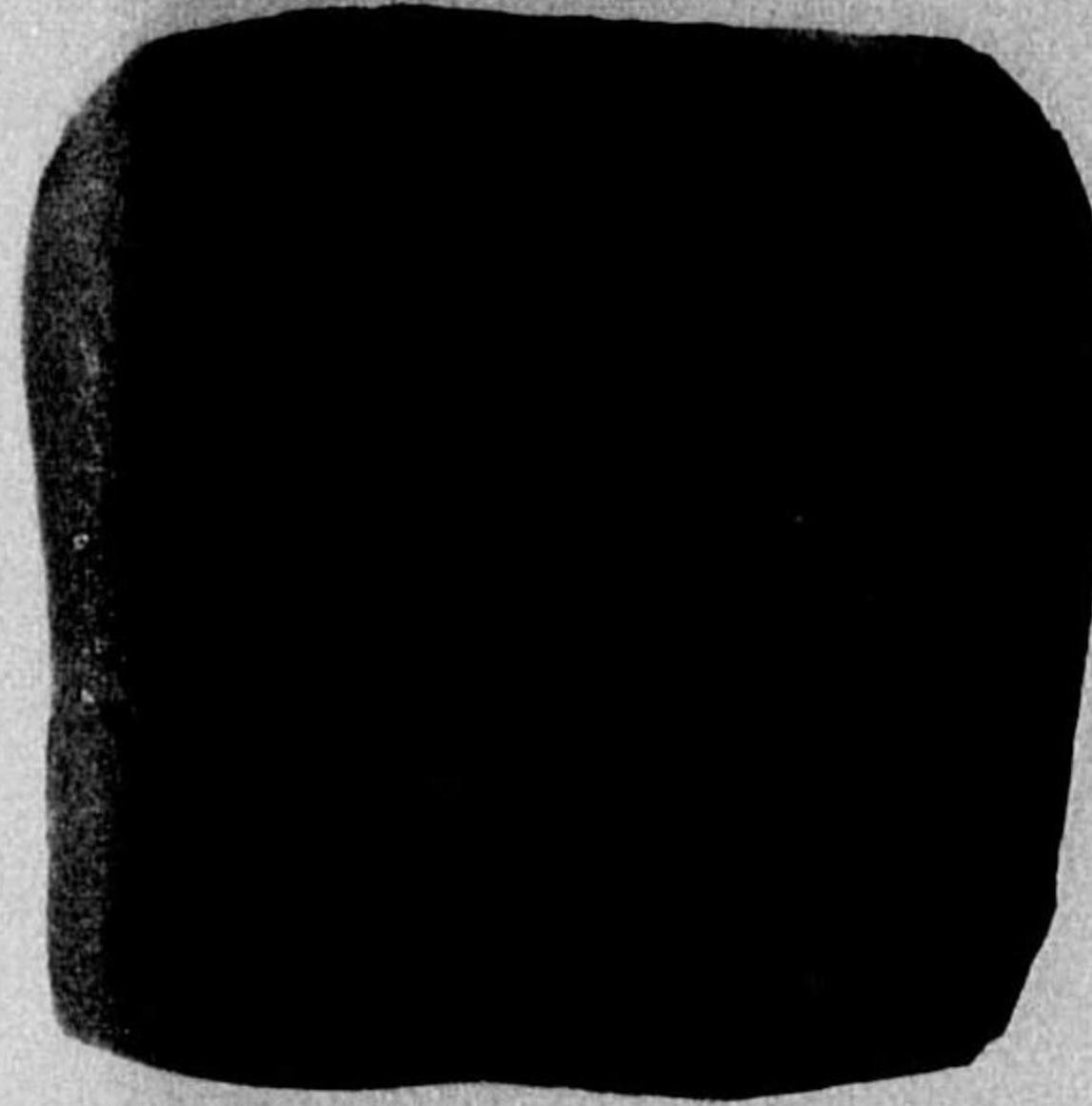
鑑別 1) 紅斑性狼瘡 Lupus erythematoses: 潮紅腫脹した邊縁、固

- 著した鱗屑及び鱗屑表面の角性小突起で容易に鑑別される。
- 2) 扁平紅色苔癬 Lichen ruber planus: 色を異にし粘膜を侵し, histologisch には全く異なる。
 - 3) 壞疽性丘疹狀結核疹 Papulonekrotische Tuberculid.: disseminiert に Extremitäten の Streckseite 及 Gesäss に好發し, 色は紅色で roter Hof があり, 中心軟化して膿瘍, 痂皮を作り, 後に小瘢痕を残す。
 - 4) 類狼瘡 Lupoid Boeck: 屢々局所の突發的 Oedem und Rötung を以て始まり, 退行變性に陥る時は軽度の Abschuppung と Pigmentation を伴ひ, narbige Atrophie を來す。histologisch には Infiltration は scharf begrenzt で Käsig Degeneration はない。

療法

- 1) Resektion
- 2) Röntgen, Radium, Mesothorium, Kohlensäureschnee
- 3) Tuberculin, Arsenpraeparat.
- 4) 水楊酸軟膏, Ichthyol, Resorzinsalbe, Quecksilberempflastra

第十九圖



惡液性瘰癧
Acne cachecticorum

第二十圖



バザン氏硬結性紅斑
Erythema induratum Bazin

第二十一圖



結節狀結核性靜脈炎
Phlebitis tuberculosa nodosa

第二十二圖



斑紋癩
Leprosy maculosa

第八章

癩 *Lepra, Aussatz*

定義 *Lepra* とは Hansen 氏が 1871 年に発見した *Bacillus leprae* 癩桿菌の傳染に因つて起る *Chronische entzündliche Infektionskrankheit* で, *Haut, Nerven, Knochen, Muskel, Eingeweide* を侵し, 斑紋・結節・麻痺・萎縮等の病變を呈するものである。

病毒侵入の門戸は猶明かでない, *Inkubation* も不明であるが數年を要するものとされてゐる。且てハワイのサントウツチ島で死刑を受くべき囚人に *Leprabacillen* を含んだ組織 *Emulsion* を注射したところ四年後に至つて重症の癩症狀を呈した例がある。

Lepra を結節癩 *Lepra tuberosa* と神經癩 *Lepra nervorum* とに大別する。但し兩者の混合したものもあり, 之を混合癩 *Lepra mixta* と呼び相互に移行する事もある。殊に *Lepra nervorum* は末期に屢々 *Lepra tuberosum* に變ずる。又神經癩中斑紋形成を主とするものを斑紋癩 *Lepra maculosa* として區別することも多い, 其他 *Lepra anaesthetica, Lepra maculoanaesthetica* に區別する事もある。

前驅症狀 何等の *Prodrom* を伴はぬものも尠くないが, 數年に亘り異和・倦怠・食思不振・下痢・衄血・鼻腔乾燥・精神沈鬱・不眠・輕熱が持續することもある。

又最初 *Gesicht* 又は *Extremitäten* に蟻走感, 感覺鈍麻があり, 或は眉睫の脱毛することもあり, 若しくは額際の毛髪が稀疎になると共に前額又は頬の邊りに境界不明の潮紅が現はれ數ヶ月數年に亘つて存

在する事がある。

以上が Lepra の初期で次で typisch の Symptome を呈して来るのである。

I 神経癩 *Lepra nervorum*

1) Gesicht, Extremitäten, Rumpf に散在性に斑紋 (*Lepra maculosa*) を生ずる。

此斑紋は類黄紅褐色で、形も大きさも数も不定であり、境界も明瞭なるものと然らざるものとある。殊に邊緣部に浸潤が著明で皮膚面から隆起して *Eczema marginatum* に似てゐるものもあり、周縁部が著色濃厚なるものあり又は皮膚と同高或は全體が扁平に隆起してゐるものもある。此斑紋は終には消失するのが常で、此際跡に痕跡を止めぬ事と、其部分の Haut が萎縮に陥り落屑を起し又は Pigmentation 或は色素脱失 (*癩性白斑 Leucoderma s. Vitiligo leprae*) を來すことゝある。此等の變化も多少の間存在して後には消える。

此斑紋は一定の神経に局限して現はれるものでなく神経の分布と一致しない、尙斑紋部には知覚麻痺又は Analgesie がある。

2) 斑紋の發生と同時に Hautnerven の Verdickung がある、殊に N. auricularis magnus 大耳神経、N. ulnaris 尺骨神経 N. medianus 正中神経、N. peroneus 腓骨神経、N. supraorbicularis 上眼窩神経等に紡錘状、結節状又は圓壘状の硬結を觸れる。此等の神経に觸れると却て知覚過敏を呈することがある。又自發痛を訴へることもある。

5) *Lepra nervorum* の Hauptsymptome は Anaesthesia である故に又 *Lepra anaesthetica* と云ふ。

其 Anaesthesia は必ずしも一定の Nerven に沿うて起らず身體の隨所に發生する。斑紋萎縮の部位には多く之を伴ふが、又外觀に何等の異常のない部位にも起り得る。

知覚異常は温覺・觸覺・痛覺の一部の障碍の事もあり、或は其全部が消失する事もある。多く初めは Analgesie を來し易い。

又單に Haut のみに此等の神経領域に知覚過敏の存する事があつて時に患者は斷續性に疼痛を覺え又屢々指趾の末端に「ビリビリ」する Disaesthesia 異常感覺を訴へる。

6) 同時に trophische Nerven が侵され Haut に Blase (*癩性天疱瘡 Pemphigus leprosus*) や Geschwür (*癩性潰瘍 Ulcus leprosum*) を發生する事も屢々ある。

Blase は四肢の末梢の健康皮膚面に突然發生し、bohnergross bis hühnereigross に及び、破れて Erosionsfläche を露出するが間もなく epidermisieren する。

Geschwür は Blase や Trauma に續發し疼痛を缺く。比較的よく癒合するが又時としては極めて弛緩性の Granulation を生じ、頑固で深部に進行して筋骨を侵し、爲に甚だしい時には指趾節の斷落する事がある (*斷節癩 Lepra mutilans*) 又何等外傷を伴はずに骨質が吸収されて指趾の短縮を來すことがある。

Muskel の trophische Nerven が侵されると手足の筋肉の Atrophie を起す。即 Daumenballen, Kleinfingerballen 及び M. interosseus の Atrophie に因り、手は扁平となり Affenhand 猿掌を來す。毛髮の脱落 (*癩性脱毛症 Alopecia leprosa*) 色素の脱失 (*癩性白斑 Leucoderma leprosum*) も共に其部の trophische Nerven の Störung に因る

motorische Nerven が侵されると顔面の表情が消失し或は四肢が麻痺して運動障害が起る。

- 7) Endstadium には Haut の Infiltration が増加し殊に Gesichtshaut 及び Kopfhaut に著しく, Lepra tuberosa と同様になり浸潤のために毛髪も脱落するに至る (Alopecia leprosa 癩性脱毛症) 特に眉毛, 睫毛の脱落が顯著である。

I 結節癩 Lepra tuberosa

Leprabacillen のために結節性の浸潤を生ずるものである。

- 1) 結節は halbkuglich 又は platt に Hautniveau より隆起し, elastisch weich で gelblich-bräunlich 又は rötlichbräunlich の色を呈し表面は一種特有の油状の光澤を帯びてゐる。時としては其収縮に傾く際には落屑を呈し, 又は血痂を被むる事がある。Grösse は種々で其發生状態は zerstreut に或は disseminiert に或は gruppieren し, mohnkorngross から bohnergross (丘疹性癩 Lepra papulosa) 或は taubeneigross から hühne-reigross に及ぶ。大なる結節では中心屢々 Geschwür (Ulcus leprosum 癩性潰瘍) を作る。此場合の Geschwür は Lepra nervorum の場合と同様に schmerzlos で Rand は鋭利であり Granulation の色は甚だ atonisch, anaemisch で汚穢の灰白色を呈し稀薄な膿漿を分泌する。

結節が潰瘍に陥らずに長く存在すると Pigmentierung と Haut の Atrophie を遺して終には吸収される。此時往々癩菌が多量に血管内に吸収される結果として Erythema 又は Knoten を全身殊に四肢に汎發する事がある (癩性結節性紅斑 Erythema nodosum leprosum)

- 2) Lepra tuberosa の好發部位は Gesicht で, 結節が密集する爲に diffus の Infiltration を來し, 爲に Stirn には横に細い Falte を作り眉毛, 睫毛も脱落して所謂獅子面 *Facies leontina* をなす。時に眼瞼・鼻翼・口唇・頤部・頬部に及んで結節が簇生し, 甚だしい時には Nasenschleimhaut, Rachenschleimhaut, Kornea 等が侵される事がある。
- 3) Lepra tuberosa でも早晚 Nerven の肥厚浸潤を來し知覺及運動麻痺をも發生する。

経過 多く青年時代に發病するが幼年にも發し, 又 70I.j. 以上に至つて始めて症状を呈するものがある。

Lepra nervorum は數年, 數十年の生命を保つものがあるが Lepra tuberosa は之に比し重症である。

Todesursache は Eingeweide に lepröse Infiltration を來し爲に Funktionsstörung を來すによる。又 Tuberculose, Pneumonie, Nephritis, Sepsis, Erysipelas 等の Komplikation で斃れる事も多い。

明治 31 年から昭和 5 年に至る 33 年間の東大皮膚科に於ける統計に據るに。此間に於ける患者總數 224243 人中癩患者は 6693 人で即 2.98% を占めた。其内初發年齢は 21-30I.j. に最も多く, Lepra maculosa が最多數を占め, 以下 Lepra nervorum, Lepra tuberosa, Lepra mixta, Lepra mutilans の順位を示した。即最も多く見る症状は四肢顔面に於ける知覺異常, 脱失, 麻痺, 斑紋であつた。現在に於ては Lepra maculosa をも合せた Lepra nervorum が大多數で 89% を占め, Lepra tuberosa は 15%, Lepra mixta 5% と云はれてゐる。高年に至るに従て Lepra tuberosa の百分率が増加する。

我國に於て Lepra が血族間に多いのは統計上に據つても事實であるが,

是は家族傳染に因ると同時に、宛も彼の Tuberculose に於ける如く Lepra に感染し易き素質の遺傳に因るものと考へられて居り Syphilis の如く angeboren に Erreger の胎兒移行は多く否定されてゐる。

病理解剖

Haut の癩組織(結節)は Cutis u. Subcutis の circumscripte Rundzelleninfiltration で其中に Leprazellen と Globi 癩球とを含む。

Leprazellen は Bindegewebszellen が變化したもので Leprabazillen が侵入して時には Riesenzellen の状をなし、或は Protoplasma 内に Vacuolen 泡を生じ Vacuolenzellen とも云ふ。

癩球 Globi は Lepra-bazillen によつて充填された Lymphgefäss 又は Lymphraum である。

Leprabazillen は其他 Bindegewebe, Blutgefäss, Lymphgefäss, Nerven, Schweißdrüsen, Talgdrüsen 到る處に存在する。

然し Lepra maculosa の斑紋部では單に entzündliche Infiltration を認めるのみ多し、此處に Leprabazillen を證明する事は困難である。

診 断

- 1) 淺在性及深在性知覺脱失
- 2) Verdickung der Hautnerven, Atrophie der Muskel.
- 3) Depigmentation der Haut.
- 4) Ausschlag
- 5) Alopecie
- 6) Leprabazillen を證明すれば決定的であるが是は Lepra tuberosa に於てのみ容易である。又近時比較的早期に睪丸實質内に癩菌が證明されると唱へるものがある。

癩症鑑別 1) 脊髓空洞症 Syringomyelie: 知覺麻痺, 筋萎縮は神經の一定領域に限局し發疹を生ぜず又 Nervenverdickung がない。

2) Syphilitid, Lupus vulgaris, Lupus erythematodes, Eczema marginatum には知覺麻痺, 神經肥厚がない。

3) 護膜腫 Gumma Lepra tuberosa と酷似するが kupperrot を呈し, 知覺麻痺, 神經肥厚なく癩菌を證しない。

療 法 1) Oleum Gynocardiae 大楓子油

等量の Olivenöl と和し滅菌し 1.0-5.0-10.0 を一週 2,3 回臀筋内に注射する。

或は丸薬とし又は牛乳と混じ一日 0.5 から漸次増量して内服す。其他の大楓子油製劑, 例へば Unna 氏の大楓子油曹達又は下山博士の Leprol (1日 1.0-3.0) も用ひる。

大楓子油は殆ど特效薬とも謂ふべきで麻痺を恢復し結節癩の浸潤を吸収せしめる。但し數年十數年に亘つて治療を持續しなくてはならない。

1) 1% 昇汞水の注射 (隔日 1c.c)

撒曹の内服 (1日 1.5)

沃度の注射

3) 局所療法: 結節の切除, 焼灼, 腐蝕。

4) 豫防法として癩患者の隔離

諸國では是によつて殆ど癩患者の跡を絶つた。即 1856 年には 25 98 人, 1902 年には 243 人, 1925 年には 10 人餘になつた。

第九章 絲狀菌性疾患

Dermatomycosen

絲狀菌病 Dermatomycozosis とは Fungi imperfecti 目中の絲狀菌 Hyphomycetes の寄生に因て發生する一種の傳染性皮膚疾患の總稱である。絲狀菌は菌絲 Hyphen, Mycelien を有し之から芽胞 Sporen 又は Aleurie を生じて蕃殖する。

Mycelien には長短、細太があつて單幹なるもの、分岐するもの、或は無節のもの、有節で Septum を有するもの、直走するもの、複雑に彎曲するもの等がある。

Sporen にも唯 Mycelien が分節遊離して生じ (Thalospore), 又は菌絲の兩側に有莖又は無莖の外芽胞 (Aleurie) として生じ、或は菌絲内に内生芽胞 Chlamidospor として發生する。其形状・大小・顆粒の有無等も菌の種類によつて異なる。

其他尙特殊の器官として螺旋狀器官 la vrille, la spirale, 結節狀器官 l'organe nodulaire, 紡錘狀器官 Fuseau, 櫛狀器官 l'organe pectiné ou denticulé 等がある。

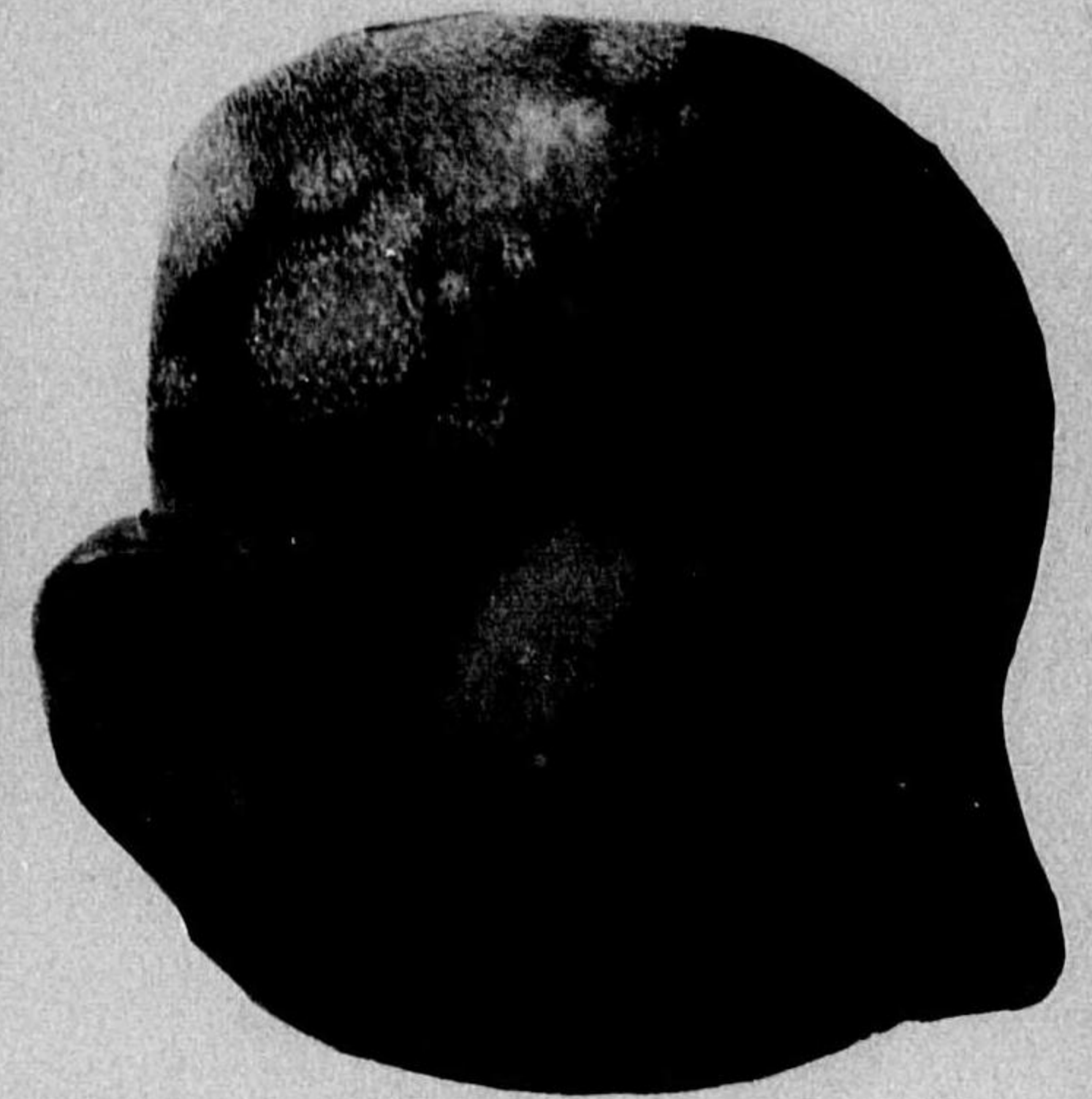
此等菌絲及び芽胞の性状は、菌の培養の性状及動物試験と共に菌種の決定に重要な意義を有するものである。培養の性質も菌によつて著しく異なり白色絨毛状をなすあり、粉末状を呈するあり、眞田紐を以て編んだ紐に唯するがあり、或は周縁に星芒状の突起を生じ、或は中心噴火孔状に陥没する。又培養の色を異にするのみでなく培養基を猩紅色に又は臙脂色に着色するあり、或は毫も培養基の變色を招かざるものもある。

第二十三圖



結節癩
Lepra tuberosa

第二十四圖



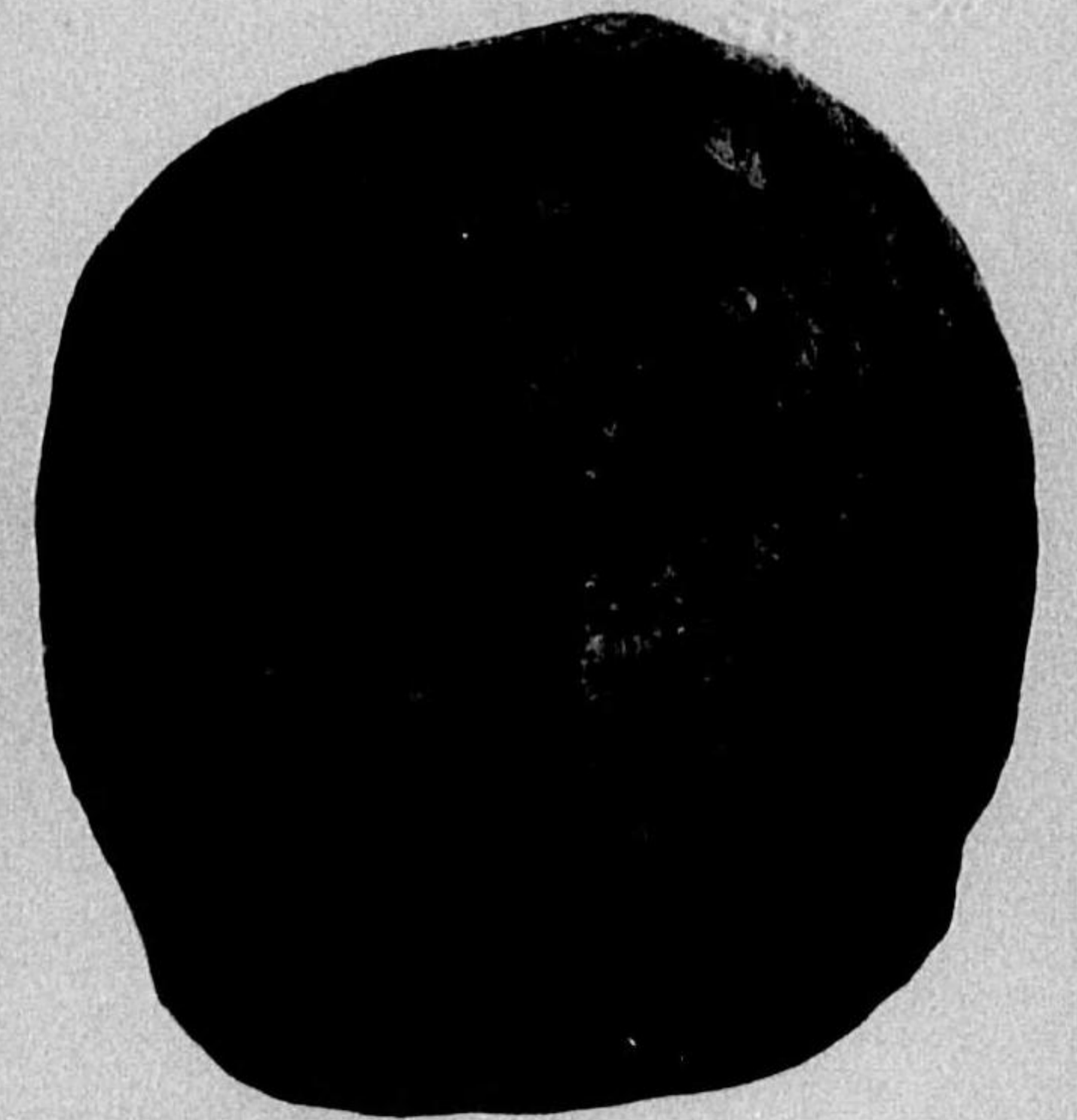
頭髮白癬
Trichophytia capillitii

第二十五圖



黃癬
Favus

第二十六圖



黃癬
Favus

各種の絲狀菌病は各特異の絲狀菌によつて生ずるものであるが、同じ絲狀菌病の病原菌にも亦種々の變種があり、此分類は近時非常の進歩を遂げたが尙將來の研究に俟つべき點が多く残されてゐる。

絲狀菌の顯微鏡的検査法 Mikroskopische Untersuchung der Hyphomyceten.

鱗屑、毛髮、爪甲又は膿汁を用ひて絲狀菌を證明し或は其性状の檢索を行ふには、先づ患部を Alkohol を以て十分に清拭した後、鱗屑、毛髮、爪甲を採つて Objektglass に載せ 20—30% KOH を加へた後 Deckglass を以て蔽ひ、10 分間程して鱗屑の溶解するを待つて或は軽く火焰上に熱して檢鏡するのである。

Kultur der Hyphomyceten 絲狀菌の培養

Nährboden には一般に弱酸性加糖寒天培養基が用ひられる。

サブロー氏の培養基は

Maltose od. Glycose	4.0
Pepton	1.0
Agar	1.8
Aqua	100.0

の割合を以て製したものである。

又 Kolonie の状態のみならず其發育の状況を觀察するには懸滴培養 Tropfen-kultur を行ふのである。其方法種々あるが

リンドネル氏法は培養基を溶解し（或は加糖ブイヨン）其一滴を Deckglass に滴らし其乾涸するのを待つて培養聚落の微小一片を其一端に附着せしめ之を Hohlobjectglass の凹窩に向けて安置し三方を蠟を以て固着せしめる。此 Hohlobject を少量の水を入れた Petri の Schale 中に兩端に木片の臺を置いて靜置し蓋を覆ふて置くのである。

毎日之を顯微鏡下に検査すると菌絲、芽胞或は特殊器官の發育狀況を詳に觀察する事が出来る。

I 黃癬 Favus

定義 Achorion Schönleinii, Achorion Quinckeanum 等に因りて起る頭部及び鬚毛部の寄生病で黄色の菌塊を作るを特徴とする。

症候 1) 主に behaarter Kopfteil を侵し稀に爪甲及鬚毛部に發生する。

2) 本症の特徴は **黃癬菌甲 Favus-Scutula** を形成することである。是は Haarschaft を中心として生ずる黃癬菌の純聚落で、初めは角層中にある故黄色の小點として現はれ漸次擴大して角層を破ると、毛幹の周圍に釘頭大から扁豆大に達する硫黄色の固い Kruste となる。其形は圓形で、中心は毛囊口に固着し邊緣は表皮から遊離して皿狀をなす。之を **黃癬體 Favus Körper** と云ひ鼠矢に似た臭氣を有す。

3) 初めは頭部の一部に限局して散發するが、漸次周圍に蔓延擴大して相互に相融合し、遂には全頭部に擴がる。此時には黃癬菌甲は淡黄灰白色を呈し、毛髪は光澤を失ひ且つ容易に脱落する。

4) Favusscutula の下の Haut は潮紅し後には萎縮して黃癬癩痕 Favusnarbe をなし、終には多數の Narbe が融合して廣い禿頭を來す。此時にも邊緣部には特異の菌甲を證明し得られる。

5) 経過が慢性なるために屢々 Eczema, Impetigo を併發する。

6) 大抵 7-8Lj の男兒に發生し、極めて慢性に経過して時に十數年に及ぶ事あるも、思春期になると多く自然に治癒する。

全経過に於て subjektive Beschwerde は殆どなきか又は軽度の Jucken を伴ふのみである。

7) **鬚毛部黃癬** は初め Bläschen を作り、又は潮紅落屑し其後に固有の Favus-Scutula を生じ、或は初めから黃癬菌甲を生ずる。多くは限局するが稀には全身に散發することがある。頭部黃癬に比し治癒し易く、且つ其後に Narbe を留めない。

8) **爪甲黃癬 Onychomycosis favosa** は爪甲に小黃點として初發し、爪甲の肥厚、潤濁、粗糙、凹凸、不平等の變形を招き、頑固に治療に抵抗する。

診斷 1) 硫黄色貝殻狀の菌甲

2) 癩痕様萎縮及脱毛

3) 爪甲の變化

4) 黃癬菌の證明

爪甲を採り Objektglas の上で少量の水又は Glycerin を加へて破碎して檢鏡すると有節分岐した短い Mycerien と圓形又は橢圓形の Sporen (Aleurie) を證明する。

類症鑑別

1) 頭部白癬 Trichophytia capitis: 鱗屑白色で菌甲なく毛髪は斷裂するが癩痕を作らない。

2) 圓形禿髮症 Alopecia areata: 鱗屑なく癩痕を作らず

3) 脂漏 Seborrhoe: 鱗屑軟かく脂肪に富み灰白色である。又 Narbe を作らない。

4) 紅斑性狼瘡 Lupus erythematodes: 邊緣赤く特異の鱗屑を作る。

療法 1) 1% 石炭酸油, 2% サルチル酸油を塗布し、先づ Scu-

tula を軟化させた後加里石鹼で温湯を用ゐて洗滌し、次に Jodotink, 1% Pyrogallolsalbe, Teerpasta, Wilkinson 氏膏を塗擦す。

2) 患部の毛髪を除去する事は最も必要である。之には Röntgen 線を用ひ或は醋酸タリウム Tallium-acet. を用ひる。其用法は體重 1kg. につき 0.008 の劑に頓服させ或は軟膏として局部に貼用する。

3) 黄癬菌 Vaccin, Favin も用ゐられる。

4) 後療法には

Rp. Epicarín	エピカリン	2.0—5.0
Acid. Salicyl.	サルチル酸	2.0—5.0
Resorzin	レゾルチン	2.0—5.0
Spirit	酒 精	100.0

II 白癬 Trichophytie

定義 白癬 Trichophytie とは白癬菌 Trichophyton 及其類似の菌に因て起る Hautkrankheiten の總稱である。

之に菌の侵す部位の深淺によつて淺在性白癬 Trichophytia superficialis と深部白癬 Trichophytia profunda とを大別し、更に其症狀によつて數種に區別される。

A] 淺在性白癬 Trichophytia superficialis

1) 頭髮白癬 Trichophytia capillitii

異名 小芽胞菌癬 Microsporie, 斷髮梅毒 Herpes tonsurans capillitii, しらくも

症候 1) behaarter Kopfteil に scharf begrenzt の rundlich, grau weisslich の abschuppende Flecke として現はれる。

2) 患部の毛髪は正常の光澤を失つて塵埃に汚染した如き外觀を呈し、稀疎になり或は斷裂し或は皮膚中に埋没する。又僅に残存するものは其根を包んで鞘狀に鱗屑が附着し、毛髪は細弱となり引けば容易に脱落する。或は稀に毛髪の毫も侵されないこともある。

3) Schuppen は時に甚だ厚くして白色の事あり、又は薄く灰白色で枇糠様の事もあり、又時には殆ど之を缺如する事さへある。

4) Schuppen の下は乾燥するのが常であるが時に少しく潮紅し多少濕潤する事もある。殊に病勢の強いものに於ては邊緣部が少しく潮紅し此處に小丘疹、小水疱、小膿疱、痂皮を見ることがある。

5) 病竈の數は 1—2 個の事あり又數十に及ぶ事がある。斯る時には互に融合して手掌大以上或は全頭部を被ふに至る事さへある。

6) 本症は主に小兒に來るものであるが、稀には大人にも發生して Eczema seborrhoicum に似た Symptome を呈する。即ち後頭又は前頭の髮際部、側頭部等に來り、時に枇糠様の落屑甚だしく極めて頑症ではあるが小兒に於ける場合の如く毛髪自體が侵される事は比較的稀である。之を脂漏性白癬 Trichophytia seborrhoica と云ふ、余の經驗にては此際指掌背面に同時に Trichophytia eczematosa を證明する事が多い。

7) Subjektiv には輕度の Jucken を伴ひ、或は全く之を缺く。

診斷 頭部に於ける限局した圓形灰白色の鱗屑面、毛髪の変化、糸状菌の證明、

類症鑑別 1) 頭部秕糠疹 *Pityriasis capitis*. 中年以後に發するもので、前頭及顛頂部に發し、散漫性で境界明劃を缺く。

2) 脂漏性濕疹 *Eczema seborrhoicum*: 境界は明劃であるが毛髮に變化なく且つ脂漏性の鱗屑を有す。

3) 圓形禿髮症 *Alopecia areata*: 患部全然無毛に陥り又落屑はない。

4) 黃癬 *Favus*: 皿狀黄色の黃癬菌甲を有し、後に癩痕性禿髮を止める。

5) 鱗屑癬 *Psoriasis vulgaris*: 鱗屑厚く乾燥して銀白色を帯び、周圍に著明の紅暈を有す。毛髮は侵される事なく身體他部に同症を證明する。

2) 顔面白癬 *Trichophytia facialis*

症候 1) 概ね *Trichophytia capitis* に續發するが又單獨に來る事もある。俗に「はたけ」と呼ぶのは是である。

2) 顔面に境界明劃な大小形狀種々なる色素減退斑として生じ、其表面に輕微の且つ細小なる落屑を有す、此落屑中には *Trichophyton* が證明される。

3) *Subjektiv* には輕度の *Jucken* を訴へるに過ぎない。

4) 以上の他青年性顔面皮膚絲狀菌症 *Dermatomycosis faciei juvenilis Dohi* 俗に謂ふ「おしろいたむし」がある。

本症は多く煉白粉が原因で妙齡の婦女に來る。輕微の癢痒を伴ひ稍々限局した *abschuppende Fläche* を生じ、終には皮膚粗糙となり、白粉のつきが悪くなる。或は *Jucken* のため搔破して *Ec-*

zema papulosum を伴ふ事がある。

類症鑑別 1) 白癜風 *Vitiligo vulgaris*: 色素全然脱失し落屑がない。

2) 癩性白斑 *Leucoderma leprosum*: 知覺異常を伴ふ。

3) 鱗屑性濕疹 *Eczema squamosum faciei*: 境界明劃を缺き多少の潮紅があり丘疹又は濕潤面を伴ひ易い。

3 斑狀白癬 *Trichophytia maculosa*

症候 1) 皮膚毳毛部に發生する *Trichophytie* で初めは粟粒大、麻實大の紅疹を生じ數日内に擴大して扁豆大、一錢銅貨大或は兒掌大にも及ぶ圓形の紅斑となる。

2) 此時に視ると邊縁は暗紅色で、皮膚面から少しく隆起し其上に小水疱を認め、尙水疱の破開した水疱膜、痂皮又は鱗屑を存する。
(小水疱性斑狀白癬 *Trichophytia maculovesiculosa*)

或は邊縁に主として膿疱を示す (*Trichophytia maculopustulosa*) 病菌の毒素が弱い時には單に紅斑と落屑を呈し (*Trichophytia maculosquamosa*) 或は單に紅斑のみに止まるもある

(*Trichophytia erythematosa*)

3) 一般に周圍に波線を描いて増大し、邊縁部は常に病勢最も旺んで著明に上述の性状を示し、中心は追々消褪して淡紅色又は常色になり秕糠様の落屑を示す。

4) 此病竈は多く圓形又は橢圓形であるが、時には不正圓形をなすこともあり、數は卒ね數個に出でぬが時として菌の毒性が強ければ自家傳染によつて蔓延して數十個に及ぶ事がある。

5) Ausschlag は常に Jucken を伴ひ、患者は之が爲と美容上醜形の爲に苦む。

6) 経過は病菌の毒力によつて左右され、又發生する時も毒性強いものでは旬日内に全身に散發することがある。大概數週又は數ヶ月で病機衰へ色素沈着を残して消失し、或は更に長く存在して頑癬に變じ十數年に亘つて治しないものもある。

7) 鱗屑中には常に容易に Trichophyton を證明し得られる。

部位 頸部、手甲、前膊等の露出部に原發する事が多く稀に陰股部、腋窩、胸腹部に初發することがある。

診断 1) 淡紅色の圓斑で周邊部に炎症症狀が著明なこと 2) 周縁が微かに波線を描いて遠心性に擴大すること 3) 明割なる境界 4) Fadenpilz の證明。

類症鑑別 1) ジベル氏薔薇色枇糠疹 Pityriasis rosea Gibert: 多發し不正橢圓形で水疱を形成せず、着色も淡く且つ絲狀菌を證明しない。

2) 環狀丘疹黴毒 Syphilis papulosa annularis: 丘疹集簇して輪狀をなし浸潤があり、銅紅色で水疱形成なく癢痒も缺く。

4 頑癬 Eczema marginatum, 輪廓狀濕疹性白癬 Trichophytia eczematosa marginata

定義 頑癬は元 Epidermophyton inguinale 鼠蹊表皮菌によつて起る白癬病なりと考へられたが、我邦に於ける研究は其必ずしも然らずして普通見る Trichophytia maculosa と同一種の白癬菌に因て多く起る事が證明された。唯臨床上前記の斑狀白癬に比し症狀軽く

而も極めて慢性の経過をとるものを頑癬と呼ぶのである。

部位 大腿内面、陰囊、陰脣附近、或は乳房下、腋窩、肘窩、膝關節等濕潤し易き部位に好發す。

症候 1) 初めは一個の漿液性の紅疹又は紅斑として發生し、漸次擴大するか、或は初め散在性に發生し漸次周圍に擴大すると同時に其數も増加し互に融合して一つの局面を作る。

2) 此局面の境界は極めて明割で、周縁部は周圍の健康皮膚面から堤狀に隆起して潮紅し浸潤があり、其處々に赤色丘疹、小水疱、小膿疱があり又血痂、鱗屑を帯びてゐる。

3) 病竈が擴大する時外縁部のみ此性状を示し、中央部は全く健康皮膚の外観を呈し、或は再び此處に發疹することもある。又常に激烈な癢痒のため旺んに搔破し且つ菌も深部を侵す結果中央部の皮膚は浸潤肥厚して汚穢暗褐色を呈するに至る。

4) 一般に皮膚の両面が相接觸する部位では病狀頑固で、冬期には症狀減退するが春暖の候になると再び紅疹を生じ癢痒加はり、漸次蔓延して手掌大、盆大更にそれ以上に擴大する。

余は陰股部に初發し腹背、腰部より更に胸部、頸部を経て顔面頭部にまで及んだ例も經驗した。

類症鑑別 1) 紅色陰癬 Erythrasma: 境界は明割であるが病竈は平等に桃色を呈し、癢痒も軽く邊縁部が頑癬の如く特に隆起しない。

2) 慢性濕疹 Eczema chronicum: 境界明割を缺き濕潤し易い。

5 汗疱状白癬 *Trichophytia pompholyciformis*

定義 手掌，足趾の白癬で其状汗疱に類するものである。

症候 1) 手掌，足趾に原發し，或は最も屢々常に濕潤し易き指趾の間に初發す。之を特に**指趾間白癬** *Trichophytia interdigitalis* と云ふ。

其他掌窩，足穹窿部から始まる事もあり，側面を傳はつて指趾の背面にも及ぶ。

2) 固有症状は之を三期に分つことが出来る。

i) 落屑期 *Abschuppendes Stadium*

Hornschicht が薄く葉状又は枇糠様に *abschuppen* し或は巾着形を呈し其部位は稍限局する。自覺症状は全然之を缺くか又は輕微な癢痒を伴ふのみである。

此状態のまま寒冷の候に消失し，發汗旺んな温暖の候に再發し數年を経る事があり，或は其儘治癒し或は更に進んで第二期に入る。

ii) 丘疹期 *Papulöses Stadium*

erstes Stadium 即 *abschuppendes Stadium* に續發し，或は初めから丘疹を以て始まる事もある。

淡紅色の粟粒大又は麻實大の緊張した *Seropapel* で散發し或は密生す。此時期には癢痒が劇烈で搔破するために漿液を洩して紅い糜爛面を露はし，其糜爛面を熟視すると數個の針頭大の小窩が認められる。

iii) 濕疹期 *Eczematöses Stadium*

丘疹期の陳舊のものでは *Blasenbildung* が皮膚の深層に於て

第二十七圖



小水疱性斑状白癬

第二十九圖 *Trichophytia maculovesiculosa*



汗疱状白癬
Trichophytia pompholyciformis

第二十八圖



濕疹性白癬
Trichophytia eczematosa

第三十圖



汗疱状白癬
Trichophytia pompholyciformis

始まる故に其表面に近づく時には既に Pustel に變じ、周圍に紅暈を生じ疼痛を來すことがある。此丘疹を年々同一部位又は其附近に發生して數年を経過することがあり、或は Abschuppung Papel, Pustel が相混じり且つ劇烈な癢痒に苦しんで絶えず搔破する結果、濕潤して eczematös になる。即濕疹期で之を濕疹狀白癬 *Trichophytia eczematosa* と云ひ本症の極期である。此濕疹狀白癬は境界明劃であるが *Eczema marginatum* の如く邊縁が隆起する事はない。

3) 指趾間白癬 *Trichophytia interdigitalis*

初め指趾の間に Abschuppung を生じ次には此部位に Papel 又は Blase を生じ、表皮が白く軟化して厚く巾着形に剝離し、其下には Erosion と Rhagaden とを生じ、一種の惡臭を伴ふ。屢々 *Lymphangitis acuta*, *Panaricium* を續發し深い潰瘍をなす事もある。癢痒は最も劇烈で *anfallsweise* に来る。

數年の間指趾間にのみ限局して此状態を反覆するものもあるが、多くは漸次足穹窿又は側面に蔓延し來り水疱を發生し汗疱狀白癬を合併するに至る。

指趾間は常に發汗、湯水によつて濕潤し易い爲に菌は長く殘存して最も頑症を呈するのである。

- 類症鑑別** 1) 慢性濕疹 *Eczema chronicum*: 境界明劃を缺く
 2) 汗疱 *Pompholyx*: 水疱稍大きく *acute Dermatitis* を伴ひ *Jucken* も著明でなく *Trichophyton* を證しない。

6 爪甲白癬 *Trichophytia unguium*

症候 多くは他部の白癬に續發するものである。Nagelplatt は菲薄になつて少しく爪床から剝離し、或は Nagelwall が慢性の潮紅浸潤を呈し、爪は表面が汚穢粗糙になり光澤を失ひ縦溝或は横溝を生じて凹凸不平になる。

類症鑑別 之に類する爪甲の變化は Syphilis, Psoriasis vulgaris, Lichen ruber, Eczema chronicum 等にも現はれるが診斷には原病の有無を検し、又爪甲を削つて *Trichophyton* を證明すれば最も確實である。

B] 深在性白癬 *Trichophytia profunda*

Trichophytia superficialis は *Endothrix* 髮内菌に因つて起るもので主として毛髮及爪甲の内部及び表皮細胞間に繁殖するが其毒性は弱く耐熱性も弱い故一般に治癒し易い。

反之 *Trichophytia profunda* は所謂 *Ektothrix* 髮外菌に原因するものである。此 *Ektothrix* は毒力も耐熱性も髮内菌に比して強く、單に毛髮の内に繁殖するのみに止まらず、其 Mycelien は Haar の Wurzelscheide から周圍の Bindegewebe を侵し *Folliculitis* を發し往々皮下に迄及ぶ、従て一般に炎症が強く著明の化膿性炎症を發し治療に對しても頑強に抵抗するのである。

1 チェルブース氏禿髮 *Kerion Celsi*

定義 *Ektothrix* に因り beharter Kopfteil が侵された時に生ずる膿腫である。

症候 先づ beharter Kopfteil の一局部に *Folliculitis* を生じて化膿し、近隣のもの相融合して李桃大以上の腫瘍をなし化膿波動を呈する、其表面は多く凹凸があつて壓迫すると毛囊口から膿汁を排泄する。更に此の圓形腫瘍の周圍には化膿性毛囊炎が見られるが、腫瘍が多發するのは稀である。患部の毛髮は概ね脱落し後に永久性禿髮を招く。

本症は多く單獨に來るが稀には *Trichophytia superficialis capilitii* に續發することがある。時として *Lymphangitis et Lymphadenitis* を伴ひ、subjektiv には Schmerz が著明である。

- 類症鑑別**
- 1) 癰 *Furunkel*: 潮紅、腫脹、疼痛が更に強く經過も急性である。
 - 2) 癤 *Carbunkel*: 急性で發熱し潮紅腫脹疼痛更に甚だしく高度である。
 - 3) 護膜腫 *Gumma*: schmerzlos で Rand に強い Infiltration あり、經過は遙に慢性である。

2 白癬性毛瘡 *Sycosis trichophytina s. parasitaria*

定義 病毒の強い *Ektothrix* が鬚髯部の硬毛を侵すものである。

- 症候** 1) 初め鬚髯部の皮膚が圓形輪狀に潮紅し、落屑し、次で其部分に eitrige Folliculitis und Perifolliculitis を生じ、互に融合して周圍及び深部に蔓延し終に圓形扁平の炎症性隆起をなし、時に高さ數耗に及ぶことがある。
- 2) 表面には毛囊に一致する Pustelchen が密生して疥癩に類し、鬚髯は大半脱落して残存するものも引けば容易に抜き去らる。
- 3) 病竈の周圍には毛幹を中心として膿疱が散在する。
- 4) 経過は長く、自然に排膿して治癒する事もあり、又浸潤益々加はつて大きな Abszess を作ることもある。
- 5) 本症は behaarter Kopfteil に於ける Kerion Celsi に相當するもので本邦には比較的稀である。subjektiv に疼痛が甚しい。

類症鑑別 尋常性毛癬 Sycosis vulgaris: 経過が緩慢で長く存在し、瀰漫性潮紅と浸潤を作つても疼痛は著しからず、又左程限局した腫脹をも呈せず、化膿菌を證する。

3 白癬性苔癬 Lichen trichophyticus Jadassohn

定義 多く Trichophyton の血液感染により汎發性に現はれる毛囊性丘疹である。

- 症候** 1) 外部より Trichophyton の傳染によつて發生することもあるが概ね Trichophytia profunda に伴ふ Trichophytaemie 白癬菌血症の結果として現はれ、小兒に多いが稀に成人にも見られる。
- 2) 其發生する時には往々高度の Schüttelfrost, Fieber, Schwäche, Appetitlosigkeit, Erbrechen, Leucocytose, Lymphadenitis, posi-

- tive Diazoreaktion, Gelenk und Muskel の schmerzhaft e Anschwellung 等の allgemeine Symptome を伴ふ事がある。
- 3) Ausschlag は主として Rumpf und Extremitäten の伸屈兩面, Hals, Nacken に symmetrisch に isoliert 又は gruppiert に現はれる Knötchen である。
- 4) 多く毛囊に一致し針頭大の稍硬い小丘疹で、蒼白又は鮮紅色を呈し、多くは圓錐形であるが、時には表面扁平で一種の光澤を示すこともある。表面には通常落屑を帯び時に Blase, Pustel に變ずる事がある。
- 5) 其治癒した後は屢々毛囊口に一致して角栓を貽し Lichen spinulosus の Bild を呈す。
- 6) 自覺症は全く缺如するが時として強い癢痒を訴へる事がある。
- 7) Ausschlag は突然に多數發生し或は數日間に次第に發生し、鮮紅色より紅褐色又は褐色に變じ大概 1-3 週間の間に自然に消褪する。

附] 本症以外の Trichophytid として

- i) Maculo-papulöse Trichophytide
- ii) Polymorphe exsudative Trichophytide
- iii) Scarlatinoide Trichophytide
- iv) Subcutan-nodöse Trichophytide
- v) Erythema nodosum trichophyticum

此等は共に症狀急激に起り潮紅面には Lichen trichophyticus が現はれ、或は他型の白癬疹が續發し來り且つ患者は同時に深在性白癬を有することにより診斷を下し得らる。

尙 Trichophytinreaktion は高度に陽性である。

白癬の病原菌に就て

歴史 黄癬、白癬が種々の Fadenpilz に因て發生する事が明かにされたのは 1837年 Schönlein 氏が Favus の Erreger たる Achorion Schönleinii を發見したのに始まる。Trichophytie は Gruby 氏が 1841年以來之を研究して同じく絲狀菌性なる事を發見し、1843年其内の或者に對し Microsporum Audouini なる名を與へた。之に次で 1848年 Malmsten 氏の白癬に關する研究が發表され、同氏は白癬病原菌を Trichophyton と命名した。今日白癬菌に因る疾患を Trichophytie と呼ぶのは此 Malmsten 氏が唱へた Trichophyton に因んで Hardy 氏が Trichophytie なる名を用ひたのに始まるのである。

是等の名稱や之に屬する菌が今日の如く精確な知識を得たのは、Sabouraud 氏の辛苦の結果其精緻な研究記述に基づくのである。同氏は此絲狀菌を次の如く分類した。

1 Microsporum

芽胞小にして 2-4ミクロン毛髮周圍に灰白色の鞘 (Sporenmantel) を作り不規則石垣狀又は Mosaik 狀をなし Mycelien は髮内に於て始めて見る。

2 Trichophyton

Endothrix: 芽胞連鎖が専ら髮内にあり

Neo-endothrix: 髮内菌にして最初可なり長く髮外に寄生するもの

Ectothrix: i) Microides: 芽胞は 3-4ミクロンで菌絲髮内に侵入するのみならず髮の外面をも圍繞するもの
ii) Megalosporae: 3-5ミクロンの芽胞を有す。

3 Achorion

Favus の原因をなすもの

4 Epidermophyton

毛髮を侵さない種類。

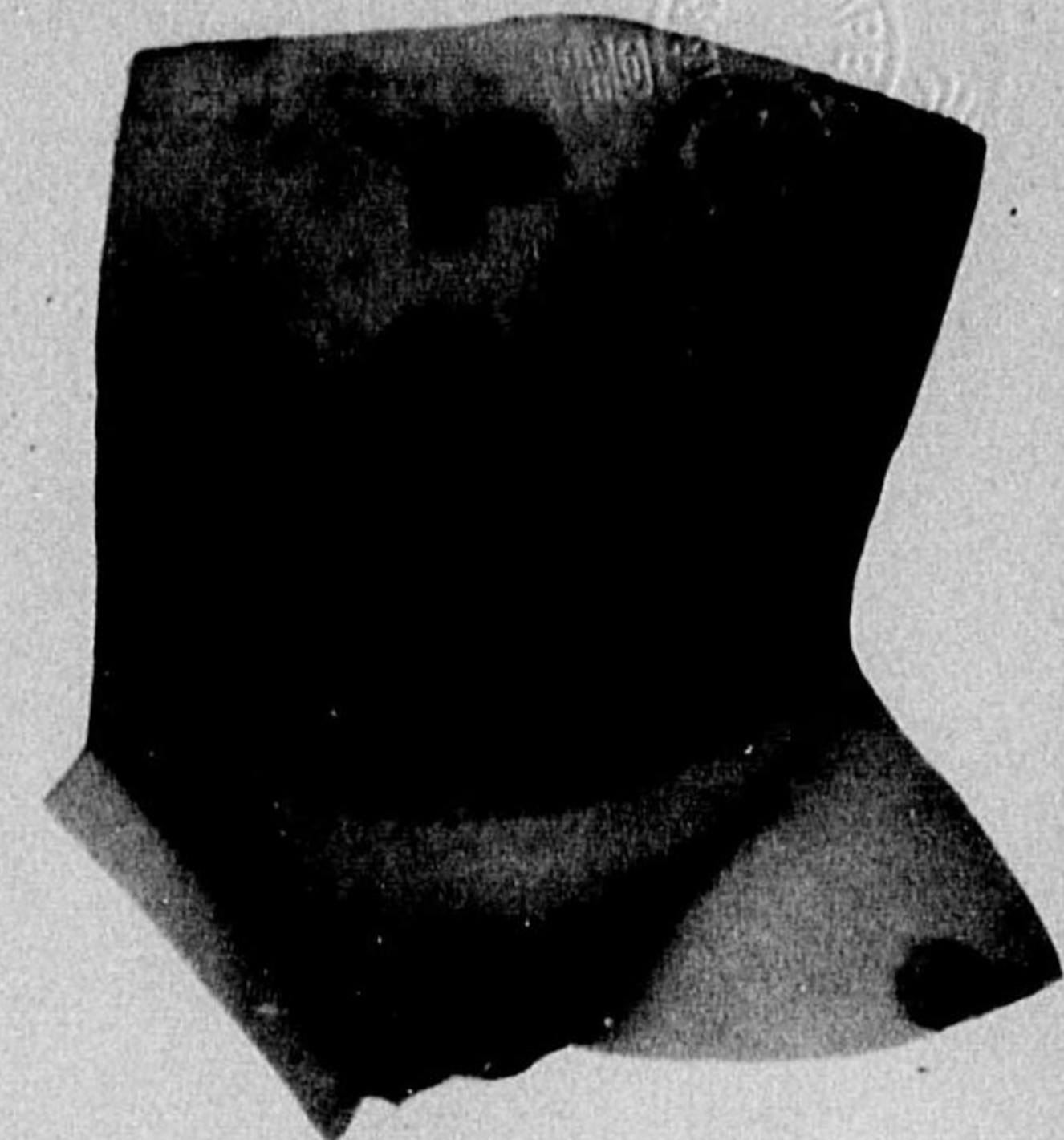
其後 1923 年我太田正雄博士と佛の Langeron 氏の研究により、白癬病原菌

第三十一圖



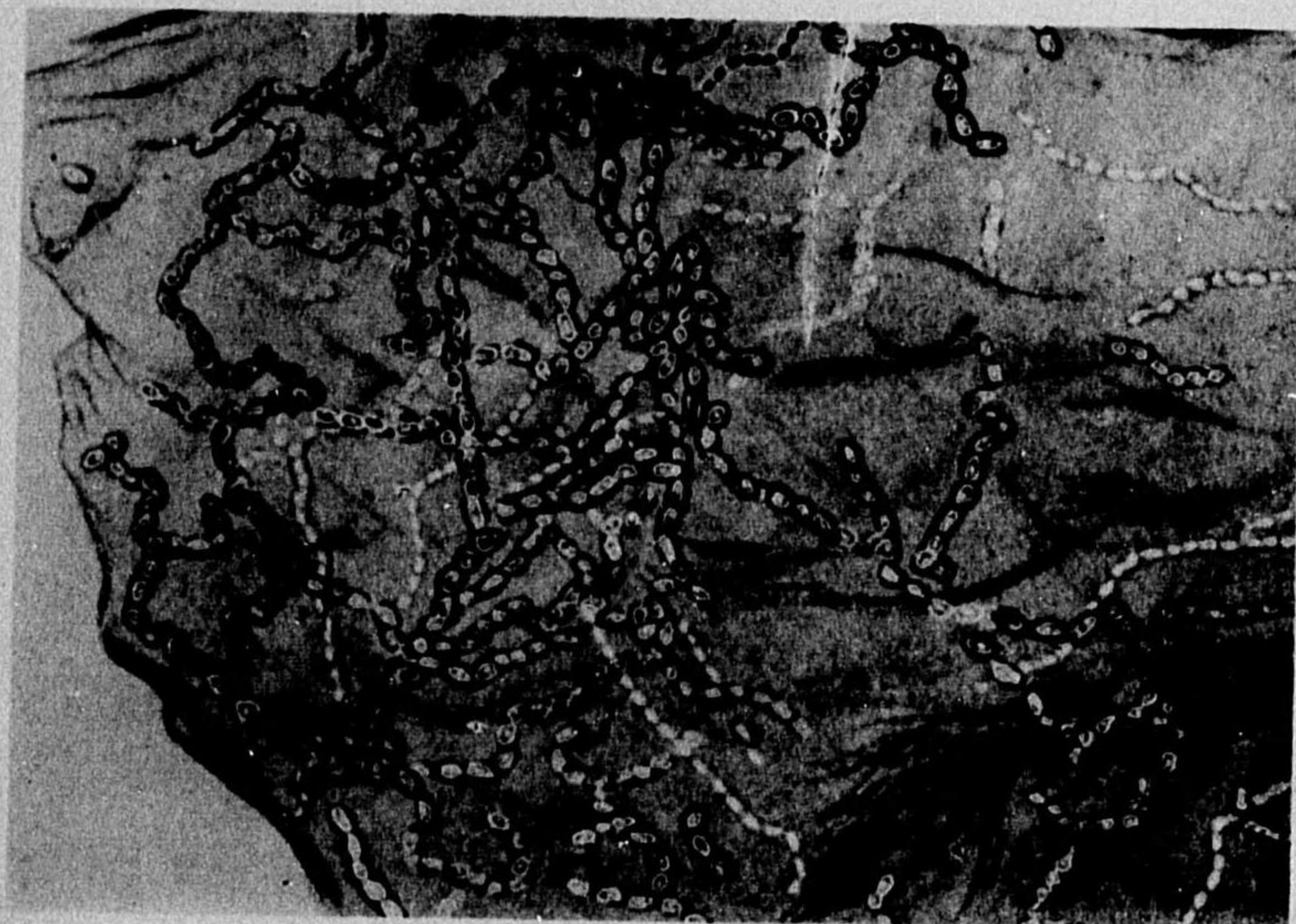
ナエルズース氏禿癬
Kerion Celsi

第三十二圖



悪液性膿瘡
Ecthyma caeheticorum

第三十三圖



Myzelgeflecht von Epidermophyton inguinale auf Hautschuppe mit Myzelangium

第三十四圖



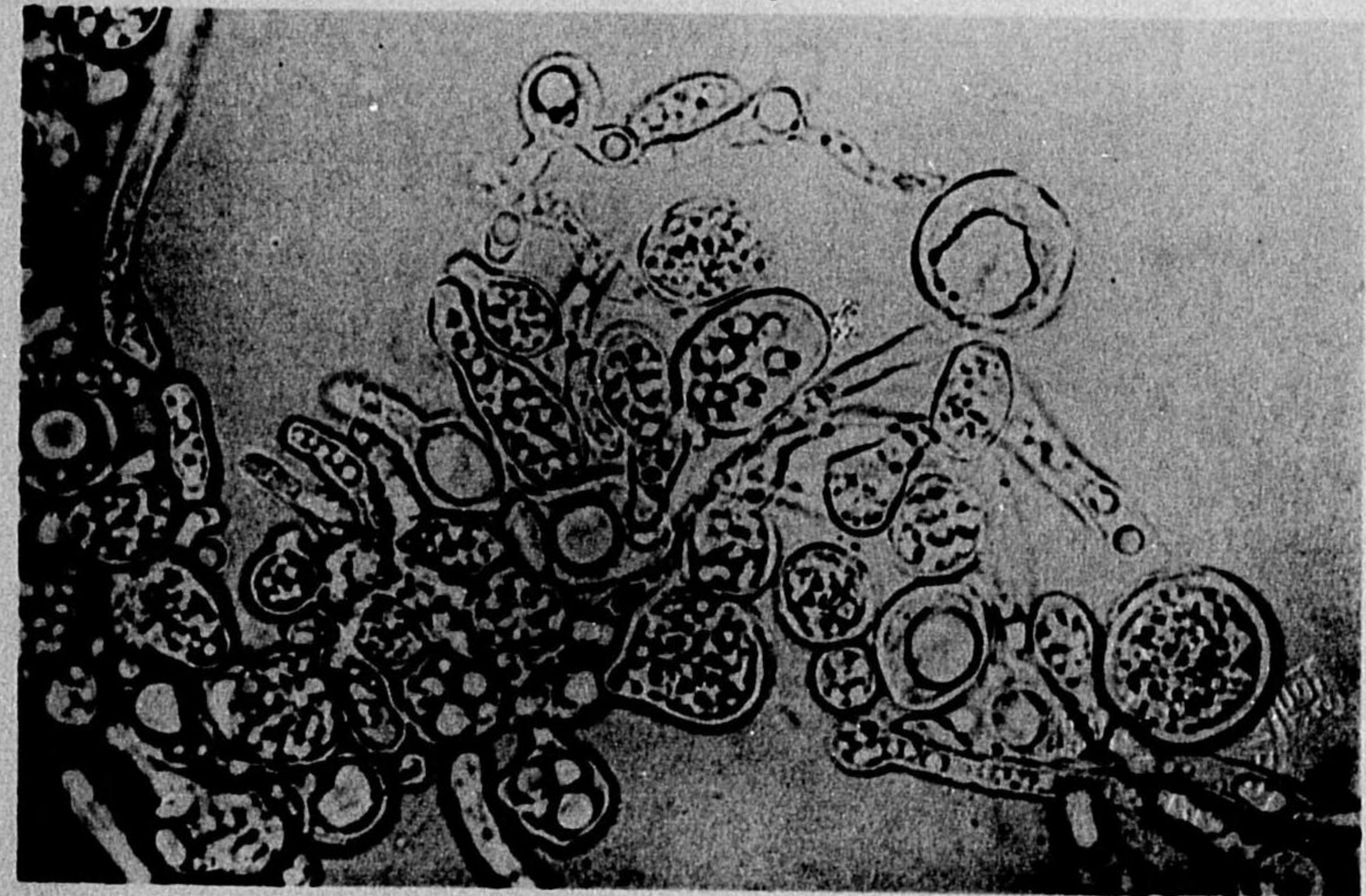
第三十五圖



Trichophytia

第三十六圖

Ecthyma gangraenosum



Mycoloblastanum

の植物學的地位、分類及培養菌學的性狀が明かにされた。

即同氏に據ると白癬病原菌の分類及植物學的地位は次の如くである。

Eumycetes

Mycomycetes

Fungi imperfecti

Hyphomycetes

Thallosporaceae

Aleuriosporaeae

1	Trichophyton Malmsten	1848
2	Sabouraudites Ota et Langeron	1923
3	Epidermophyton Lang	1870
4	Grubyella Ota et Langeron	1923
5	Bodinia Ota et Langeron	1923
6	Endodermophyton Castellani	1911

註] 細菌を分つて Schizomycetes 分裂菌, Mixomycetes 粘菌, Eumycetes 眞菌に大別する。

1) Trichophyton Malmsten 1848

Mycelien は匍伏性分岐性で透明であり其舊きものは往々 Arthrospor を作り又 Chlamidospor を作る。

Aleurie は或は單一なる Mycelien に生じ或は複雑に分岐せる Mycelien の上に形成せらる。時に結節狀器官を作る事あり。

培養は Zucker を含む schwach sauer の Nährboden が適當にて白色、紫色、黄色或は紅色の Colonie を作る。

主なる種類: 1) T. acuminatum 尖圭狀菌
2) T. crateriforme 岩穴狀菌
3) T. umbilicatum 臍窩狀菌

- | | |
|-----------------------------|------|
| 4) <i>T. lilium</i> | 藤色菌 |
| 5) <i>T. sulfureum</i> | 硫黄色菌 |
| 6) <i>T. coccineum</i> Kato | 臙脂色菌 |
| 7) <i>T. pedis</i> Ota | 足趾菌 |
| 8) <i>T. granulorum</i> | 顆粒状菌 |
| 9) <i>T. lacticolor</i> | 乳色菌 |

2) *Sabouraudites* Ota et Langeron 1923

本属の諸菌は培養の性質上 *Trichophyton* 属と同様なるも、唯菌學上前属に現はれる諸器官の他に Sabouraud 氏の所謂紡錘状器官を發生する。

主なる種類 1) *S. Audouini* Gruby 1843 = *Micros. Audouini* オーザン氏菌

- | | |
|---|------|
| 2) <i>S. equinus</i> | 馬菌 |
| 3) <i>S. lanosus</i> | 羊毛状菌 |
| 4) <i>S. asteroides</i> | 星芒状菌 |
| 5) <i>S. radiolatum</i> | 放射状菌 |
| 6) <i>S. interdigitalis</i> Priestly 1917 | 指間菌 |
| 7) <i>S. ruber</i> Castellani 1909 = <i>Trichophyton purpureum</i>
Bang 1910 | 猩紅色菌 |
| 8) <i>S. Quinckeanus</i> = <i>Achorion Quinckeanum</i> 1890 | |

3) *Grubyella* Ota et Langeron 1923

本属の菌種は増殖の目的器官としては主として *Arthrospores* を作るが、其他に往々結節状器官を作り且つ rudimentär の *Aleurie* の發生さへも之を見るのである。

Favus の Erreger たる *G. Schönleinii* = *Achorion Schönleinii* 及び *Grubyella ferruginea* Ota et Langeron = *Microsporion japonicum* Dohi et Kambiyashi が本属の主なるものである。

4) *Bodinia* Ota et Langeron 1923

甚だ其特征を缺き mykologisch に普通見られるは *Arthrospores* で間々 *Blastospores* の状態も加はる。

- 主なる種類 1) *Bodinia violacea* Bodin 1902 = *Trichophyton violaceum*
Bodin 1902 堇色菌
- 2) *Bodinia spadix* Kato 1926
- 3) *Bodinia glabra* 秃滑菌

5) *Endodermophyton* Castellani 1909

mikologisch に前者に相似たるも、前者に比し *Arthrospores* の形成が速かに不判明になる。

6) *Epidermophyton* Lang 1879 Ota et Langeron

主として紡錘状器官により増殖し *Aleurie* を生ぜず、然し Mycelien は容易に分離し個々の細胞は *Arthrospor* の役目を演ず。

培養は粉状乃至絨毛状である。

Epidermophyton inguinale 鼠蹊表皮菌は之に屬す。

経過と豫後

白癬菌が表皮に寄生して生ずる反應は、輕重種々の皮膚炎で、淺在性白癬では表皮を侵し其種子層内に圓形細胞の浸潤を來し、眞皮の *Kapillaren* の怒脹と其周圍の細胞浸潤を認める。殊に *Eczema marginatum* に於て此浸潤が著明である。然し病菌は暫くして死滅し、炎症も減退して完全治療を營むのが常である。之に反し深在性白癬では炎症が強く、化膿性の毛囊炎及び毛囊周圍炎を來し、周圍組織の *Eiterung* を來す故其治癒した後に多少の *Narbe* を止める。

白癬に度々罹患すれば局處の *Haut* は次第に免疫性を獲得するもので、初め白癬殊に深在性白癬に罹患した際には局部のみに止まらず皮膚は一般に白癬菌毒に對して過敏性 *Allergie* を發生するが、次第に免

疫を得るに至る事は動物試験の証明する處である。但し Bloch 氏の研究に據ると白癬菌に依る Allergie は血液中に Antikörper を生ぜず、皮膚細胞に固着すると云ふ。即ち組織的免疫 Histogene Immunität である。

然し免疫發生は菌の種類により又白癬菌病の深淺によつて異なるもので、Eczema marginatum の如く或は Trichophytia pompholyциformis の如く數年、十數年に亘つて持続發生する場合もある、一般に淺在性白癬に於ては深在性白癬に於ける如く免疫體形成が顯著でないと考えられてゐる。

療法 Trichophytia capitis

- 1) Teerpasta を一日一回塗擦し數週、數ヶ月持長する。
- 2) Pityrol s. Glyteer Wilsonsche Fettpasta, 2-5% Chrysarobin-salbe, 5% Pyrogallolsalbe 又は其の Alkohollösung, Jodotinktur の塗布
- 3) Kerion Celsi の如き炎症著明なる時は、1% Resorzinwasser, 2% Borwasser の濕布を行ひ abszesieren すれば切開により排膿し、炎症減退するに及んで Teerpasta の塗擦を行ふ。或は次の處方のものを Lint に展ばして貼用する。

Rp.	Acid. Salicyli.	サルチール酸	5.0
	Acid. Pyrogallol.	焦性没食子酸	5.0
	Ol. Ricini.	蓖麻子油	10.0
	Vaselin flav.	黄色ワゼリン	50.0

Trichophytia facialis

- 1) 2-5% Salicylsäure alkohol, 2-3% Weisspräzipitatlanolinpasta
- 2) 頑症には Teerpasta 單獨に、又は Teerpasta と Zincpasta と

を混和して用ふ。

- 3) Sycosis trichophytina は Kerion Celsi と同様の處置をする。

Trichophytia maculosa

- 1) 輕症には 10% Salicylsäure-alkohol を用ふ。
- 2) 頑症には Teerpasta, Wilkinson'sche Salbe, 5% Pyrogalloltraumaticin, 5% Chrysarobintraumaticin を用ふ。但し Chrysarobinpraeparat は頻回用ふると Dermatitis を誘發する傾向があるから注意を要し、若し刺戟したなら無刺戟の Wilson 氏膏, Lanolin-pasta を一時用ふべきである。

Eczema marginatum

Rand に 10% Chrysarobintraumaticin を塗布し、中央部には Teerpasta を塗擦する。

Trichophytia interdigitalis

erosieren して Schmerz あるものには太陽燈照射の後、Pityrol を塗布して濕布を行ひ、又は Pityrolsalbe を貼用して Epidermisierung を待つて 10% Chrysarobintraumaticin, Teerpasta, Wilkinson 氏膏を用ふ。

輕症には Salicylsäurealkohol, 又は Jodotinktur の塗布で足りる。

Trichophytia pompholyциformis

掌蹠に廣く蔓延したものは先づ Lysolbad (可及的熱き 0.5% 位の溶液とし之に 20-30 分) を行ひ其後に藥劑を塗布す。最も効力多きは余の好んで用ふる Hebra-Wilkinson 氏膏 (Hebra 氏膏 Wilkinson 氏膏各等分) である。

其他新に水泡を形成したものは穿刺して内容を壓出すれば癢痒緩解するから其跡に沃丁又は 10% Chrysarobintraumaticin を用ひ他の部

に Teerpasta を用ふる事もある。

輕症には單に 5-10% Salicylsäurealkohol 塗布で輕快する。

Trichophytia unguium

木賊、鏡又は小刀で爪甲を薄く削り其上に 10% Salicylsäurecolloidium を塗り又は Teerpasta を塗擦す。又

Rp. サルチル酸	1.0
安息香酸	2.0
石 油	10.0

を塗布するもよい。

此爪甲白癬は種々の療法に對し最も頑固に抵抗するから治療は最も長く持続しなければならない。

一般的療法

紫外線又は Röntgenbestrahlung を兼用すれば著しく治療を促す。其他 Vaccin-therapie として Trichophytin の皮内注射が用ひられるが、本療法は炎症反應著しい深在性白癬には有効なりと云はれるも普通に見られる淺在性白癬には其効尠い。

III 薔薇色秕糠疹 Pityriasis rosea Gibert

定義 abschuppende Erythem を發生し Jucken を伴ひ、急速に Rumpf 及び Extremitäten に ausbreiten にする疾患で、臨床上の症状よく Trichophytie に類するものである。

症候 1) 前驅症として Rumpf, Hals に孤立した紅斑 plaque primitive Brocq を生ずる事がある。

2) 主症は Rumpf, Hals, Oberarm, Oberschenkel に linsengross,

fingerspitzgross の、時には更に大なる圓形又は橢圓形の rosarot の Fleck を zerstreut に發生する。時として其間に linsengross までの紅い Papel を混することがある。

3) Fleck は scharf begrenzt であるが Rand は細かい zick-zack を呈し、色が濃く中心は細い離髮を示して稍褪色するのが常である。且つ表面に秕糠様の Abschuppung がある。

Abschuppung の状態は初め Fleck の中央が紅褐色になつて落屑し始め漸次周圍に向つて剝離して行く。従て稍大なる斑では Rand にのみ Schuppen が附着し中心に向つて剝離した状を呈する事が多い。

4) acut に ausbreiten して數日以内に全身に及ぶが顔面と手足の侵されることは稀である。

5) Jucken は常に存するが nassen する事なく、適當の治療を加へると 2-3 Woche で全治し後に一時 Pigmentation を見る事がある。

6) 自然治癒を營むものもあるが、放置すれば多くは數ヶ月を経るも治癒せず、紅斑面に浸潤を生じ Jucken は益々劇烈になる。

原因 不明なるも白癬に類する菌によるものと想像される。

診断 1) 限局した圓形又は橢圓形の淡紅色斑

2) 鋸齒狀の邊緣

3) 中心から落屑すること

4) 大小不同のこと

5) 急性に蔓延すること

6) 癢痒を伴ふこと

類症鑑別 1) 小水疱性斑状白癬 Trichophytia maculovesiculosa:

多く圓形で邊緣隆起して其處に Bläschen を生じ斑の内部に新疹を生ず、且つ白癬菌が證明される。

3) 癬風 Pityriasis versicolor: 灰白色で邊緣鋸齒状をなさず、搔破により落屑を生じ容易に菌 (Microsporon furfur, Malazessia furfur) を證明する。

3) 脂漏性濕疹 Eczema seborrhoicum: 通常は頭部より下降するものであるが稀には Brust, Rücken に初發し落屑するものがある。然し痂皮、落屑は脂性で時には濕潤し経過も急性でない。

療法 1) Künstliche Höhensonne

2) 10% Salicylsäurealkohol (Glycerin 10% 又は Ricinusöl 5% を加ふ)

3) Schwefelpraeparat: Mitigal, Teerpasta

IV 紅色陰癬 Erythrasma

定義 皮膚の両面摩擦し易き部位に淡紅色の斑を作る慢性の糸状菌性疾患である。

部位 主として Genito-femoralgegend に來り稀に肛裂、腋窩乳房下等に來る。

症候 nagelgross bis handtellergross に達する scharf begrenzt の Erythem で少しく黄褐色の色調を帯び、表面に微細の鱗屑がある。著色が斑全體に平等で邊緣と中心と差がなく指壓を加へても消褪しない、subjektiv には軽度の癢痒があり傳染力は弱い。

原因 Mikrosporon minutissimum

類症鑑別 頑癬 Eczema marginatum: Rand は堤防状に隆

起し、病勢が殊に周縁部に旺んで中心部は褪色する。又 Jucken が遙に強い。

療法 1) 頑癬よりも頑固で強力な治療を必要とする。

2) Ultraviolettstrahlen

3) Teerpasta, Wilkinson 氏膏, Chrysarobinzinkpasta, 10% Chrysarobintraumaticin

V 癬風 Pityriasis versicolor

定義 圓形灰白色の小斑を多數に發生し、搔破すれば枇糠様の落屑を呈する糸状菌性疾患で、Microsporon furfur (Eichstedt 1846) の寄生に因て發生するものである。

部位 身體被覆部殊に腹壁、臍の附近、腋窩、上肢内側、胸、背、等で汗で濕潤し易き部位に發生す。

症候 1) linsengross bis nagelgross の多く Hautniveau より扁平に僅に隆起する Fleck を生ず。Grenze は極めて明確で、色は灰白色、淡褐色、深褐色を呈し Oberfläche は一見 glatt であるが auskratzen すると軽く abschuppen し、此 Schuppen 中には容易に菌が證明される (検査法は白癬菌の場合と同様である。)

2) 多數 zerstreut に發生し、相接するものは相互に融合して廣い局面を作るが、其外縁部は常に圓形小斑の輪廓を呈し、更に附近の健康皮膚面に孤立する斑を認める。

3) 稀に Haarfollikel を中心として麻實大の小斑として發生し長く増大しないものもある。(毛囊性癬風)

4) 自覺的には發汗著しい時に軽度の癢痒を感じるのみである。

5) 是の治癒した後に屢々罹患部に一致した Depigmentation を來す。之を蕁風性白斑と云ひ數ヶ月に亘り治癒しない事がある。

6) 青年壯年に多く春夏の候に著明で屢々再發する。

診 斷 1) 灰白色の小斑にて發汗し易き被覆部に生ずる事。

2) 散在性に發生し融合して廣面を侵すこと。

3) 搔破すると枇糠様の落屑があり、其中に容易に絲狀菌を證明すること。

類症鑑別 1) 遠山氏連環狀枇糠疹 *Pityriasis circinata* Toyama:

Fleck が遙に大きく Schuppen 中に菌を證明しない。

2) 微毒性薔薇疹 *Roseola syphilitica*: 落屑なく紅褐色を呈す。

3) ジベル氏薔薇色枇糠疹 *Pityriasis rosea* Gibert: 斑は rosarot, 大小不同で癢痒が強く急性に全身に蔓延する。

4) 微毒性白斑 *Leucoderma syphiliticum*: 融合せず, 斑の大小一様で項頸部に多い。

療 法 1) 葦外線照射

2) 輕症には 10% Salicylsäure alkohol

3) Mitigal, 5—10% Schwefelvaselin, Teerpasta, Wilkinson 氏膏

VI 遠山氏連環狀枇糠疹 *Pityriasis circinata* Toyama

正圓形枇糠疹 *Pityriasis rotunda* Matsuura

定 義 灰褐色の大圓斑を生じ枇糠様の落屑を生ずる皮膚疾患である。

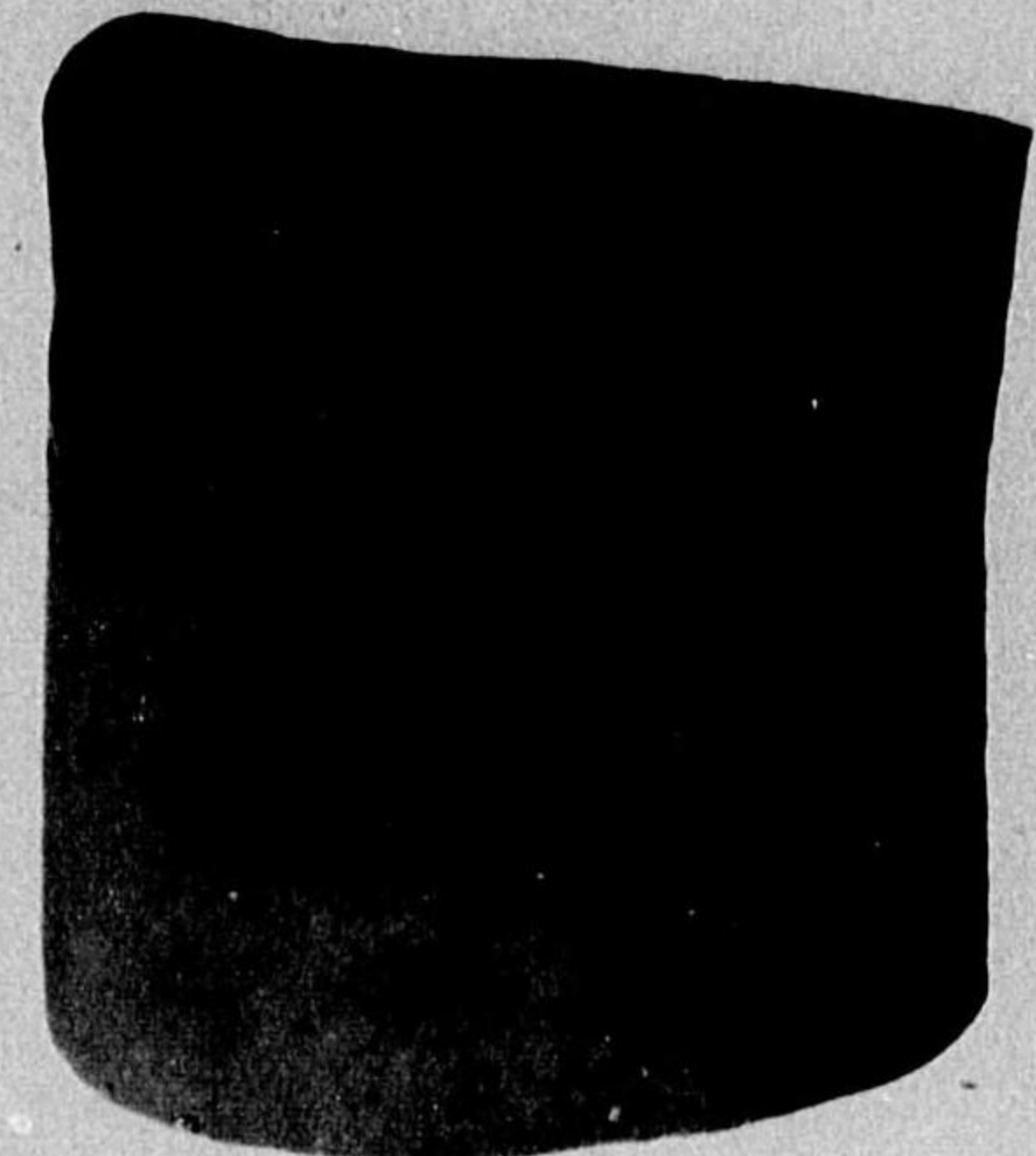
本症は遠山氏が 1906 年二月初めて報告し次で松浦氏が 1906 年四月報告した疾患で我邦以外には未だ報告されないものである。恐らく絲狀菌又は類似の菌

第三十七圖



薔薇色枇糠疹
Pityriasis rosea Gibert

第三十八圖



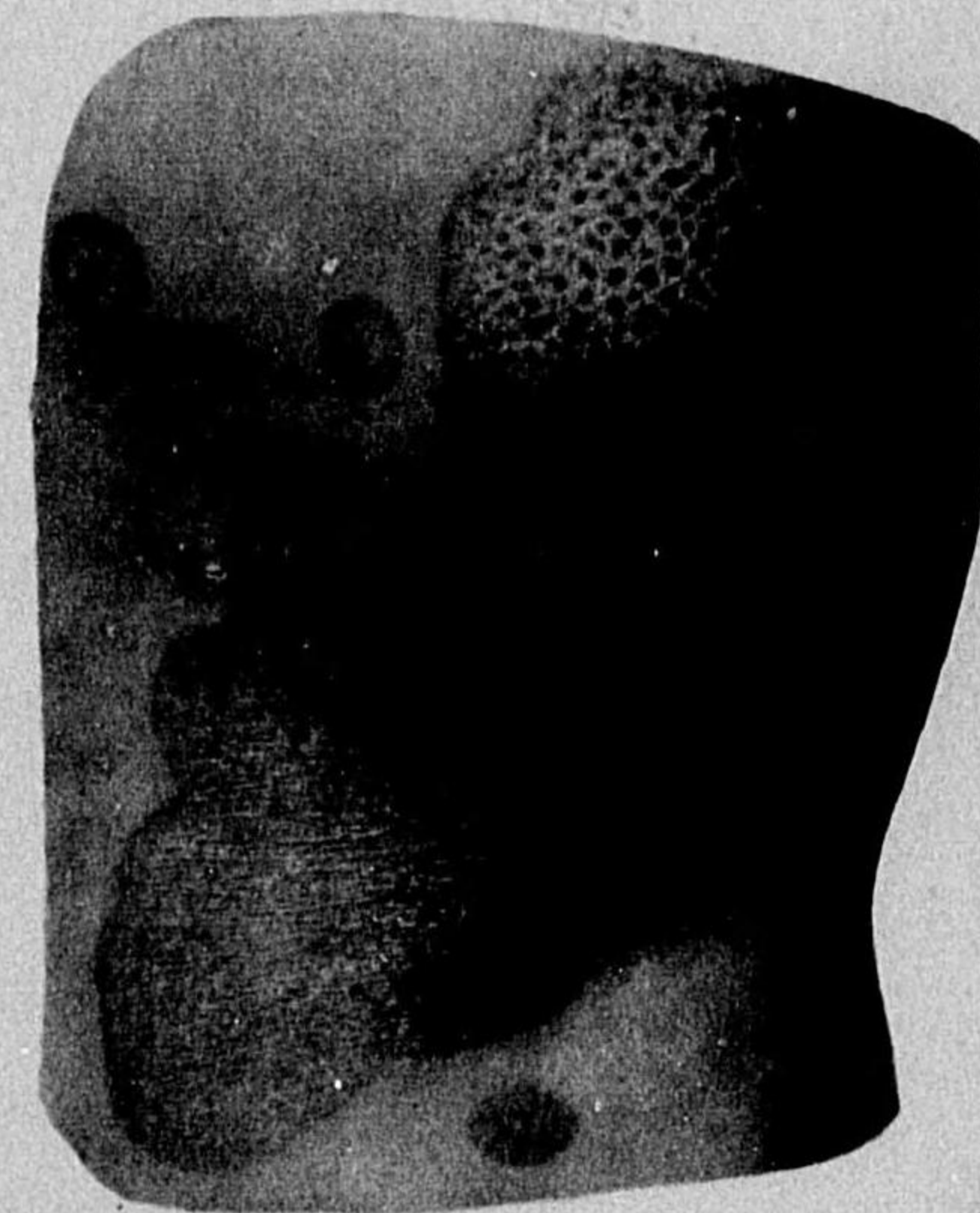
紅色陰癬
Erythrasma

第三十九圖



蕁 風
Pityriasis versicolor

第四十圖



連環狀枇糠疹
Pityriasis circinata Toyama

の寄生に因るものと想像され病原菌としての報告があるが未だ確定されるに至つてゐない。

- 症候** 1) 好發部位は背, 腰, 腹部であるが上膊, 上腿に及ぶこともある。
- 2) 此等の部位に初め錢大, 小判大の圓形又は橢圓形の淡褐乃至褐灰色の扁平な斑を生じ, 擴大又は附近のものが融合して直徑 20—30cm に及ぶ事もある。
- 3) Fleck は scharf begrenzt で Hautniveau と同高か又は少しく隆起し, 表面に微かに鱗屑を帯び, 搔破すると枇糠狀の落屑を來す。
- 4) 數は數個から數十個に及び孤立或は融合する。
- 5) Subjektive Beschwerden はない。
- 6) Verlauf は慢性で數年, 十數年に亘るが時に急性に蔓延する事があり又突然消失する事もある。

診断 1) 褐灰色の圓斑 2) 枇糠様の落屑 3) 癢痒の缺如
4) 軀幹に好發すること

- 類症鑑別** 1) 癩風 Pityriasis versicolor: 斑が小さく落屑中に絲狀菌が證明される。
- 2) 紅色陰癬 Erythrasma: 色が紅色を呈す。
- 3) アンチピリン疹 Antipyrinexanthem: 紅斑の消失した後の圓形色素沈着はよく類似するが, 表面落屑を缺き Antipyrin の内服で忽ち潮紅する。

- 療法** 1) 比較的治癒し易い
- 2) 10% Salicylsäurealkohol, Teerpasta, Wilkinson 氏膏
- 3) Höhensonnen bestrahlung を併用するがよい。

VII スポロトリヒヨジス Sporotrichosis

定義 Sporotricum と稱する絲狀菌の感染に因る疾患で、主として皮膚を侵し、結節と其軟化に因る潰瘍とを形成するものであるが更に進んで内臓に蔓延することもある。

症候 多種多様で或は結核に類し、或は微毒性變化に類し、時には癌に似た症状をも呈する、其他淺在性の皮膚變化に止まることもある。

- 1) 身體露出部の小傷に菌の感染を來せば此處に原發病竈を作る。即無痛性の膿疱を生じ痂皮を作り其下に潰瘍を示す。潰瘍は邊緣鋸齒状をなして少しく unterminieren し、Boden は紅い顆粒面を示す。之を Chancre sporotrichosique, Sporotrichotische Primäraffect と云ふ。
- 2) 最も屢々見るのは原發部位から Lymphangitis を生じ、之に沿つて處々に結節を生ずる所謂 Sporotrichosis gummosa disseminata tuberculoides で初め徐々に圓形平滑の弾力性結節を皮下に發生し疼痛を缺く。之を **Sporotrichoma** と呼ぶ。是が次第に表面に隆起し中心軟化して狭い Fistel を生じ、粘稠な粘液性白色の膿を洩し、次で漿液性或は血性の膿を排出する。Fistel の周圍は強い炎症性の組織肥厚を示す。皮膚の色は初め常色であるが後に蒼紅色を呈する。此結節は自然治癒の傾向がなく、其外觀は寧ろ Syphilis に類似し、淋巴腺腫脹其他結核を思はする點に乏しい。
- 3) 稀有な型としては微毒性膿腫に或は結核性潰瘍に類する潰瘍を作るものがある。又皮膚疣状結核 Tuberculosis verrucosa

cutis に一致した外觀を呈する Sporotrichosis dermica verrucosa を作る事もある。或は壞疽性丘疹状結核疹 Papulonekrotische Tuberculid に似るもある。

又 Pustel 若くは Furunkel に似た Knoten を形成し、或は Eczema squamosum に類する症状を呈する事がある。(Sporotrichosis epidermica pityriasiformis)

其他 Trichophytia maculovesiculosa に似るもの、Pemphigus の如き Blase を作るもの、種々の大きさの Abszess を作るもの等がある。

経過 多く chronisch で數月、數年に亘り、一部分に限局する事があるが稀に急性に多くは徐々に散在性に汎發する。皮膚にある病竈部から多くは淋巴管又は組織腔内に入つて蔓延し、或は内臓諸組織に至つて Sporotricum を形成する。

播種状汎發性の Sporotrichosis では往々發熱し重症の全身症状を呈し、Rheumatismus, Neuralgie を伴ひ或は Sepsis を來して死を致す事もある。

診断 1) 淋巴管炎と其附近の無痛性硬結、膿瘍又は潰瘍

2) 各種の症状を呈する事

3) 沃度の効果あること

療法 1) 沃度加里の内服 (1日 2.0—5.0)

2) 潰瘍には 200—500 倍の沃度加里水の墨法其他の局所療法を行ふ。

第十章 桿菌、醱母菌及放射線状菌 に因る皮膚疾患 Hautkrankheiten durch Bacillen, Hefen oder Strahlenpilze

I 急性陰部潰瘍 *Ulcus vulvae acutum* Lipschütz

定義 Lipschütz 氏桿菌の寄生による陰部の急性潰瘍である。
症候 主に kleine Schamlippe の内面に、急性に 1—2 或は多数の針頭大乃至豌豆大の潰瘍を生ずる。潰瘍は周囲及深部に向つて擴大し或は融合し底面には灰白黄色の豚脂様苔を附着し、邊緣は境界鋭利で少しく Unterminierung を示す。一方治癒すると共に他方に新疹を生じ時に甚だ頑固である。自覺的には多少の疼痛を伴ひ又少しく發熱することがある。

原因 Lipschütz 氏菌は兩端直角をなした桿菌で屢々連鎖状に配列し Gram 陽性である。

療法 局所を清潔にし過酸化水素水、硝酸銀水、Mercurochlom, Trypaflavin 等を塗布し Jodoform を撒布する、又紫外線照射が有効である。

II 皮膚チフテリー *Hautdiphtherie*

症候 多くは Schleimhautdiphtherie に續發し、稀に Haut に

原發する。豌豆大の Erosionsfläche 又は Geschwür を生じ形は不正、邊緣は鋭利で著明な紅暈があり、Geschwürsboden には特異の灰白黄色の Pseudomembran を附着する。皮膚のみならば發熱を缺く。

主として陰股部、少女の äussere Genitalien、肛圍、耳翼後面、鼻口の周圍に來る。

療法 Diphtherie の血清注射、局部には Trypaflavin 或は Rivanol 水の濕布又は軟膏貼用。

III 皮膚鷲口瘡 *Soormycosis cutis*

定義 鷲口瘡菌 *Soormycose* od. *Myceloblastanon albicans* の皮膚寄生に因つて生ずる疾患である。

症候 1) **interdigitale Soormycose** (Kaufmann-Wolff) は *Erosio interdigitalis* の一部をなすもので、指趾間に紅色の Erosion を作り其邊緣には白色の濕潤した上皮が見える、或は一面に廣く白色濕潤し附近に小水疱を見る。

2) **Erythema mycoticum infantile** は初生兒の顔面殊に臍部又は肛圍、陰股部、下腹等皮膚面の接觸する部位に境界明劃な紅斑面を呈し、初めは多く大豆大であるが、散發融合して時に大局面を作る。終始乾燥して僅に落屑することもあり、或は其表面又周圍に Bläschen, Pustelchen を認める事もある。

3) 屢々口腔の鷲口瘡と併發する。

療法 H_2O_2 , Borwasser の濕布 Thionol-, Pityrol-, Zincöl 又は Wilson 氏膏の塗布で容易に治癒する。

IV 皮膚醱母菌病 Blastomycosis cutis

定義 醱母菌 (*Saccharomyces* u. *Myceroblastanon*) 性分芽菌に因つて發生する潰瘍性皮膚疾患である。

症候 大體二種に區別することが出来る。

I Buschke 型

- 1) 瘡瘡様の小膿疱性發疹に始まり、忽ち破壊し相互融合して皮下の浸潤と深淺の潰瘍をなし、薄い漿液又は膿様分泌物を排出して其内に組織の碎末を混する。
- 2) 時には subcutan に Knoten を發生し膿潰して潰瘍を形成する。
- 3) Geschwür は邊緣銳利で Unterminierung があり、Boden には Infiltration がある。
- 4) 又附近の Lymphdrüsen が侵され腫瘍状浸潤を生じ、同じく破壊潰瘍をなすことがある。
- 5) 其治癒する時は不規則で強靱な索状の癢痕をなし、其間に瘻孔を存して漿液及膿汁を洩し、切開すると簾々と音ありて周圍組織の硬きが知られる。

II Gilchrist 型

- 1) 初め Papel 又は Pustel を發生し、間もなく Kruste に被はれ、或は周圍に新疹を發生して融合し、表面性に周圍に蔓延する、
- 2) 其表面は大小の乳頭状隆起を呈し其間に小膿瘍があり、周邊は柔軟な浸潤帯に圍まれ、中央部は癢痕治癒を營むが外縁部は蛇行性に蔓延する。
- 3) 陳舊になれば周縁部は汚穢の結痂を被むり、之を除去すると其

下には乳頭状隆起を呈し出血し易い肉芽面があり、皸裂内に膿漿を有す。

- 4) 此邊緣部は健康皮膚面より隆起して明劃に境し、Tuberculosis verrucosa cutis に類似する外觀を呈し、赤紫色の暈を帯びて居る。

此部に肉眼では殆ど發見し得ない數多の Pustelchen があり、其内容は濃稠で灰白色である。

Buschke は第一型は *Saccharomyces* に因り第二型は主に *Oidium* 又は之に類する菌に因ると唱へたが、之に當らない。第一型第二型の混合型も存在する。

■ Erosio interdigitalis blastomycetica bzw. saccharomycetica
 症狀は *Trichophytia interdigitalis* と全く同一である。

IV Onychomycosis blastana

症狀は *Onychomycosis trichophytina* (*Trichophytia unguium*) と全く同一である。

診断 上記の症狀が相混合して現はれるにより診断するが、確實の診断は組織内に病原菌を證明することである。

類症鑑別 1) 潰瘍性狼瘡 *Lupus exulcerans*: *Lupus* には邊緣の堤防状隆起と縁下潜蝕を缺く。

2) 護謨腫 *Gumma*: 邊緣の浸潤が著しい。

3) *Sporotrichose* u. *Scrophuloderma*: 臨床的には鑑別全く不可能で組織的細菌的檢索に據り區別す。

療法 1) 沃度加里の大量 (1日 4.0-6.0) 内服。

2) 局部は切除、抓破、燒灼、沃度ガス、沃度ホルム軟膏貼用。

V 放線菌状病 Aktinomykose

定義 Aktinomyces の感染に因り皮膚及皮下の浸潤を呈し、常に軟化の傾向を示すものである。

- 症候** 1) 稀に皮膚に原發するが、多くは續發的に他の器官(骨、肺、腸)から皮膚を侵す。
- 2) Haut に板の如く硬い扁平の浸潤を作り、初めは常色であるが次第に蒼紅色又は紫紅色を呈す。次で大小の結節を生じて凹凸不平になり、結節は軟化して外表に破れ潰瘍又は瘻管を作る。
- 3) Geschwür 又は Fistel から出る膿汁中には帶黄灰白色の微細顆粒 (Aktinomyceskörper) を多數に發見する。
- 4) 病竈は益々浸潤して徐々に進行し、或は索状をなして樹根状に四圍と深層に侵入し、一方は瘻痕を作り一方は新結節を生じ頗る緩慢な経過を示す。

部位 原發性のものは手、下腿、顔面、軀幹に、續發性のものは口腔、扁桃腺から其周圍の皮膚に及び又胸壁、腹壁にも來る。

豫後 皮膚に限局したものは治療によつて治癒するが、深部に發生したものは多く死の轉歸をとる。

療法 切除、燒灼、Röntgen、沃度加里の内服。

VI 足菌腫 Mycetoma pedis, Madurafuss

定義 一種の絲状菌の感染に因り皮膚の腫大を呈し、數多の結節と瘻孔とを呈する慢性肉芽性炎症である。

症候 1) 主として足部を侵し稀に下腿、膝、手、腹壁、肩胛に來る。

- 2) 初め皮下に無痛性の結節を生じ、次第に増大し數ヶ月乃至一二年の後に一部破潰して Geschwür 又は Fistel を作る。
- 3) 患部は浸潤硬結して象皮病の如く腫大し、凹凸不平、汚穢暗褐色を呈し處々に鱗屑、痂皮を帯び、又小剝脱面を存して其間に豆大の扁平な紅い Knötchen が見える。
- 4) Fistel からは稀薄な血漿膿様の分泌物があつて、其中に魚卵の如く帶黄白色砂粒大の顆粒を混じ、之れが病原菌の集團である。

経過 極めて慢性で十數年に亘り終には骨をも侵すに至る。栄養状態は長く侵されないが早晚衰弱を來す。

治療 燒灼、切斷手術。

VII. 脾脱疽 Milzbrand, Anthrax, Pustula maligna

定義 脾脱疽菌の感染に因るもので牧童、屠者、獸醫、靴屋等に見られ皮膚の限局性壞疽をなすものである。

症候 1) 主に Vorderarm, Gesicht に來る。感染後2—3日乃至7—8日の潜伏期を経て、發熱と共に其部に紅色の丘疹を生じ直に水泡又は血泡を發生し次で乾潤して局所の壞疽により黒褐色の厚い Kruste 作る。(Milzbrand carbunkel) 痂皮脱落すれば治癒する。

2) 或は發生後數日で板の如き硬い皮下組織の浸潤と周圍の浮腫を伴つて増大し手掌大以上に及ぶがある。脾脱疽蜂窠織炎 Milzbrandphlegmone 患者は發熱其他の全身症狀強く全身感染を起して斃れる。

3) 病毒侵入部には症狀殆どなく、急速に皮膚皮下組織或は筋骨間に及ぶ水腫を發生し (Milzrandödem) 初めは蒼白又は淡紅で (Milzbranderysipelas) 後には帶紅蒼青色となり Blase, Purpura を發生し, Lymphdrüsenanschwellung を伴つて急劇に蔓延するもある。

- 4) 自覺的には局所に癢痒と灼熱とを訴ふるのみである。
- 5) 輕症のものは分界線を作り壞疽部を脱離して治癒するが重症では1-2週で死亡する。

診 断 水疱の内容容、潰瘍分泌物中に *Milzbrandbacillen* を證明する。

療 法 1) *Milzbrandserum* の大量 (20-40c.c.) を皮下注射す。

2) *Rivanol*, 昇汞水の局所療法

VIII 水瘡 *Noma*, *Wasserkrebs*, *Nosokomialgangraen*

定 義 極めて迅速劇烈に進行破壊する皮膚及び粘膜の腐敗性傳染病である。

- 症 候**
- 1) 多く 2-10Lj の衰弱した貧血性小兒を侵し稀に大人に發する。
 - 2) 顔面に最も多く、殊に頬粘膜に初發する。次に陰部、會陰に發生する。
 - 3) 此等の部位に初め紅斑腫脹を發生し、須由にして局部組織は *Nekrose* に陥つて汚穢惡臭ある灰白色、帯綠色乃至黑色の泥狀物となる。其周縁は暗紅色浮腫狀を呈する。
 - 4) 數月で壞疽組織は脱落して周縁斷崖狀をなした深い潰瘍を形成し、底面は膿汁、腐敗物、壞疽組織で充されてゐる
 - 5) 潰瘍の進行が停止すれば肉芽發生して治癒するが、多くは壞疽が益々周圍に進行し、發熱は 39°C 以上に及び貧血強く終には *Sepsis* を起して死亡する。

原 因 不明、種々の菌の混合傳染と想像されてゐる。

療 法 *Allgemeine Narkose* の下に *local* を充分に焼灼又は切除する。
Diphtherieserum の有效なことがある。

第四十一圖



スボロトリヒョーゼ

第四十三圖 *Sporotrichosis*



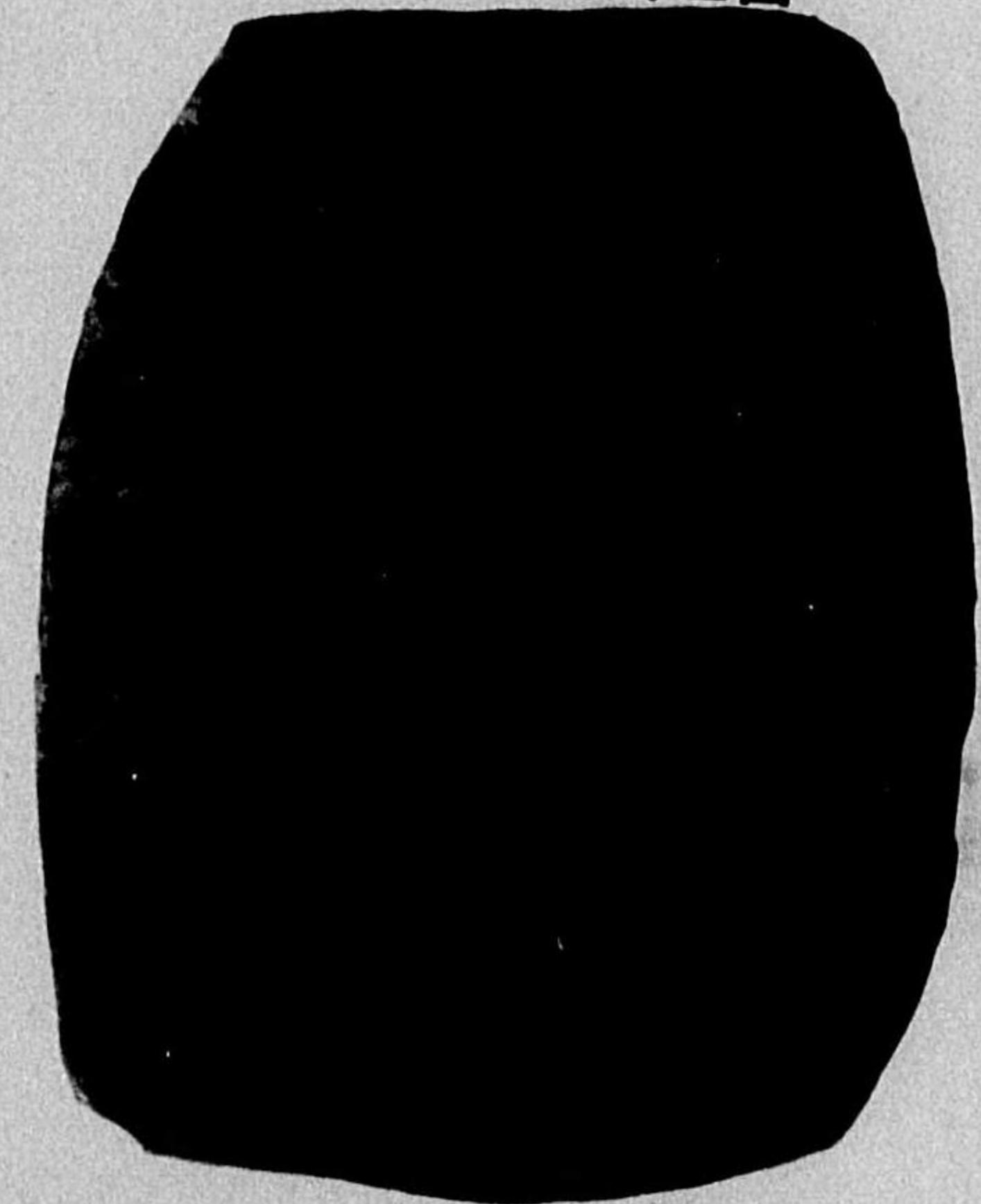
尋常性天疱瘡
Pemphigus vulgaris

第四十二圖



放線状菌病
Aktinomykose

第四十四圖



落葉状天疱瘡
Pemphigus foliaceus

第十一章 水疱性皮膚疾患 Bullose Hautkrankheiten

I 汗疱 Pompholyx, Dyshidrosis Tilbury Fox, Cheiropompholyx Hutchinson

定義 Handteller, Fusssohle に春夏の候に現はれるもので miliargross から bohngross に達する Bläschen, Blase, Pustel を生じ再發し易い。

症候 1) Blase は Epidermisschicht の内に現はれるもので數個の事もあり多數の事もある。

2) Blase は roter Hof を有せず、健康な皮膚面に散在し數日中に疱膜が破れると Blasenboden は乾涸して居り、Rötung もなく nässen もせず薄い白膜に圍まれた巾着形の空洞を残して間もなく消失する。

3) Blase が Epidermis の tiefe Schicht に生ずると被膜も固く rosa rot の Papel をなし多少 roter Hof があり癢痒灼熱感がある。

4) Blase が外に破れ又は spontan に resorbieren されると、Jucken も去り其あとに一時 Pigmentierung を留める。

5) Trichophyton の感染を來し易い即ち Trichophytia pompholyciformis に就ては Trichophytie の項に述べた、之との區別が困難である。

原因 noch unklar, Dyshidrosis 發汗異常症に因る汗腺輸出管の閉塞性囊腫であるとの説がある。

類症鑑別 汗疱様白癬 *Trichophytia pompholyxiformis*: 單純な *Pompholyx* よりも此方が多いのである。*Cheiopompholyx* は數年に亘つて *Blasenbildung* が淺在性で毫も *entzündliche Erscheinung* を呈しないことがあるが *Trichophyton* の傳染を起せば必ず症状が増悪して行く。

唯 *Cheiopompholyx* に於て *Blase* が深層より發生し潮紅灼熱があり癢痒が強いつきは *Trich. pomph.* との區別が困難である。其異なる點は *Trich. pomph.* には *Blase* が孤立せず互に連絡し其部の皮膚は落屑、浸潤、肥厚を呈して遂には境界明劃な濕疹面を作ることである。尙落屑中より容易に *Trichophyton* を證明する。

療法 1) 5—10% *Salicylsäurealkohol*, *Infiltration* 強ければ *Teerpasta* を用ふ。

2) *Röntgen*

II 天疱瘡 *Pemphigus*

Pemphigus とは健康皮膚面に *Blase* を形成し *chronisch* の *Verlauf* をとる疾患を云ふのである。*Pemphigus vulgaris* 尋常性天疱瘡, *Pemphigus foliaceus* 落葉狀天疱, *Pemphigus vegetans* 増殖性天疱瘡等で孰れも *Blasenbildung* を主とする慢性症である。

A 尋常性天疱瘡 *Pemphigus vulgaris*

定義 皮膚並に粘膜に斷續的に水疱を發生する慢性の稀有症で早晚衰弱に陥つて死亡するのが常である。

症候 1) *Prodrom*: *Schlaflosigkeit*, *allgemeine Mattigkeit*, *Magendarmstörung*, *Frösteln*, *Fiebersteigerung* 此等は著明でないこともある。

2) *Blasenbildung*:

i) *plötzlich* に健康皮膚面又は僅に潮紅した皮膚面に生ず。

ii) *bohngross bis hühnereigross* で初めは *spannen* し *Inhalt* は酒黄色の漿液で無菌的である。

iii) 數日内に弛緩し内容が膿様になり、其儘吸收される事もあり又は破壊して紅色の剝脱面を露出して漿液を漏し其表面に痂皮を結ぶ。

iv) 間もなく *epidermisieren* して時に紅褐色の *Pigmentierung* を貽す。

v) 時には *Blase* 中に *bluten* し或は *Blasenboden* が *Geschwür* 又は *Nekrose* に陥り又は *graugelblich* の *Pseudomembran* を生ずることもある。

vi) 數は不定、一般に漸次増加する。

3) *Subjektive Beschwerden* は *Erosin* ある時疼痛あるのみ。

経過 1) *Blase* が發作性に反覆發生し其間隔は不定であるが、経過は常に不良で良好のものでは數月から數十年、悪性のものでは數週乃至數ヶ月で斃れる。

2) *Pemphigus solitarius* では豫後比較的良好なこともあるが多く

は水疱は其數を増して全身に汎發し、進んで粘膜炎をも侵し熱發、食思缺乏、精神沈鬱等の全身症狀を伴ひ脱力衰弱して遂に斃れる。

3) Pemphigus mucosae は Schleimhaut に Blasenbildung を見
るもので殊に悪性なりとされてゐる。

原因 全く不明

分類 良性のもの: P. solitarius 孤立性天疱瘡
P. localis 局所性天疱瘡
悪性のもの: P. haemorrhagicus 出血性
P. ulcerosus 潰瘍性
P. gangraenosus 壞疽性
P. crouposus et diphtheriticus
P. circinatus 連環状
P. serpiginosus 蛇行状
P. mucosae 粘膜炎
P. universalis 汎發性

診断 健康皮膚面の水疱形成と慢性の経過

類症鑑別 1) 白色葡萄状球菌性膿痂疹 Impetigo albostaphylogenes Dohi: 多く幼児に來り Blaseninhalt に Staphylokokken を證明する。

2) 癩性天疱瘡 Pemphigus leprosus: 多く四肢に發し同時に知覺麻痺、神經肥厚がある。

3) 先天性表皮水疱症 Epidermolysis bullosa hereditaria: 遺傳的疾患で幼時からあり水疱形成は常に外傷により生ず。

4) 藥疹 Arzneiexanthem: 殊に Antipyrinexanthem は數々水疱を作るが口、肛門、尿道周圍に多く、同時に他の Ausschlag が存

在する。

5) 微毒性天疱瘡 Pemphigus syphiliticus: 先天梅毒兒の Handteller, Fusssohle に來り、且つ銅紅色の紅斑は丘疹を伴ひ他にも Syphilis の Symptome を有す。

6) デューリング氏疱疹状皮膚炎 Dermatitis herpetiformis Dühring: 劇烈頑固な癢疹があり、Ausschlag も Blase の他に Erythem, Blutborke, urticariöse Ausschläge を生じ、Blase は多く環状の配列をなし、且つ Pemphigus の如く Schwäche に陥ることは稀である。

7) 多形滲出性紅斑 Erythema exsudativum multiforme: 四肢末梢の Streckseite を好發部位とし、且つ Gelenk の疼痛性腫脹があり Verlauf も數週以内で終る。

療法 Symptomatische Therapie に止まる。

1) 強壯劑

砒素劑: Solarson, 1% Na. arsenicosum, Salvarsan

規尼涅の大量: 1日 2—3 gr

沃刺

自家血清又は健康人血清

2) 浴治法

3) 理學的療法: Ultraviolettstrahlen

4) 局所療法:

1) Blase は Punktion して内容を排出す

2) Erosionsfläche には Dermatolsalbe, Borzinksalbe を貼す

3) Pemph. mucosae には Trypaflavin, Lugol を塗布す。

5) 食餌は Eiweiss を制限するか又は無食鹽療法を行ふ。

B 落葉狀天疱瘡 Pemphigus foliaceus

- 症候 1) Blase が極めて弛緩性扁平で其内容は初めから潤濁する
- 2) Epidermis は大きく剝離し、葉狀の薄い鱗屑となり又は濕潤した滲出液と混じて灰白黄褐色の Kruste を作つて剝脱面を蔽ふ。
- 3) 完全なる上皮形成は營まれず、痂皮鱗屑の下には常に糜爛せる種子層面を現はし、稀に上皮を形成しても薄弱で容易に剝離する。
- 4) **Nikolskysches Phänomen** (指頭を以て皮膚面を強く壓迫し或は摩擦すれば角層が容易に剝離する現象)が必ず存在する。
- 5) 病變は漸次擴大して遂には全身を侵すに至る。
- 6) 皮膚は弾力を失つて皸裂を生じ易く、且つ癢痒の甚だしい事が苦痛である。後には毛髪や爪にまで變化が及んで此等が脱落する。
- 7) 末期には熱發をも伴ひ、數月數年の内に Schwäche のため又は Lunge, Niere, Darm 等に Komplikation を起し又は Sepsis のために斃れる。

- 療法 1) 藥浴又は電氣浴
- 2) Vaseline の塗布。其他は P. vulgaris に準ず。

C 増殖性天疱瘡 Pemphigus vegetans

- 症候 1) Blase は弛緩し内容は漿液膿性で忽ち破れて痂皮を作り、數日内に痂皮の下より組織の増殖を生ずる。
- 2) gesund な Epidermisierung を營む事なく、Erosionsfläche は惡臭ある液を分泌し、汚穢灰白色の苔を被むる。

- 3) 附近に數々水疱を續生し互に融合し、又は邊緣より擴大して廣大な Erosionsfläche を作り、其中央は濕性乳頭狀の組織増殖をなして腫瘍の如くであり、周縁には膿疱を見る。
- 4) 發作性に激烈な癢痒を訴へ、粘膜面に生じたものは増殖性の惡臭ある Geschwür を作り疼痛がある。
- 5) 初めから増殖性の傾向があつて Pemphigus vulgaris から變化して來る事はなく
- 6) 天疱瘡中最も惡性のもので常に死を來す

部位 關節屈面に發し殊に鼠蹊部、外陰部周圍、臍窩、腋窩、乳房下、頸部髮際、口圍、口粘膜は其好發部位である。

類症鑑別 扁平コンヂュローム Condylomata lata: 初期のものは形狀部位共に相類似するが、此は Pemphigus の如く組織の増殖甚だしくなく、容易に Spirochaeta pallida を證明し Wa-R. も positiv である。驅微療法に依り速に消失する。

- 療法 1) 一般的療法は Pemph. vulgaris と同様
- 2) 局所療法 i) Röntgen- bestrahlung
ii) Auskratzung u. Kauterisation
iii) 0.85% NaCl-umschlag
iv) Jodotinktur, Jodoform

D. 有熱急性天疱瘡 Pemphigus acutus febrilis

- 症候 1) plötzlich に Schüttelfrost を以て40°C 内外の高熱を發す。
- 2) 同時に皮膚の摩擦する部位(大腿部、鼠蹊部等)に紅斑を生じ其中央に水疱を發生する。
- 3) Blase は速かに hühnereigross に迄達し内容は淡黄色、膿性或は血性を

呈す

- 4) Blase が破れると赤い Erosionsfläche が現はれ Kruste を被むる。時に Erosionsfläche が nekrotisch になり或は Pemphigus vegetans の如く papillomatöse Wucherung をなすこともある。
- 5) Mundhöhle, Rachen, Kehlkopf 等の粘膜に水疱形成を來すことあり。
- 6) 2-3 Woche で發疹の罷む事もあり allgemeine Symptome のために數週で斃れる事もある。
- 7) 土肥博士は Septikaemie であると謂はれる。

III チューリング氏疱疹狀皮膚炎

Dermatitis herpetiformis Dühring

定義 Blasenbildung を Hauptsymptome とする chronische juckende Hautkrankheit で allgemeine Zustand の侵されないものである。

- 症候** 1) Blasenbildung を主徴とするが同時に他の發疹 Erythem, Papel, Urtica, Pustel etc. を存する。
- 2) 種々の神經症狀があり最も屢々激烈な癢痒を伴ふ。此癢痒は多くは發疹に前驅し且つ本症の經過中常に存續する、又灼熱疼痛を伴ふ事がある。
 - 3) Blase は多く紅斑又は蕁麻疹様腫起上に又は其附近に發生し、豆大から梅實大にも達し散在し又は集合するが好んで輪圈狀をなす性質がある。
 - 4) Ausschlag は初め多く前膊、下腿に發し、左右對生の傾向があり、漸次蔓延して Rumpf に及ぶ。sacralgegend, Halsteil は好發部

位である。Gesicht, Handteller, Fusssohle は殆ど侵されず、粘膜も稀である。

- 5) 個々の Ausschlag の Verlauf は數日乃至數週であるが、疾病の全經過は慢性で數月から數年に及び、長短種々の潜伏期があつて再發し易く、或は自然に治癒し或は終生不治である。
- 6) 搔破又は摩擦により水疱破れて糜爛面を現はし、又被膜痂皮を止める。
- 7) 通常癬痕は形成されないが、Kruste の脱落后一時 pigmentieren し又は暗黒色の Rand を有する Depigmentation を貽す。
- 8) 天疱瘡に比し全身状態は良好で、食思缺乏や營養障碍はなく能く健康を保持する。
- 9) 沃度の内服又は外用により症状が誘發されると云はれる。

原因 1) 種々の毒物による神経系統の障碍に基づくものならんとするものあり。

2) Knochenmark の障碍に歸するもの (Eosinophilie の存在により)

3) 内分泌障碍に原因するとなすもの

診断 1) 水疱の他に紅斑丘疹の蕁麻疹等の存すること

2) 癢痒著明なること

3) 經過慢性で再發し易きこと

4) 全身状態の良好なること

療法 1) 亞砒酸劑

2) 生理的食鹽水の靜脈内注射

3) 局所の膏劑對症療法

4) 理學的治療

5) 内分泌腺製剤

附) 妊娠性疱疹 Herpes gestationis

妊娠、後半期時に分娩後に発生する水疱疹で Dühring 氏病と臨床上區別すること困難である。症状は数週数ヶ月で治癒するが妊娠により再発する

IV 先天性表皮水疱症

Epidermolysis bullosa hereditaria Köbner

症候 先天性の素因による疾病で家族的に又は血族結婚の家系に見られる。其症状は出生時より已に存し、摩擦壓迫等の軽微の外傷に因り皮膚に軽度の癢痒感と共に紅斑を生じ次で水疱を作るを特徴とす。従て手、足、項に多く皮膚の萎縮、爪甲の変質脱落を生じ易い。

療法 多く終生不治で治療法も對症療法に止まる。

V 種痘様水疱症 Hydroa vacciniforme Bazin

定義 日光の化學線に對し過敏の感受性を有する特種の素因ある者に見られる疾病で、日光に直射されると其部分に紅斑、結節、水疱を生ずるものである。

症候 日光の直射を受けると露出部(手、足、顔面等)に急速に粟粒大から梅實大に至る硬い鱗白透射性の結節を生じ紅暈がある。次で其中心に水疱を形成し乾涸して痂皮を作り其脱落した後に種痘に似た瘡痕を遺す。此發作を反覆し、経過は長く爲に高度の醜形を呈するが全身状態には影響はない。其症状輕く僅に紅斑水疱を生じ瘡痕形成に至らぬものを *Hydroa aestivale* と呼ぶ。

療法 は光線の作用を防ぐためにキニーネ水 3—5%, 硫酸キニーネ軟膏を用ふる。

IV 帯状疱疹又は帯状匍行疹

Herpes zoster, Zoster, Zona

定義 一定の神経の経路に沿つて急性に発生する紅色の水疱疹で、集簇して帯状をなし多く偏側に來るものである。

- 症候** 1) Prodrom として Mattigkeit, Unwohlsein, Fieber, Neuralgie を伴ふことがある。
- 2) 一定の神経の分布區劃に従て皮膚の一局部が急に鮮紅色を呈し、次で其面上に小豆大の紅疹が群生し數時間又は數日内に小水疱に變ずる
- 3) 一群の水疱は同時に発生するもので、其外形も等しく経過も等しい。此水疱群が前後して発生するので新舊によつて其外觀を異にする。而も一つの水疱群と他の水疱群との間には健康皮膚面が認められる。
- 4) 個々の小水疱の大きさは概ね等しく、約ね粟粒大乃至麻實大であるが時には少數の僅かに隆起した圓形若くは橢圓形の小丘疹に過ぎぬことがあり、或は又僅に小水疱の一群を存するに過ぎぬこともあり、又時としては小水疱が融合して櫻實大の水疱に變化することもある。時には血疱、壞疽を發生することがある。
- 5) Blaseninhalt は初めは klar であるが後に trüben して eitrig になり、次で乾涸して bräunlich schwärzlich の Kruste を作り概ね一週間内外で剝脱して一時 Pigmentation を止める。時とし

ては後に Narbe を遺すことがある。

- 6) regionäre Lymphdrüsenanschwellung を來し疼痛を伴ふが數日で消褪する。又時には周囲の Haut に diffus の ödematöse Anschwellung を伴ふことがある、殊に顔面では著明に現はれる。
- 7) Exanthem に前驅し又は同時に Neuralgie を有することが多い。此 Neuralgie は幼少の者には稀であるが成人では時に極めて激烈なことがある、又後貽症として永く此 Neuralgie が残り或は局部皮膚の Anaesthesia, 又は Motorische Lähmung を來すことがある。
- 8) 水疱群の發生は2—3日から7—8日で終り、更に其全く消滅するまでに 1—2 週を要するが、重症では一月以上を要することもある。
- 9) 殆ど總て終生免疫を得る。

- 分類** 1) 頓挫性匍行疹 Zoster abortivus: 紅疹が水疱を形成しない内に吸収されるもの。
- 2) 不全帶狀疹 Z. incompletus: 水疱が數個に止まり又一二の小集團に過ぎないもの。
- 3) 水疱性帶狀疹 Z. bullosus: 水疱が著しく大なるもの(時に鳩卵大にも及ぶものがある)。
- 4) 出血性帶狀疹 Z. haemorrhagicus: Blasenboden に血液浸潤を起し爲に Blase は血疱となり黒褐色の痂皮を結び、多く後に Narbe を止める。
- 5) 壞疽性帶狀疹 Z. gangraenosus: Blasenboden が Nekrose に陥り黒褐色の燒痂を作り、後に深い Narbe を遺すものである。
- 部位に依る分類** 身體各部に發生し夫々の神經枝に従て呼ばれる

が最も屢々見るものは

- 1) Zoster unilateralis et bilateralis
- 2) Z. pectoralis et intercostalis
- 3) Z. facialis: Trigeminiast に沿ひ生ず。
 - I Ast: Z. ophthalmicus s. frontalis で前頭、眼窩、鼻。
 - II Ast: Wange, Rachen, Gaumen の Schleimhaut.
 - III Ast: Zungen-schleimhaut.
- 4) Schleimhaut にも來る Zunge, Conjunctiva, Cornea, Urethral u. Blasenschleimhaut 等に見られる。

- 診斷** 1) 水疱群の發生。
- 2) 神經系に沿ふこと。
 - 3) 偏側性なること。
 - 4) 淋巴腺腫脹。
 - 5) 神經痛を伴ふこと。

- 類症鑑別** 1) 急性濕疹 Eczema acutum: Neuralgie が存せず、水疱群と水疱群の間に健康皮膚面を見ない。
- 2) チューリング氏疱疹、皮膚炎 Dermatitis herpetiformis Dühring: Jucken はあるも Neuralgie がなく、Blase も一樣でなく概して大きい。尙其發生は神經枝の分布領域と一致しない。
- 3) 尋常性天疱瘡 Pemphigus vulgaris: 水疱が大で散在性で集簇しない。皮膚に潮紅を缺き Neuralgie もない。又慢性で屢々再發する。

原因 神經の障礙又は中毒(酸化炭素、亞硝酸、サルワルサン)に因て起ることがある。特發性のものに就ては一種の病毒に因る傳染説が有力である。

- 療法** 1) 紅疹又は水疱には Zinköl を塗布し 2% Borwasser で濕布す。
- 2) 糜爛面又は壞疽には Borzinksalbe 又は Umschlag.
- 3) 鎮痛の目的に Anaesthesin, Novocain, Cocain, Ext. bellid. 等を 10% の割に加へる。
- 4) 神経痛又は其豫防に Aspirin, Pyramidon, Salipin, Mygrenin Phenacetin, Na. Salicy. の内服。
- 5) 神経痛が貼れば Diathermie, 紫外線, Radium, 電気療法, 浴治療法又は 75% Alkohol の皮下注射

VII 單純性疱疹 Herpes simplex

定義 一定の神経経路に沿はず急性に發生する水疱團で、再發し易く潰瘍を作らず、數日で治癒するものである。

- 症候** 1) 針頭大又は麻實大の小紅疹が突然皮膚面に發生し、間もなく圓形の小水疱に變ずる。
- 2) 此際患部に軽度の癢痒、熱灼、緊張又は一種のビリビリする感覚が前驅することあり、又發疹に伴つて起ることあり或は全然自覺症狀を缺如する事もある。
- 3) Bläschen は數個散點し融合する傾向なく周圍に紅暈を有する。
- 4) 二三日内に自然に乾燥し或は水疱膜が剝脱した後薄い痂皮を結びて治り、決して潰瘍痕を作らぬ。
- 5) 稀に附近の Lymphdrüsen が多少腫脹することがある。
- 6) 粘膜と皮膚との境界近くに發生し、且つ再發することが多い。
- 7) 部位に據つて次の數種に分類する。

- i) Herpes facialis 殊に H. labialis は熱性病の折多く之を見るにより H. febrilis の名がある。
- ii) Herpes genitalis も多い、其中 H. menstrualis は月經毎に再發するものである。
- iii) Herpes mucosae は口腔、鼻の粘膜、結膜等に来り稀には男子尿道、子宮頸部、膣に来る

原因 1) 神経説

2) 中毒説

3) 傳染説 最も有力で疱疹内容液を以て家兎角膜又は腦内に移植し得られる。

類症鑑別

- 1) 帶狀疱疹 Herpes zoster: 一定の神経枝の経路に沿ひ Neuralgie のあること、及び水疱著明に簇生し再發は殆どなし。
- 2) 軟性下疳 Ulcus molle: 眞の Geschwür で疱疹の如き單純の糜爛でなく、疼痛があり有痛性横痃を生じ易く経過は遙に長く容易に治癒しない。
- 3) 硬性下疳 Ulcus durum: 周圍及 Boden に著明の浸潤硬結があり又 Bubo indolenta を生じ経過も長い。
- 4) 黴毒性乳色斑 Plaques muqueuses: linsengross の Enanthem で表面は多少隆起し屢々白苔があり経過は緩慢である。

療法 1) Dermatol, Xeroform, Eugform, Airol の撒布

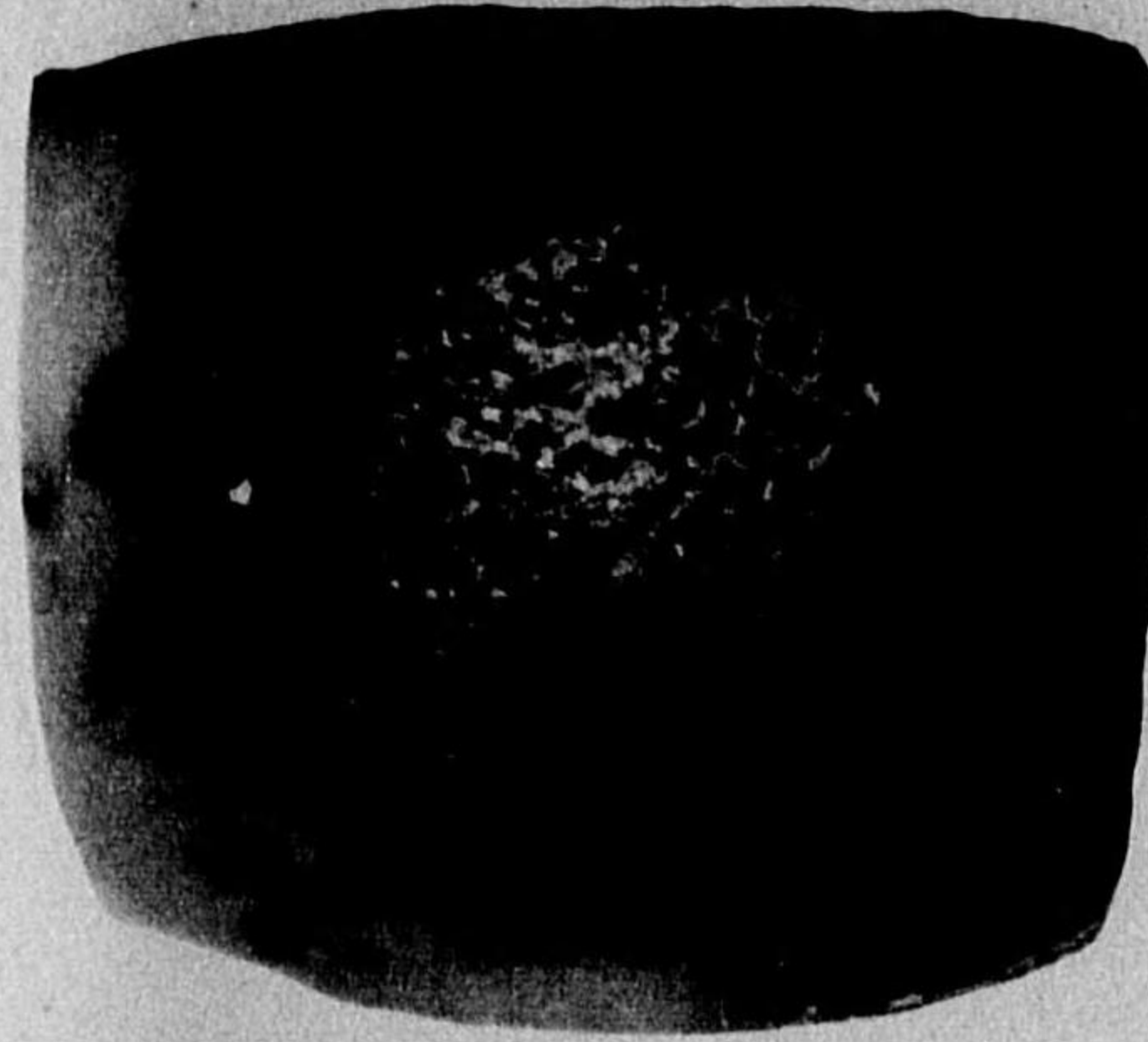
2) Borzinksalbe の貼用

3) Vaccination

屢々再發するものには効果があり殊に其善感した場合には概ね再發を防止することが出来る。蓋し痘毒と疱疹毒とは極めて類似し

た濾過性の病原體に因るもので群屬反應として有効に作用するの
であらう。

第四十五圖



増殖性天疱瘡
Pemphigus vegetans

第四十六圖



ザユーリング氏疱疹狀皮膚炎
Dermatitis herpetiformis Dühring

第四十七圖



尋常性鱗屑癬
Psoriasis vulgaris

第四十八圖



種痘様水疱症
Hydroa vacciniforme Pazin

第十二章 炎症性角化性皮膚疾患 Entzündliche keratotische Hautkrankheiten

I 尋常性鱗屑癬又は乾癬 Psoriasis vulgaris

定義 點狀又は圓斑狀の紅疹を對側性に發生し、其上に銀白色の乾燥した鱗屑を帯びる慢性皮膚病である。

症候 1) 肘及膝蓋部に左右相對性に針頭大或は之より稍大なる紅斑を生じ、間もなく其表面に銀白色の重疊した鱗屑を生じ周圍に紅暈を示す。

2) 發疹は新しきは鮮紅色舊きは稍褐紅色で、常に乾燥し且浸潤を缺き境界は常に極めて明劃である。

3) 鱗屑は雲母狀に重疊し爪を以て之を擦すれば容易に剝離する。其狀宛も蠟痕を剝がすに類するので之を **蠟痕現象 Kerzfleck-phaenomen** と云ふ。

4) 此鱗屑を剝離し盡すと紅い種子層が現はれ、其處に點狀の出血點を認める所謂 **點狀出血 punktförmige Blutung** である。

5) 常に左右對生的に發生し粘膜を侵さない。

6) 漸次擴大増殖して甚だしいのは全身に及ぶ、又極めて再發し易い。

7) 自覺症は通常之を缺き時に癢痒を訴へる、汎發するとき増大する時に苦しい。

部位 1) 身體突出部に好發し、左右對側的に肘及膝蓋を最好發部位とする。

- 2) 次には四肢の伸側, 頭部, 手背, 足甲, 頸椎部, 薦骨部。
- 3) 顔面には少い。
- 4) 掌跖面は極めて稀であり, 肘窩及膝窩は殆ど常に侵されることがない。
- 分類** 1) *Ps. punctata* 點狀鱗屑癬: 發疹が點狀をなすもの。
- 2) *Ps. guttata* 飛沫狀鱗屑癬: 點狀の發疹飛沫狀に散發するもの。
- 3) *Ps. nummularis* s. *Ps. orbicularis* 貨幣狀又圓形乾癬: 貨幣大を示す。
- 4) *Ps. annularis* 環狀乾癬: 中心消褪して環狀をなすもの。
- 5) *Ps. serpiginosa* 蛇行狀乾癬: 蛇行狀に周圍に蔓延するもの。
- 6) *Ps. geographica* s. *gyrata* 地圖狀乾癬: 發疹相融合して大小種々の形狀をなすもの。
- 7) *Ps. universalis* 汎發性乾癬: 全身に蔓延するもの。
- 異型** 1) *Ps. infiltrata* 浸潤性乾癬: 發疹に浸潤があつて丘疹狀をなすもの。
- 2) *Ps. inveterata* 陳舊性乾癬: 陳舊で浸潤肥厚殊に著明なもの。
- 3) *Ps. interverti* 反對性乾癬: 通常の部位と反對に關節屈面, 鼠蹊部, 陰部, 腋窩, 或は手掌, 足趾を侵すもので着色が特に濃厚である。
- 4) *abgeschwächte Psoriasis* 微弱性乾癬: 鱗屑薄く色も淡紅で境界不明なもの, 殊に顔面, 陰部等に發生する。
- 5) *Ps. pustulosa* 膿疱性乾癬: 乾癬發疹の表面に多數の粟粒大の小膿疱を發生するものである, 或は發疹少しく潤濁して表面か

ら滲出液があり, 乾燥して汚穢黄白色の屑痂を形成する。

- 6) *Ps. rupoides* 蝸殼狀乾癬: 上述の屑痂重疊して蝸殼狀を呈するものを云ふ。
- 7) *Ps. arthropatica* 關節畸形性乾癬: 關節の畸形を伴ふものである。
- 経過** 多くは青年以上の強壯なる者に突然發生し, 経過は治療を加へた場合にも極めて弛緩性で一進一退容易に治癒しない。一旦輕快しても再發し易く, 再發を重ねる毎に病勢は頑固になり藥物に對する抵抗を増加する。

病理解剖 1) Parakeratose u. Akanthose

- 2) 乳頭の延長
- 3) 乳頭及乳頭下層の血管擴張

原因 寄生説, 神經説, 新陳代謝異常説, 内分泌障礙説

診断 1) 限局した境界明劃の發疹

- 2) 銀白色の鱗屑と蠟痕現象
- 3) 點狀出血
- 4) 伸側の部位

類症鑑別 1) 落屑性濕疹 *Ecz. squamosum*: 鱗屑枇櫟様で患部は境界不明瞭, 癢痒激甚である。

2) 脂漏性濕疹 *Ecz. seborrhoicum*: 鱗屑黄色脂軟性で往々濕潤す。

3) 落屑性丘疹微毒 *abschuppende papulöse Syphilid*: 丘疹上に鱗屑を生ずるもので最も *Psoriasis* に類似するものがある。但し基底に浸潤があり發疹の色も暗紅色である。*Schuppen* は脂性を帶び部位も屈側, 顔面, 髮際, 陰部等に好發し且つ輪狀に排列

し、尙其他に淋巴腺腫脹、陽性ワ氏反應等 Syphilis の症候がある。

- 4) 毛孔性紅色枇糠疹 Pityriasis rubra pilaris: 膝蓋、肘等に symmetrisch に來り乾燥した鱗屑を帯び Psoriasis に酷似するが、必ず手掌、足趾に角化症があり其周圍に毛囊に一致した角栓が認められる。
- 5) 落屑性皮膚炎 Dermatitis desquamativa: 全身潮紅落屑するが原發疹を缺く。
- 6) 紅斑性狼瘡 Lupus erythematosus: 鱗屑固着し點狀出血を缺き中心は癩痕萎縮を示す。

療法 根治せしめることは困難で、治療によつて一旦輕快しても再發し易く、再發を重ねる毎に重症に赴き藥劑に對する抵抗を増加するのが常である。

- 1) 砒素劑
- 2) Crysarobin. 1) と 2) は古來本症の特効藥と考へられたものである。
- 3) Röntgen u. Künstliche Höhensonne: 發疹を吸收せしめる。
- 4) Badekur: 鱗屑を除去し患者に快感を與へる。
- 5) Diätkur: 新鮮な果實、野菜を多く與へ、肉食を制限する。
- 6) Organtherapie (Ovariumpraeparat, Schilddrüsenpräparat): 効果不定。
- 8) 沃度。
- 8) 揚曹: 揚曹を内服せしめつゝ Crysarobin を用ふれば 0.1—0.5% の稀釋液塗布によつて發疹を吸收せしめる作用がある。此際皮膚を刺戟することなく廣汎な部位にも用ひ得られる。
- 9) 金製劑, 硫黃劑: 効果不定。

II パラブソリアジス又は類乾癬 Parapsoriasis Brocq, Pityriasis lichenoides chronica Juliusberg.

定義 Psoriasis vulgaris に似て之より薄い Schuppen を被むる Ausschlag で, Papel と Erythem とあり大きさは略々一定するが部位は一定せず、播種狀に全身に蔓延し、再發常なく而も毫も他の形態に變じない疾患である。

症候 第一型、滴狀パラブソリアジス Parapsoriasis gutta'a: linsengross 又は nagelgroß の淡紅色或は紅褐色の斑で浸潤少なく表面に乾燥した薄い鱗屑を固着し之を搔破すると點狀出血を見る。

第二型、苔癬狀パラブソリアジス Parapsoriasis lichenoides: linsengross に至る黄紅色又は紅褐色、蒼紅色の稍硬い丘疹として發生し、鱗屑を生じ殊に丘疹の中心部に於て厚い鱗屑を帯び、搔破すると瀰漫性の出血を呈する。或は中心部が少しく萎縮陷凹してゐる。

此丘疹と同時に鱗屑の乏しい貨幣大の黄紅色又は茶褐色の斑を生ずることもある。治癒した後屢々其部位に Leucoderma を來す。

第三型、局面性パラブソリアジス Parapsoriasis en plaques: 突然に帶黄紅色又は紅褐色の斑を生じ大き及び形は種々で手掌大にも達する。其表面には皮紋が著明となり平等に微細の枇糠様の鱗屑を生ずる。浸潤なく不規則播種狀に發生する。

部位 Psoriasis vulgaris と異なり伸屈兩面、掌趾にも發生する。

経過 慢性で治しない。稀に自然に消褪することもある。

診断 1) 低い丘疹又は紅斑と薄い鱗屑。

2) Psoriasis vulgaris に類して而も部位の一定せざること。

治療 効果あるものなし。

III ヘブラ氏紅色秕糠疹 Pityriasis rubra Hebra

定義 Pityriasis rubra Hebra とは Haut の diffuse Rötung と Abschuppung に始まり、次で其浸潤肥厚と色素沈着を來し、最後には Haut の Atrophie を來す不治の慢性癢痒性皮膚疾患で、處々に無痛性淋巴腺腫大を伴ふ他丘疹、小水疱、水疱の如き原發疹を發生しないものである。

症候 1) 初め鼠蹊部、陰囊、肘窩、膝窩等の皺襞部、關節窩又は露出部に限局性の潮紅面を生じて濕疹に類し、秕糠様の落屑を呈し來り癢痒が有る。此變化は漸次擴大して數ヶ月數年以内に全身に及ぶ。

2) 次で Haut に慢性の Oedematöse Infiltration を來し外見肥厚の狀を呈し、同時に皮膚の色は紅褐色から帶黒褐色に變ずる。

3) 更に皮膚の萎縮を來して菲薄になり、緊張し弾力に乏しく皺襞に沿ふて皸裂を生じ又稀に白斑を生ずる。

4) 硬毛の脱落、爪甲の變形を伴ふ。

5) 發病の初期から各處の淋巴腺の無痛性腫大を呈し、鶏卵大にも達する。

6) subjektiv には初めから激烈な癢痒ある外悪感、違和倦怠、胃腸障礙を訴へる。

7) 40Lj, 以後の強壯の男子に多い。

診断 1) 汎發性潮紅と落屑。

2) 他の皮疹なきこと。

3) 紅褐又は黒褐色の皮膚著色と其萎縮。

4) 無痛性淋巴腺腫。

5) 終始劇烈な癢痒を伴ふこと。

原因 不明、代謝障礙又は内分泌障礙と考へられて居る。

療法 symptomatisch に Jucken を去るのみ。

1) Badkur.

2) Zincpasta s. Salbe.

3) 亞砒酸の内服と注射。

4) Bruck の Injektion.

IV 初生兒剝脫性皮膚炎 Dermatitis exfoliativa neonatorum Ritter

定義 初生兒の Haut が汎く潮紅し、水疱と剝脫とを生じ、生後 2-3 Woche の間に往々夭折する急性症である。

症候 1) 生後 1-2-5 週の間に来る。

2) 多く顔面殊に大多數に於て口圍に始まるが又時に頸部、下腹部、陰股部等に境界餘り明劃でない潮紅面を生じて急劇に是が全身に蔓延する。

3) 次で潮紅面から葉狀の落屑を呈す。口角、口唇、鼻口、眼背等には皸裂を生じ出血することもある。

4) 重症では皮膚が浮腫狀に腫脹し、時に其上に水疱を生じ高熱を伴ひ、皮膚が落葉狀に剝離して其下に赤い糜爛面を現はし nässen する。

5) 體溫の消失甚だしく爲に體溫下降し衰弱して斃れる。又は Darmkatarrh, Pneumonie を續發して死する事もある。其死亡率は 50以上に及ぶ。

原因 一種の Pyaemie 又は Sepsis で Staphylokokken 又は Streptokokken が原因なりと云はれるが猶確實でない。

類症鑑別 1) 剝脱性天疱瘡 Pemphigus foliaceus: Rötung がなくて Blase を生ずる。

2) 白色葡萄状球菌性膿痂疹 Impetigo albstaphylogenes Dohi: 必ず水疱を生ずるが本症の如く廣汎面に水疱形成なく又急劇に蔓延せず衰弱を伴はない。

3) 哺乳兒落屑性紅皮症 Erythrodermia desquamativa neonatorum: 水疱を形成せず落屑面は常に乾燥してゐる。

療法 1) 患兒皮膚の摩擦及び壓迫を避け、表皮の剝離した所には亞麻仁石灰水又は亞鉛華オレフ油を塗布する。0.5—1% mercurchloromolivenöl の塗布もよい。

- 2) 綿に包み湯タンポを用ひ體温消耗を防ぐに務める。
- 3) Ultravioletstrahlen の全身浴, 微温湯の Dauerbad
- 4) 健康人血清, 母體血清の注射。

V 哺乳兒落屑性紅皮症

Erythrodermia desquamativa neonatorum Leiner

定義 初生兒の皮膚に廣汎な乾燥した潮紅面を生じて落屑し、屢々死に至る急性疾患である。

- 症候** 1) 生後 2—8 週の間に起る。
- 2) Prodrom として必ず吐乳, 下痢等の胃腸症状を呈する。
 - 3) 多く前額, 顛頂に於ける脂漏性發疹として初發するが時に鼠蹊部, 下腹, 臀部の紅斑或は關節皺襞部の間擦疹として初發するこ

ともある。

4) 経過は急速で初發部位から速に蔓延して多くは 24 時間以内遅くも 3 日以内には全身の瀰漫性潮紅を來して特有の大なる葉狀鱗屑を被る。此際口, 鼻の周圍は比較的遅くまで侵されないのが特徴である。

5) 水疱を形成する事なく陰股皺襞, 腋窩等が暗紅色を呈して少しく濕潤する他は, 一般に濕潤せず又全く糜爛面を呈しない。

6) 時に菲薄の鱗屑を被むる扁平紅色の丘疹又は爪甲大の紅色斑を見る事がある。

7) 乾燥と運動との爲に口圍には多くの放線狀皸裂を生じ屢々哺乳困難を來すことがある。

8) 経過は數週乃至 1—2 箇月で死亡率は 35% と云はれる。

原因 1) 自家中毒説: 母乳の不完全なる同化作用の結果毒素を生ずるためなりとし, 或は榮養過多による中毒なりとする。

2) Vitamin 缺乏症説

3) 内分泌障碍説, 感染説, 過敏症説, 先天性體質説

類症鑑別 1) 初生兒剝脱性皮膚炎 Dermatitis exfoliativa neonatorum Ritter: Leiner に於ては潮紅面が常に乾燥することにより鑑別す。

2) 初生兒絲狀菌性紅斑 Erythema mycoticum infantile: 多く肛圍, 大腿内側より始まるが境界明劃で全身に及ばない。

療法 1) 胃腸の治療: 哺乳の回數を減じ一回の授乳量を減ずることが最も大切である。

新鮮な果汁を與ふること。

2) 局所療法: Zincpasta, Salbe の貼用。

VI 初生兒急性天疱瘡 Pemphigus acutus neonatorum

定義 土肥慶藏博士は Impetigo allostaphylogenes Dohi と同一症なりとされるが Jacobi氏の記載によると「本症は時に流行性に現はれ多く Neugeboren を冒すが稀には稍々年長の小兒にも來るもので Staphylococcus aureus によるものである」と

症候 健康皮膚面に又は潮紅面に Bläschen 又は Blase を發生し忽ち破れて種子屑を露出する。

身體各部を擇まず發生するが手掌、足蹟は常に侵されず顔面亦稀である。一度發生して其儘治癒に赴もあり又再發して経過の長びくもある。

Jadasohn氏は之を Pemphigoid der Neugeboren s. infantiles Pemphigoid と呼んで居る。

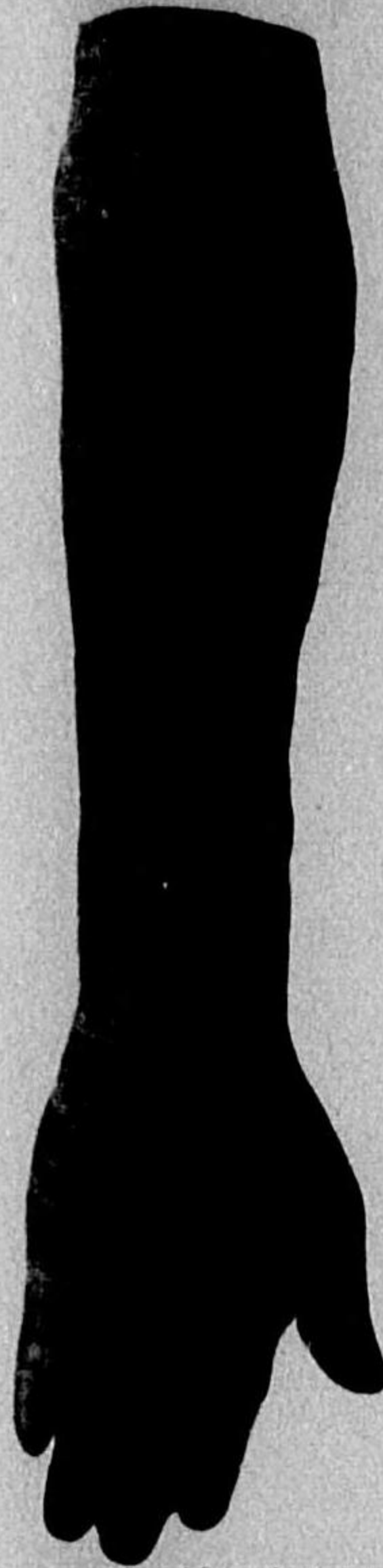
Prognose: nicht schlecht.

VII 紅色苔癬 Lichen ruber

Lichen とは Hebra 氏の定義に據ると solider Papel で決して他の皮疹に變化することのないものを謂ふのである。其最も固有なのは Lichen ruber planus, Lichen simplex chronicus Vidal で Lichen pilaris, Lichen spinulosus も此の一種である。

Lichen scrophulosorum, Lichen syphiliticus 等は時に Pustel に變化することがあつて眞の Lichen ではなく唯古來の習慣に従ひ此名稱が用ひられるに過ぎない。

第四十九圖



ヘブラ氏紅色秕糠疹
Pityriasis rubra Hebra

第五十圖 A



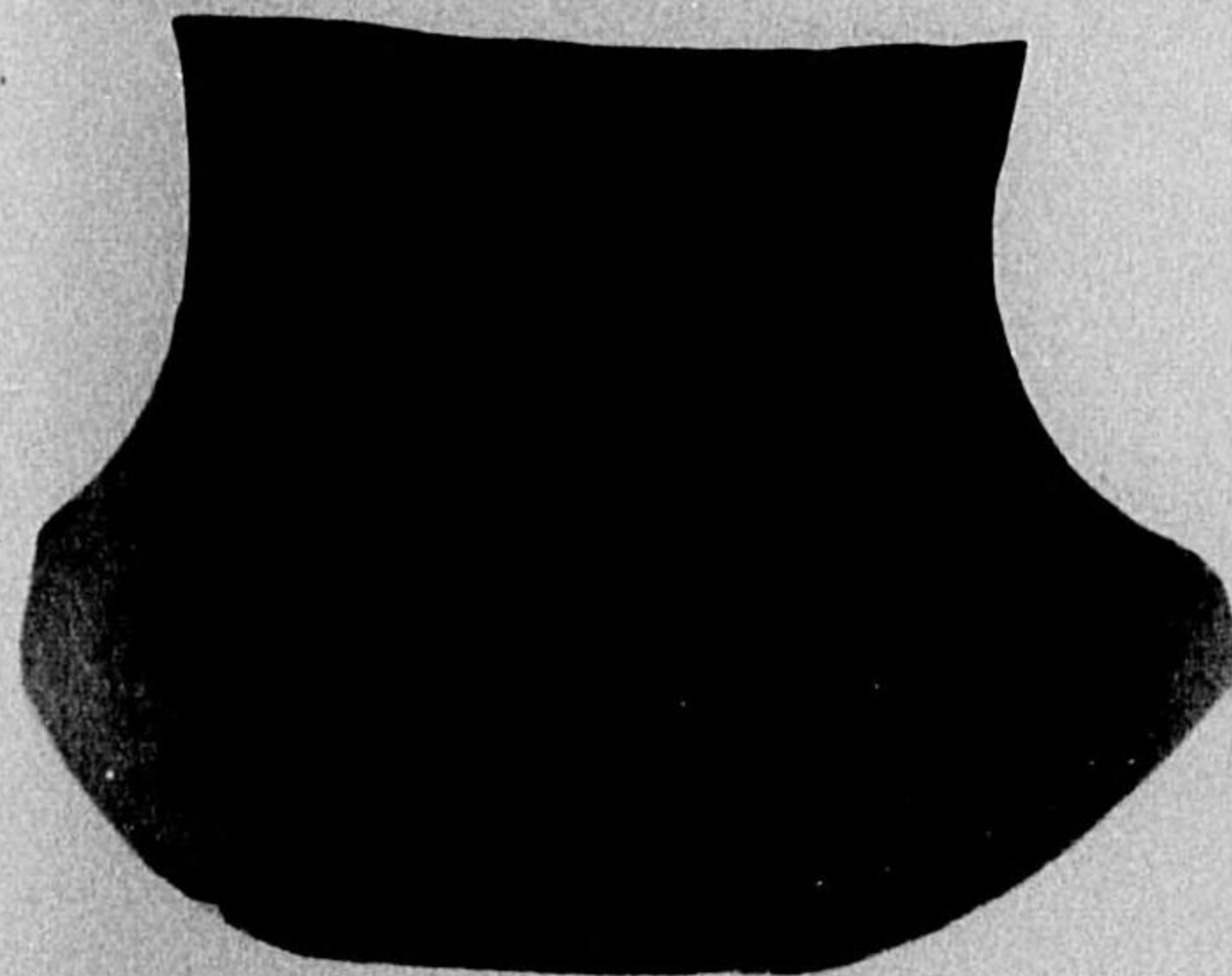
毛孔性紅色秕糠疹
Pityriasis rubra pilaris Devergie

第五十圖 B



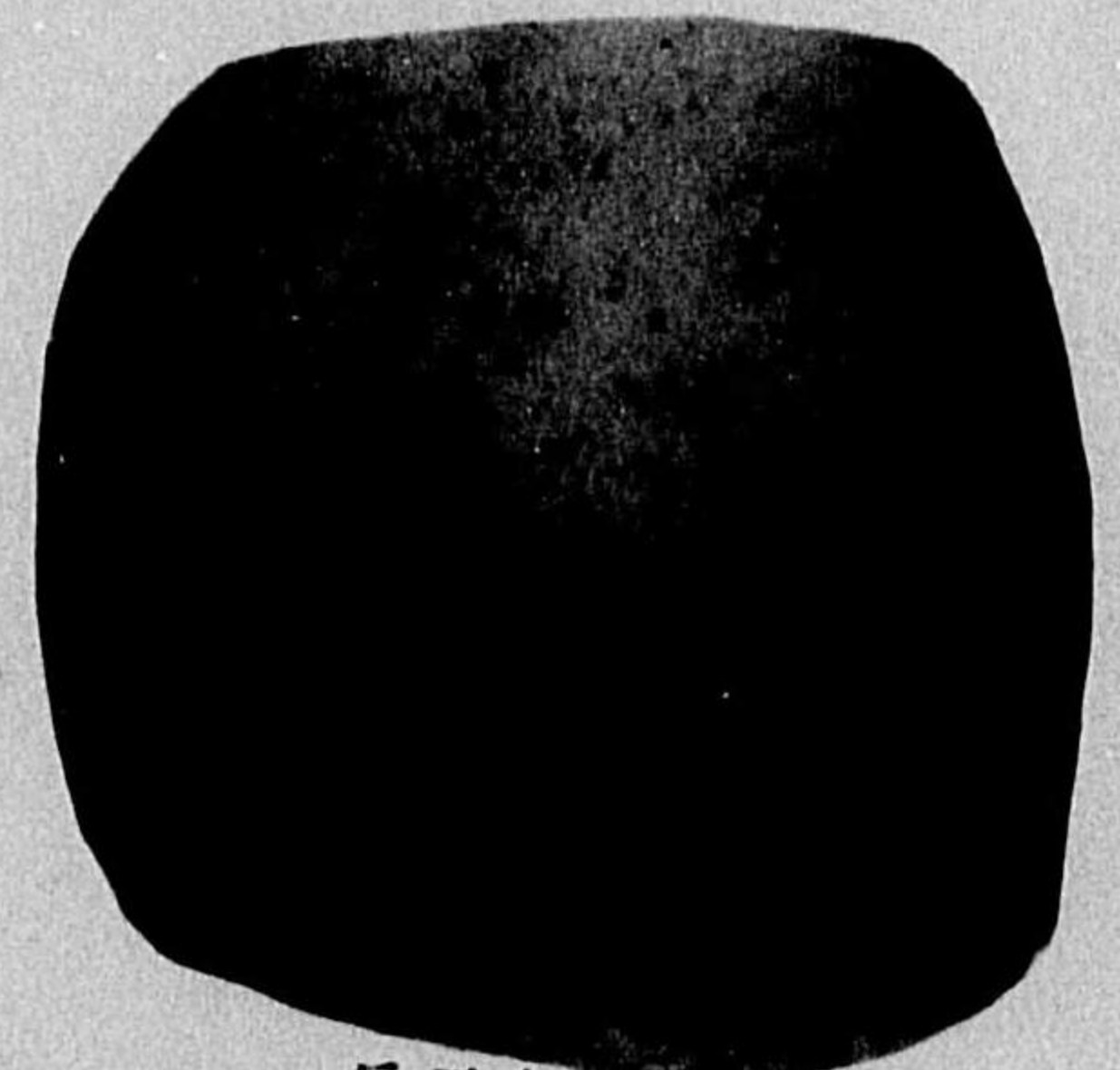
毛孔性紅色秕糠疹
Pityriasis rubra pilaris

第五十一圖



慢性單純性苔癬
Lichen simplex chronicus Vidal

第五十二圖



扁平紅色苔癬
Lichen ruber planus

A 扁平紅色苔癬 Lichen ruber planus

定義 扁平の固い充實性丘疹を發生し、終始他の皮疹に變化せず鮮紅、暗紅、紫褐黑色を呈し表面に蠟様の光澤を帯び集簇し又は散在するものである。

症候 1) 固有の原發疹は針頭大乃至麻實大で類圓形であるが稍々 polygonal 多角形を呈し、扁平に皮膚面から少しく隆起した Papel である。

色は鮮紅色又は紅褐色時に健康皮膚色で表面は glatt である。側面から諦視すると一種蠟様の光澤があり陳舊なるものは中心に臍窩を有つてゐる。又新鮮なものは周圍に繊細な紅暈を認めることが出来る、質は硬く常に乾燥してゐる。

2) 此固有の丘疹が點狀、播種狀に又は集簇性に發生し已に固有の光澤と薔薇色を呈し、數日又は數週内に擴大し集簇或は融合して大小種々の局面を作り、其大なるは掌大以上に及び時には全身に蔓延することもある。

3) 局面と健康皮膚面との境界は明劃であり周圍には必ず固有の原疹が認められる。

4) 局面の色は紅褐色、時には黒褐色で表面には淺い溝が縦横に走る。又融合した局面上には白色の菲い鱗屑を生じて固着する。

5) 自覺的には癢痒がある。

部位 四肢の屈側、臍窩、内腕、手掌、足趾、腓腸部に多く、胸腹、脊面、薦骨部、陰部、顔面、頸部、頭部にも發生する。

種類 1) L. r. pl. pigmentosus 色素性扁平紅色苔癬： 黒色のものを云ひ陳舊なるものに見る。

- 2) *L. r. pl. annulatus et marginatus* 輪廓性環状紅色苔癬: 中心が吸収され或は初めより環状に發生す。
- 3) *L. r. pl. atrophicus* 萎縮性扁平紅色苔癬: 中心瘢痕状に萎縮脱色するもの。
- 4) *L. r. pl. circinatu*: 連環状扁平紅色苔癬: 環を連ねた形状をなすもの
- 5) *L. r. pl. verrucosus* 疣状扁平紅色苔癬: 角質の増殖著しく爲に局面が丘疹疣贅状をなすもの
- 6) *L. r. pl. linealis s. striatus* 線状扁平紅色苔癬: 線状をなすもので掻破のはめに發生することが多い。
- 7) *L. r. pl. zosteriformis* 帯状疱疹様苔癬: 皮膚神経又はフォイグト氏境界線に一致して線状をなすもの
- 8) *L. r. pl. monileformis* 珊瑚珠様紅色苔癬: 丘疹珠散状に並列し而も中央のものが最も大なるもの
- 9) *L. r. pl. acutus (subacutus) s. scarlatiniforme* 急性(亞急性)扁平紅色苔癬又猩紅疹様紅色苔癬: 皮膚に瀰漫性暗紅色の潮紅を來し著名の落屑を生ず、原發疹は *nadelspitzgross* である
- 10) *L. r. pl. pemphigoides* 天疱瘡様紅色苔癬: 著しい全身症状と共に急に *diffuse Rötung* を生じ其上に扁平苔癬と共に *erbsengross* 以上の *Blase* を併發するものである
- 11) *L. r. pl. mucosae* 粘膜炎様扁平苔癬: *Lippenrot, Wange, Gaumen* 等に原發又は續發し可なり多く見る、乳白色で眞珠貝、磁器の如き光澤あり原疹散發し或は集合して線状網状環状等をなす。

経過 1) 通常極めて緩漫に發生し、數ヶ月の間に徐々に増加蔓延する。

2) 時に例外として急性又は亞急性に汎發し急速に経過を終ることがある。

- 3) 或程度に達すると進行が休止し其儘長く同一状態即ち時に數年に亘る間變化の起らぬことがある。
- 4) 丘疹又は局面のあとには長い間 *Pigmentfleck* を貽す。

病理解剖 *St. corneum*: 後に肥厚す。

St. granulosum: 往々肥厚す。

St. germinativum: 初め肥厚し後却て薄くなる。

St. cylindricum: 長く存在した丘疹では膠様變性に陥る。

Cutis: 1) *Epidermis* との間に數多の空隙生ず。

2) *Papillarkörper* は肥大し乳頭毛細管乳頭下血管は擴張す。

3) *Papillarschicht u. Subpapillarschicht* に小圓形細胞浸潤あり。

4) 時に *Riesenzellen* を認める。

5) 細胞浸潤は常に下方に向つては明割に分解し其下部には唯 *perivasculäre Infiltration* を認める。

診断 1) 扁平多角形の丘疹で他型に變化せぬこと。

2) 蠟様の光澤と中心の凹窩。

3) 播種状又は集簇的發生。

4) 鱗屑は局面上に存し個疹の上に存しないこと。

5) 癢痒及び好發部位。

類症鑑別 1) 梅毒性苔癬 *Lichen syphiliticus*: 銅紅色で往々膿疱を混じ他の梅毒症候がある。

2) 尋常性鱗屑癬 *Psoriasis vulgaris*: 鱗屑厚く、剝離すると點状出血がある。多く伸側を侵し原發疹にも鱗屑を有す。

3) 類乾癬 *Parapsoriasis*: 發疹多角形でなく、大きな融合面を

作らず又粘膜を侵さない。

- 4) 慢性單純性苔癬 *Lichen simplex chronicus Vidal*: 丘疹は菱形で皮膚は常色を保つ。
- 5) 慢性疣狀濕疹 *Eczema chronicum verrucosum*: Grenze が unscharf で多少濕潤す。
- 6) 微毒性乳色斑 *Plaques muqueuses*: 濕性でその白膜は容易に剝離する。

療法 1) 亞砒酸劑

是が最も効果がある殊に初期には特効藥であるが再發する毎に之に對する抵抗が次第に増加する。即ち i) 亞細亞丸或は法列兒水, ii) 1% 亞砒酸曹達 又は Solarson の注射, iii) Salvarsan の注射。

2) 局所療法

- i) Carbolzinkliniment
- ii) Crysarobinsalbe, Crysarobintraumaticin
- iii) Röntgen- bestrahlung

B 尖圭紅色苔癬 *Lichen ruber acuminatus*

定義 毛囊口に一致して尖圭の紅疹を生じ頂點に固い鱗屑を被る、終始同形を保つて他の皮疹に變化せず、常に集簇して局面を作る傾向あるものである。

Lichen ruber acuminatus は *Lichen ruber planus* と同種の疾病で唯其發疹を異にするのみである。従て *Lichen ruber planus* が acut 又は subacut の Verlauf をとる際には往往一部分に此 *Lichen ruber acuminatus* を併

發する。蓋し *Lichen ruber planus* が毛囊に一致して發疹する故ならんとも云はれる。

- 症候** 1) 粟粒大圓錐形の丘疹が毛囊口に一致して發生し、色は鮮紅色又は紅褐色で其尖端に白い固い鱗屑を被むる。
- 2) 終始同形同大で決して他の疹形に變化しない。
- 3) 集簇して局面を作る傾向がある故に患部の皮膚は粗硬で宛も皸皮の如くなる。
- 4) 個々の發疹は増大せず集簇するけれど相互に融合することなく、終始分離して存在するが發疹を續發して蔓延するので局部は次第に發疹を密生し同時に擴大する。故に其周圍には常に孤立した丘疹が認められる。
- 5) 自覺的には癢痒がある。

部位 軀幹にも四肢にも發生す。四肢では伸側よりも屈側が侵され易い。必ずしも symmetrisch でない。

経過 極めて慢性

療法 *Lichen ruber planus* と同様

VII 毛孔性紅色秕糠疹

Pityriasis rubra pilaris Devergie

定義 通常 symmetrisch に足趾手掌に始まり次で膝蓋部と肘關節又は他の骨突起部に限局性漸紅性角化症を呈し、acut 又は subacut に發生して極めて慢性に進行する疾患で、其間決して Pustel, Bläschen 等を形成しない。

症候 1) 手掌足趾に symmetrisch に高度の角質増殖を來す。

即局部は厚い一枚の白色の角板と化し太い皺溝と大小の皸裂とを生じ其底部は鮮紅色である。境界は常に明割で紅暈を繞らして居る。

- 2) 之と同時に膝蓋と腕部に周縁明割な紅斑面を生じ、其表面に枇糠様或は小葉状の白い乾燥した鱗屑を生じて固着する。外観は Psoriasis vulgaris に類するが鱗屑は夫より固く附着し點状出血を缺く、之と同じ發疹は大體骨突起部に生じ易い。
- 3) 手掌足趾の變化は漸次手甲足背に蔓延して同様の外観を呈す。
- 4) 此丘疹は常に硬固で乾燥し決して濕潤しないし又決して Blase Pustel を作らない。
- 5) Papel が融合して屢々廣大な abschuppende Fläche を作ることもあるが其周圍には必ず原發疹が認められる。
- 6) 自覺症狀は殆ど缺如し稀に緊張感又は軽い癢痒を訴ふるに過ぎない。
- 7) Pityriasis rubra pilaris universalis とて前述の如き變化の外、全身に播種状に角性丘疹が発生することがある。此汎發性の場合には頭部も必ず侵されて白色枇糠様の鱗屑を被むるが毛髪には變化がない。

- 類症鑑別** 1) 尖圭紅色苔癬 Lichen ruber acuminatus: 手掌足趾に來らず屈側を侵すことが多い。
- 2) 尋常性鱗屑癬 Psoriasis vulgaris: 手掌足趾には稀で且鱗屑を剝離すると點状出血がある。
 - 3) 毛孔性苔癬 Lichen pilaris: 青年期に發生し四肢の伸側のみを侵す。
 - 4) 角性瘰癧 Acne cornea: 面皰様黑點を存し必ずしも潮紅し

ない。

- 5) 魚鱗癬 Ichthyosis: 先天性疾患で炎症性潮紅を缺き關節屈面は侵されない。
 - 6) 先天性手掌足趾角化腫 Keratoma palmare et plantare hereditarium: 先天性のもので掌趾面のみに限り、且つ潮紅を缺く。
- 療法** 1) Arsen- praeparat.
2) Radium od Röntgen- bestrahlung.
3) Pick'sche Empflastra, 10% glyteer- lanolinpasta.

VIII 慢性單純性苔癬

Lichen simplex chronicus Vidal

(Lichen Vidal, Neurodermitis Brocq, Dermatitis lichenoides chronica)

定義 皮膚の一局部に限局して皮野粗大となり、癢痒劇烈であるが浸潤の傾向なき慢性疾患である。

部位 項部が最も多く次で側頸、陰股、肘窩、膝膕、腋窩等である。

- 症候** 1) 初め平滑で蒼白蠟様の光澤ある扁平な丘疹を生じ、忽ち密集して貨幣大から手掌大に及ぶ局面を作る。
- 2) 中心は皮膚肥厚し皮丘が著明に現はれ皮溝は深刻になり粗大の菱形をなして密集する、此皮疹は周縁に至るに従て疎になり漸次健康皮膚面に移行する。然し周圍に尙扁平の丘疹が認めらる。
 - 3) 常に劇烈な癢痒を伴ふ、従て搔破されて處々に血痂を被むり又輕微の落屑はあるが、決して水疱膿疱を作らず浸潤もしない。

4) 色は常色又は淡紅色を呈し、關節屈面では多少鼠色を帯びて来る。

経過 頑症で數年、十數年に亘つて存在し治療により良く輕快するが反覆再發し易い。

類症鑑別 1) 慢性濕疹 Eczema chronicum: 本症と同様 Lichenification を伴ふが、數々水疱や膿疱を作つて濕潤面を呈する。

2) 扁平紅色苔癬 Lichen ruber planus: 丘疹は紅色で中心に脐窩があり血痂を作らず、融合すれば白色の鱗屑を生ず。

3) 皮膚癢痒症 Pruritus cutaneus: 癢痒があるのみで皮膚發疹がない。

療法 1) 5% Chrysarobintraumaticin Teerpasta, Wilkinson氏膏。

2) Röntgen bestrahlung 最も効果確實である。

3) Quarzlamp, Radium.

K 進行性胼胝狀指掌角化症

Keratoderma tylodes palmaris progressiva Dohi et Miyake

定義 妙齡の婦女の指掌に来る角化異常症で乾燥と落屑とを主徴とするものである。

症候 1) 14—15 Lj 月經來潮後から 30 Lj 前後に至る Frau に来る。

2) 通常右手(左利きならば左手)の中指, 示指, 拇指の末節掌面の皮膚面が乾燥し粗糙になり次で落屑と小皸裂を發生する。

3) 上記の變化は漸次第二節, 第一節に向つて蔓延し同時に他の指端にも同様の變化を生じ遂には手掌面にも及ぶ, 其際健康皮膚面

との境界は明劃を缺く, 其間に他側の指掌にも多く同様の變化が現はれる。

4) 病勢が進行すると薄い小葉狀の乾燥した落屑が増加し, 皮膚は硬くなり乾燥する故に, 皮膚の弾力は減少し皸裂は深くなり出血を來すこともある。

5) 局部の指紋は全く消失し潮紅して硬く緊張し光澤がある。表面には多少の角質の肥厚を認めるが皮膚全體としては菲薄の感を呈する。

6) 病症尙高度に達すると, 皮膚の硬化のために指關節は屈位をとり且つ皸裂も存する故手指の屈伸が妨げられ疼痛を訴へるに至る, 癢痒は存しない。

7) Verlauf は極めて緩漫で數月, 數年の間に蔓延し, 或程度に至れば停止して其儘數年間持續する。

8) 手指の使用が多ければ症状悪化し易い。

9) 妊娠中又は分娩後に初發することも多く又其間に増悪することも屢々ある。

10) 侵される部位は手掌面に限り前脚や手指の背面に及ぶことはない。

病理剖 1) Epidermis: 全體として肥厚す St. corneum は肥厚して Parakeratose を示し, St. lucidum は缺如する

2) Corium: 1) Kapillaren-dilatation 及び其周圍の Zellinfiltration

2) Schweißdrüsen und ihre Ausscheidungskanal の内腔擴張し汗分泌が減少する。

原因 生殖器發育不全症又は内分泌障礙が原因と考へられて居

る。

- 診断** 1) 婦女子に来ること。
 2) 手指の末端より始まること。
 3) 角化落屑, 皸裂
 4) 境界不明瞭なこと。
 5) 手指背面を候さざること。
 6) 癢痒を缺くこと

類症鑑別 1) 濕疹 Eczema: 鑑別困難の事があるが通常濕疹は手指側面から背面又は前腕にも蔓延し癢痒があり, 往々周縁部に Bläschen, Pustel 又は Kruste を認める。

- 2) 汗疱 Pompholyx: Bläschen, Blase 時に Pustel を作る。
 3) 汗疱状白癬 Trichophytia pompholycifomis: 水疱を生じ癢痒激しく本症と鑑別に苦しまない。

鑑別の困難なるは Trichophytia eczematosa の稍々輕快した時期のものである。然し本症に比し境界較々明割で周縁部其他に水疱膿疱を發見し且つ手背にも及ぶ。

- 療法** 1) 硼酸ワゼリン, サルチル酸ワゼリン は局部の緊張乾燥を防ぐ爲に用ひる。
 2) Ovariumpraeparat (オオホルモン, オオホルミン, ルテイン, ルテオグランドール, シストメンチン) 又は腦下垂體前葉製劑 (プベローゲン, ヒポホリン)
 3) Jodopraeparat の少量 (0.05—0.1)
 4) 紫外線照射

X フォクス・フォアダイス氏病

Fox-Fordycesche Krankheit

定義 思春期に至り一定の部位に非炎症性角質増殖性丘疹を發生し, 劇烈な癢痒を伴ふ慢性皮膚疾患である。

症候 1) 多く腋窩次で婦人では外陰部, 乳暈, 臍窩, 肛圍等。男子では腋窩に限り Apokrine Drüsen の存する部位に先づ劇烈な癢痒がある。

2) 次で局部に針頭大, 粟粒大乃至半米粒大の圓形, 半球状の丘疹を發生する。Papel の表面は扁平で中央に角栓を有し若くは凹窩を示し, 色は褐色, 暗褐色乃至銅紅色である。

3) 此等の丘疹は時に散在性に, 多くは密集して現はれるが決して相互に融合せず又常に乾燥する, 稀に表面に輕微の落屑が存在する。

4) 常に癢痒があつて搔破に任す故に皮膚は一般に Pigmentation を呈するが炎症症状は毫も存しない。

5) 癢痒は月經中又は月經前に増激し或は感情の興奮, 發汗により増加するも疼痛, 灼熱感は缺如す。

6) 思春期に發生し, 20 歳前後に最も多く月經閉止後にはない。

7) 経過は數年, 十數年に及ぶ。

部位 Apokrine Drüsen の存在する部位に限る, 即婦人では腋窩, 乳暈, 臍窩, 外陰部, 男子では腋窩のみに見る。

病理解剖 1) St. corneum: Hyperkeratose u. Parakeratose

2) Schweißdrüsen: cystenförmig に擴張す。

3) Mastzelleninfiltration: Schweißdrüsen, Haarbalg, Blutgefäss の周圍

- 診 断 1) 婦女子に多いこと。
 2) 丘疹が融合せぬこと。
 3) 炎症を伴はず常に乾燥すること。
 4) 癢痒劇烈なること。
 5) 部位が一定すること。

- 類症鑑別 1) 扁平紅色苔癬 Lichen ruber planus: 蠟様光澤
 があり相互融合し汗腺に變化を認めず。
 2) 黑色表皮腫 Acanthosis nigricans: 色素沈着が著明で激烈
 なる癢痒を缺く。
 3) 慢性單純性苔癬 Lichen simp' ex chronicus Vidal: 好發部
 位を異にし且つ融合す。

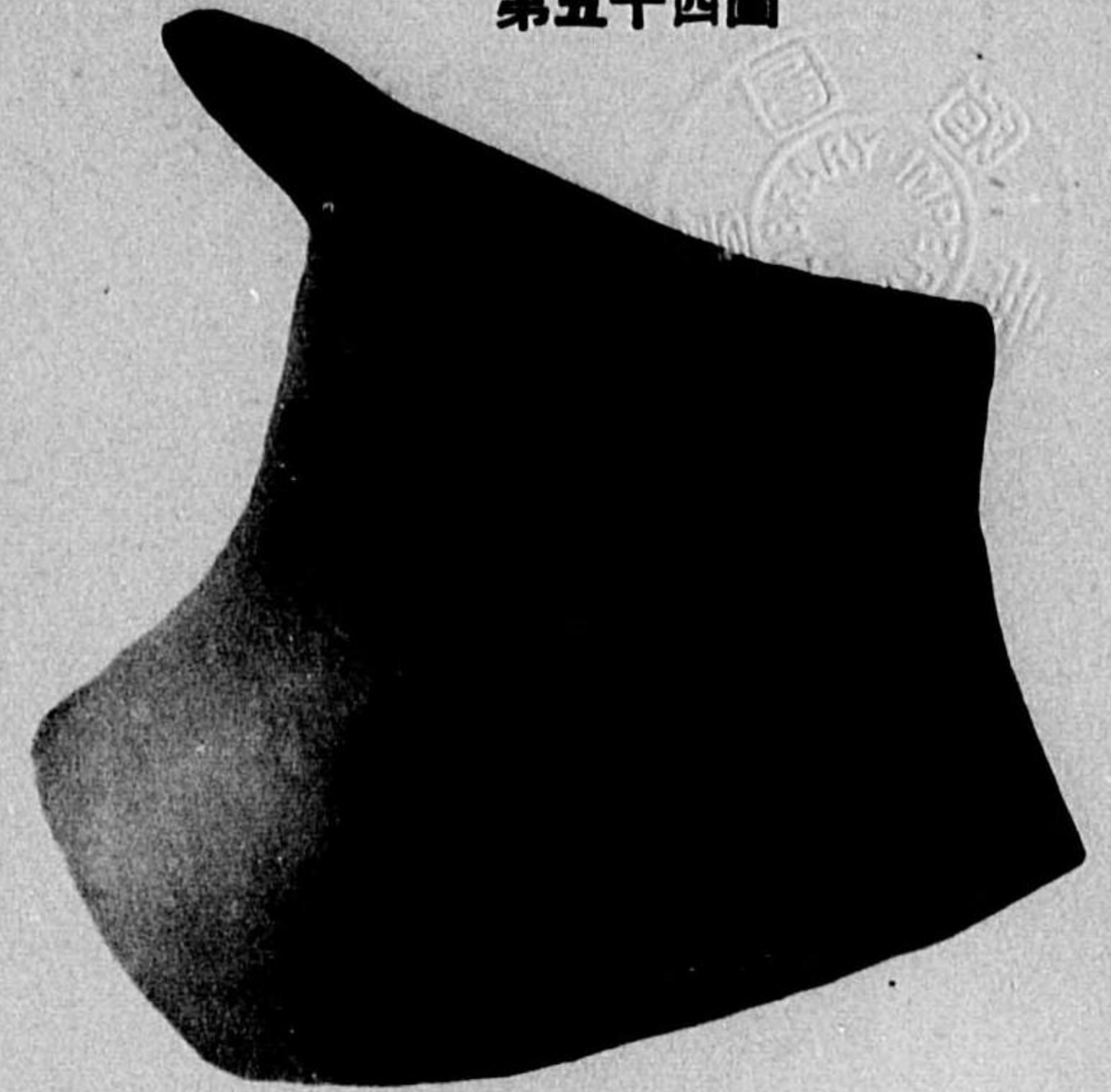
- 療 法 1) Exstirpation 奏効確實なるは此方法のみである。
 2) Röntgen, Radium
 3) Kohlensäureschnee, Elektrokoagulation
 4) Arsenpraeparat

第五十三圖



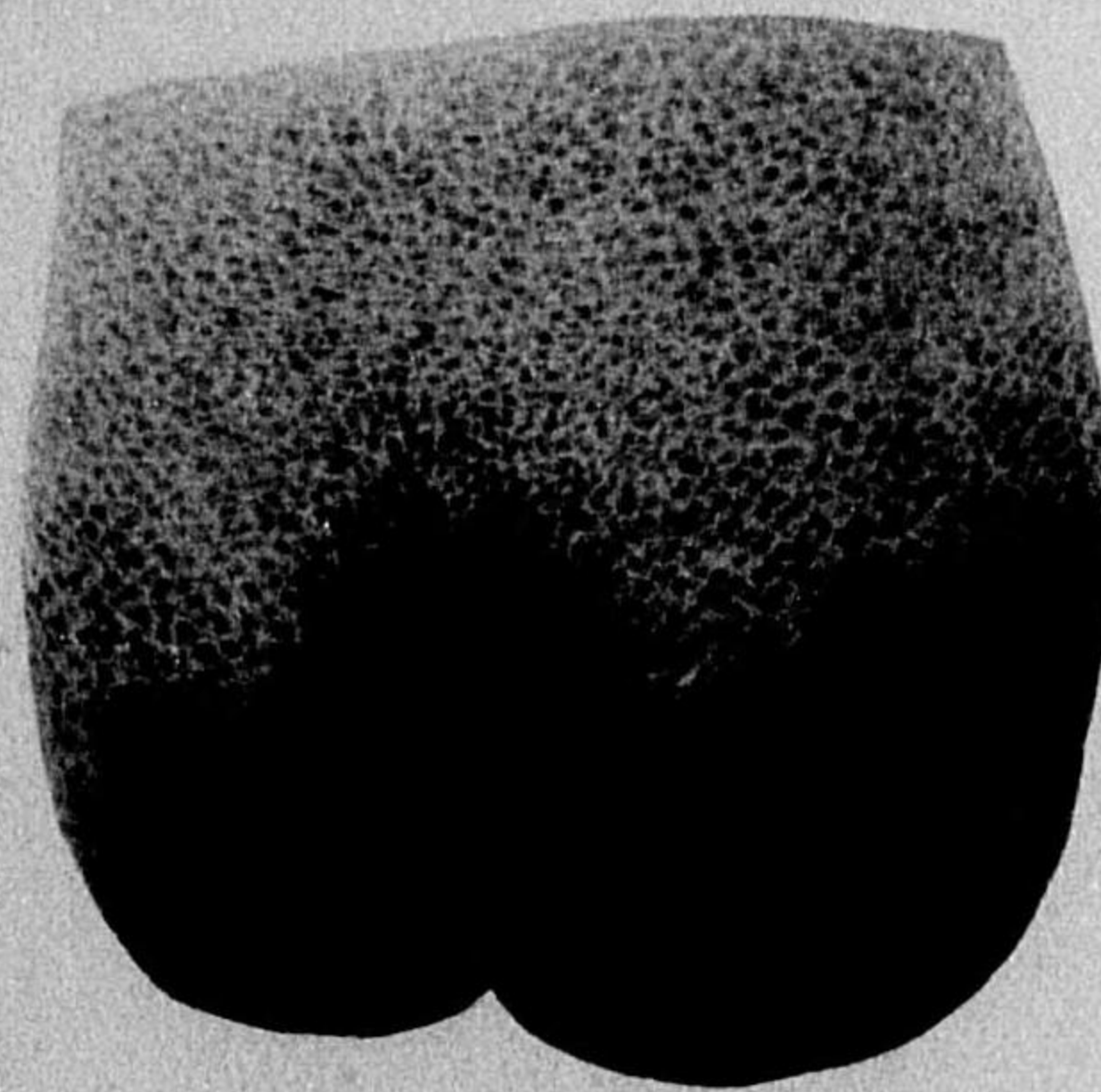
鱗狀毛囊性角化症
Keratosis follicularis s'fluomosa Dohi

第五十四圖



角性瘰癧
Acne cornu

第五十五圖



魚鱗癬
Ichthyosis

第五十六圖



黑色表皮腫
Acanthosis nigricans

第十三章 角質増殖性皮膚疾患 Hyperkeratosen der Haut

I 魚鱗癬 Ichthyosis

定義 必ず對側的に殊に四肢の伸側を侵す汎發性角化増殖症で、皮膚は乾燥落屑するが毫も炎症を伴はない。素質の遺傳に基づき幼時から發生する疾患である。

症候 1) 多くは生後第1年より現はれるが時として生後數週で既に其症候を見る。

2) symmetrisch に四肢の Streckseite 殊に Kniegelenk und Elbogengelenk の Streckseite の Haut が乾燥し Hyperkeratose を呈し abschuppen する。

3) Hyperkeratose の程度には種々あつて leichtes Grad のものは Schweiß und Talg の Sekretion が少なく、Haut が常に乾燥粗糙であるに止まり外觀には變化を呈しない。

稍高度になれば増殖した Hornschicht は grauweisslich の鱗屑として Haut に固着し、其間に薄い Rhagaden があつて rundlich od. polygonal の紋を畫く、之を **Ichthyosis simplex** 單純性魚鱗癬と云ふ。

4) Schuppen が更に厚くなると斑紋も大きくなり、中心は Haut に固着し、邊緣部が少しく遊離して色も褐色を帶び一種の光澤がある。宛も雲母の薄片を附着した如き觀を呈する故之を **雲母狀魚鱗癬 Ichthyosis nitida** と稱す。

- 5) 更に高度になると Schuppen は爪甲大で暗褐色又は灰色を呈し、屋瓦状に重疊する。之を **蛇皮状魚鱗癬 Ichthyosis serpentina** と云ふ。
- 6) Hornschicht の肥厚が最も著しく黒褐色疣贅状をなすものを **豪猪皮状魚鱗癬 Ichthyosis hystrix** と云ふ。
- 7) 以上の症状は Pubertät に至るまで徐々に増悪するが夫より以後は變化せず、終生共儘に残る。但し軽度のものは夏季に於て病勢稍々減退し或は急性熱性病後に一時輕快することがある。
- 8) 常に symmetrisch で Rumpf 時に Gesicht, Kopf までも侵される事があるが Gelenkbeuge, Handteller, Fusssohle は通常 intakt である。
- 9) Subjektive Beschwerden は時に多少の Juckgefühl があることがあるが多くは缺如する。但し重症では汗脂分泌障碍のために皮膚が乾燥し Hyperkeratose と相俟て皮膚表面が粗糙になり弾力が減じて皸裂を生じ易く、時に運動障碍を來すことがある。
- 10) 全経過に於て毫も entzündliches Zeichen なく又終生不治である。

病理解剖 1) St. corneum は hypertrophieren す。

2) St. granulosum は verschwinden す。

3) Schweiss und Talgdrüsen が atrophieren する。

診断 1) 瀰漫性の角質増殖。

2) symmetrisch に Streckseite を侵すこと。

3) 關節窩が frei なこと。

4) Entzündung を全然伴はぬこと。

5) 幼時に發生し終身治癒せぬこと。

類症鑑別 1) ヘブラ氏紅色枇糠疹 Pityriasis rubra Hebra: 好んで屈側を侵し炎症を伴ふ。

2) 癢疹 Prurigo Hebra: 癢痒劇烈で固有の丘疹 Prurigoknötchen 及び Prurigobubonen がある。

療法 1) symptomatisch には 1) サルチール酸ワゼリン 2) 硼酸ワゼリン又は硼酸グリセリン 3) Badkur 等を行ひ

2) innerlich には Arsenpraeparat, Schilddrüsenpraeparat, Lebertran が用ひられる。

II 先天性手掌及足趾角化腫 Keratoma palmare et plantare hereditarium

定義 幼時より發生する足趾及び手掌の Hyperkeratose で先天症である。

症候 1) 生後數週間の間に手掌及び足趾の皮膚が粗糙となり黄色を帯び角層の増殖を來す。(1m. m.—1c. m.)

2) 表面に無数の大小の皸裂を生じ著しく粗糙となり灰白鼠色を呈する。

3) Hyperkeratose の境界は常に明割で周縁に廣い紅暈がある。

4) Schweissdrüsen の分泌は増加し數々臭汗がある。知覺は幾分鈍麻するも疼痛癢痒等の他の自覺症はない。

5) 本症は多數の場合に遺傳を證明する。

診断 手掌及足趾に限局する角化症で生後直ちに發生し、而も他の皮膚には毫も異常を呈しない。

類症鑑別 胼胝腫 Tylosis: 多く壯年に來り幼児にはなく表面平滑である。

砒素角化症 Arsenkeratose: 角化平等でなく周圍に紅暈なし。

療法 Pick氏膏 又5% Resorzinsalbe の貼用。

Radium, Röntgen

III 毛孔性苔癬 Lichen pilaris

定義 遺傳性素質に基き、思春期に至り四肢に對側性に發生する毳毛毛囊口の角質増殖に因る丘疹である。

症候 1) symmetrisch に四肢の伸側殊に肩胛部、上膊、臀部、上腿の伸側に於て毳毛毛囊口に一致して粟粒大圓錐形の丘疹を發生する。

2) 毛囊口に角質の増殖があるために角細胞が重疊して丘疹をなすもので、角化増殖は時には毛囊孔内に迄及び毛囊を擴大し、或は毳毛の皮膚面上に抽出するのを妨げ角栓を除くと始めて毳毛の蟠居するのが認められることが多い。

3) 色は多く皮膚色 (Lichen pilaris alba) であるが時に蒼紅色又は濃紅色を呈するものもある。(Lichen pilaris rubra)

4) 丘疹の他には決して水疱、膿疱を作らず又丘疹が相互融合することもない。

5) 素質に因り思春期に發生するもので年齢の加はるに従ひ自然に消失する。

6) 自覺症狀は全く缺如するが唯所謂鮫肌をなし美觀を損ずる故殊に婦人の忌むところである。

類症鑑別 1) 尖圭紅色苔癬 Lichen ruber acuminatus: 汎發性で軀幹にも發生し、集簇して局面を作り角質増殖も遙に著明である。

2) 角性痤瘡 Acne cornea: 四肢伸側殊に肘膝を中心として發生し軀幹に近い部位には却て少ない。又項、頸にも發生し屢々中心に面皰様黒點がある。

療法 1) Arsenpraeparat の注射でよく治癒する。

2) 5% Salicylsäurelanolin 又は加里石鹼を局部に用ひると角栓を溶解して治癒を促す。

IV 角性痤瘡 Acne cornea Cazenave et Hardy

定義 Haarfollikel に entsprechen した Hyperkeratose で屢々中心に面皰様黒點があり對側性に發生する。

症候 1) symmetrisch に Extremitäten の Streckseite 殊に肘、膝蓋、次で項、頸或は顔面、軀幹に於て Haarfollikel に一致して角化異常性丘疹が發生する。

2) 此丘疹は毛幹を中心として、或は粟粒大で毛囊口から棘狀に突出し、或は稍扁平で麻實大以上に及び微かに紅暈を帯びてゐる。又屢々中心に面皰に類する黑色又は灰白色の角栓を示すものがある。

3) 此丘疹を強て摘出すると角栓は深く Haarbalg 中に嵌入してゐるから Haarfollikel が哆開して圓孔を残し、或は少しく出血する。

4) 發生状態は disseminiert に又は gruppiert に時に局面をなして皮膚面は擦子を撫する感がある。然し Ausschlag が融合する事はなく、丘疹と丘疹との間には健康な皮膚が常に存在する。

5) Subjektive Beschwerde は全く缺如する。

類症鑑別 1) 魚鱗癬 Ichthyosis: Hyperkeratose は Haarfollikel に限らず diffus で又 schwarze Punkt を有しない。

2) 毛孔性苔癬 Lichen pilaris: Haarfollikel に生ずる Hyperkeratose であるが黒點がなく, Papel も是より小さく, 部位も肘, 膝蓋は却て少なく上膊, 上腿に多い。

療法 1) Arsenpraeparat の注射が特効がある。

2) Röntgen und Künstliche Höhensonne も治癒を促進する。

3) Pick氏膏を貼じて角質を溶かせば治癒は一層速である。

附) 棘状毛嚢角化症 Keratosis follicularis spinulosa

定義 Acne cornea 中の特に棘状を呈するものを別個の独立の疾患としたものである。

症候 1) 少年期に毛嚢孔に一致して symmetrisch に發生す。

2) mohnkorngross bis miliargross で Acne cornea に比し spitziger und kleiner で Haarfollikel から宛も角棘の如く數 m.m 突出するものがある, schwärzlich の角栓を有する點は Acnecornea と同じである。

3) Hals, Nacken を好發部位とし之に次で Gesicht, Schulter, Streckseite der Extremitäten に現はれ稀に Lenden, Gesäss にも發生する。

4) 播種状に又は密生するが融合せず其間の皮膚は全く intakt で自覺的には何等苦痛を感じない。

5) 初發時期と好發部位を稍々異にするが, 其他の性質は全く Acne cornea に一致するもので之と同症なりと斷ずるを可とす。

V ダリエー氏病 Dermatose de Darier

定義 一種の丘疹性角質増殖症で, 好んで papillomatös に wuchern する傾向を帯び, 汗脂の分泌多き部位に限局して發生する稀有の慢性炎症性皮膚疾患である。

症候 1) 初めは露滴様の光澤を有する針頭大乃至半米粒大の丘疹として發生する。

2) 此丘疹は鈍圓錐形で其質は硬く, 徐々に擴大して小豆大又は豌豆大にまで及ぶ。

3) 色は皮膚色の事もあるが多くは帶黃紅色より暗褐色に及び散在性に發生するが次第に密集して局面を作る傾向がある。

4) 此局面の表面は硬く擦子の如く粗糙で, 丘疹の表面には灰白色又は汚穢褐色の角層を有し之を剝離すると Boden は tiefrot で多少 nassen し其中に多數の Grübchen を存する。

5) 局面が大體 handtellergross に達すると紅褐色を呈し表面の丘疹は Hyperkeratose が甚だしくなり papillös となり, 従て其間に深い溝を生じ eitrig の Sekret が滲溜して惡臭を放つに至る。

6) entzündliches Zeichen は輕微で subjektive Beschwerde はなく唯時に Jucken を訴へるに過ぎない。

7) 多く Pubertätszeit に初發し終生不治である。

部位 皮膚接觸面即ち Achselhöhle, Inguinalgegend 及び肛圍を好發部位とし, 其他鼻唇溝, 頤部, 耳後溝, 臍窩, 被髮頭部, 胸背部, 手甲, 足背, 稀に粘膜にも發生する。

診断 1) 汗の分泌旺んな部位に發生すること

2) 乳頭状の局面

- 3) 固有の紅褐色
- 4) 思春期に発生すること
- 5) 終生不治のこと
- 6) 自覚症を缺くこと

類症鑑別 1) 毛孔性苔癬 *Lichen pilaris*: 四肢伸側に發し發疹融合せず常に乾燥する。

2) 黑色表皮腫 *Acanthosis nigricans*: 部位は一致するが、質柔かく暗黒色で乾燥し往々癢痒強く内臓に悪性腫瘍を證明することが多い。

3) *Fox-Fordyce'sche Krankheit*: 是も部位は類似するが常に乾燥して決して濕潤しないし發疹も決して融合しない。

- 療法** 1) Röntgen, Radium が最も効果がある
- 2) Arsenpraeparat, 内分泌臓器製劑殊に生殖腺臓器製劑
 - 3) auskratzen し其上に水揚酸, Resorzin, 木釜兒, Pyrogallol 等を Salbe として貼用する
 - 4) Lysolbad, Schwefelbad

VI 鱗状毛嚢性角化症

Keratosis follicularis squamosa Dohi

定義 常に腰腹を中心とし左右相對性に發生する一種固有の毛嚢性角質異常症である。

本症は土肥 憲藏博士の初めて記載した疾患で我邦に於てのみ發見せらるゝものである

症候 1) Haarfollikel に entsprechen して硬い針頭大の黒點

を生ず

- 2) 次に之を中心として其周圍に之と連続した圓形の Schuppen を生ずる
- 3) 此 Schuppen は小豆大で底面は下層と固着し邊緣が僅かに遊離し且つ表面に多少の細い皺を有するから其状宛も荷葉の水面に浮ぶが如くである。
- 4) 新鮮なるものは grau weisslich で陳舊になれば bräunlich となり汚垢の如き外觀を呈す。
- 5) 陳舊なる Schuppen は Pincette で剝離し得られ又は自然に脱落するが中心の黒點は残存して再び之から圓鱗を發生する。圓鱗の脱落した跡には白斑を止め或は皮膚の萎縮を示す。
- 6) 自覺症状はない。
- 7) 初めは孤立散在するが密生すれば融合して一となり其中に數個の黒點を認める。
- 8) 経過は極めて慢性で數年に及び abschuppen 後 Pigmentation や輕度の Hautatrophie を示す。

部位 symmetrisch に Bauch, Lenden, Gesäss に始まり上腿外側, 陰阜, 陰股部, 或は側胸から腋窩の前後, 胸壁に及ぶ。

- 診断** 1) 黒點と圓鱗を伴ふ皮疹
- 2) 腰腹を中心とし左右均しく發生する事
 - 3) 自覺症の缺如

類症鑑別 1) 角性瘰癧 *Acne cornea*: 屢々中心に黒點を有するが此黒點は本症のものより大で且つ壓出し易い。又周圍に鱗屑を有しない。

2) 癩風 *Pityriasis versicolor*: 中心に黒點がない。

3) 魚鱗癬 Ichthyosis: 散漫性の角質増殖で黒點がなく、幼年より發生する。

4) 毛孔性苔癬 Lichen pilaris: 黒點なく圓鱗なく部位を異にする。

- 療法** 1) Arsenpraeparat の注射は多少の効果がある。
2) 5% Salicylsäure-Vaselin, Pick 氏膏, Chrysarobinsalbe 5% Resorzinalkohol.

IV 黒色表皮腫 Acanthosis nigricans

定義 角質増殖と、乳頭の肥大と、Pigmentation を症候とする慢性限局性對側性皮膚病で多く内臓の悪性腫瘍に續發するものである。

部位 腋窩, 鼠蹊, 陰股部, 肘窩, 膝窩, 乳房下, 臍窩等稀に口腔粘膜, 眼結膜, 直腸, 膣粘膜を侵す。

症候 1) symmetrisch に色素増殖を來し皮膚は鼠色から漆黒色に變じ, 同時に皮紋が著明になる。即ち皮丘は隆起し皮溝は深くなつて其間の皮膚は粟粒大から麻實大或は豆大以上の乳嘴腫を作る。

2) 形は種々で柔く互に相密接するが Darier 氏病の如く濕潤しない。

3) 上記の病變は中央部が最も著明で周縁に近づくに従ひ弱くなり瀰漫性に健康皮膚に移行する。

4) 自覺症はなく稀に軽度の癢痒があるのみである。

5) 本症は内臓諸器官殊に胃, 子宮, 乳房の Carcinom に伴つて發

生する事が多く, 其豫後も之によつて定まる。

原因 原因不明なるも原發腫瘍又は轉移が腹部交感神經を壓迫して Nebenniere の Funktionsstörung を來すものならんか (Darier)

類症鑑別 1) アチソン氏病 Morbus Addisonii: 黒褐色を呈するも皮膚の増殖はない。

2) ダリエー氏病 Morbus de Darier: 限局した局面を作るがそれは丘疹の集合したもので, 褐黄色又は紅褐色を呈し濕潤又は結痂する。

療法 適當の方法がない, 原發した Geschwulst の治療を行ふのみである。

VIII 汗孔角化症 Porokeratosis Mibelli

定義 一種の慢性限局性角化症で大小不同の乾燥した平斑をなし, 中央は陷凹し周縁は薄く硬く隆起する。

症候 1) 汗孔に時に roter Hof を有する圓錐形, 褐色の小角栓を生じ, 之を摘出すると漏斗狀の凹窩を遺す。

2) 是から角化が漸次遠心性に周圍に擴大し, 周縁は暗褐色の細い鋭利な硬い角質の堤狀隆起を作り, 健康皮膚面と明割に分界を作る。

3) 角質隆起の中央部は盆形に凹み扁平で常に乾燥し, 初めは皮膚と同高で角質の増殖により硬く觸れるが, 漸次萎縮して皮膚面より陷没し皮膚は癢痕狀を呈す。

4) 形は圓形, 橢圓形或は不正形であり, 大きさも種々で粟粒大より扁豆大蠶豆大に及ぶ。

- 5) 斑内の毛嚢又は汗孔に相當して點狀の角質小突起を認めることがある。
- 6) 漸次遠心性に擴大する傾向があり、自覺症は多くは缺如す、屢々遺傳が證明される。

- 分類 1) **Porokeratosis disseminata**: 顔面、軀幹、四肢時に口腔粘膜をも侵し其數時に數百に及ぶものがある。
- 2) **Porokeratosis systematica**: 偏側に生じ線狀に配列し上下肢に多い。

病理解剖 I) 周縁の隆起した處

- 1) St. corneum: Hyper-u. Parakeratose, 汗孔及毛嚢孔の角化増殖。
- 2) Acanthose
- 3) St. granulosum: Horny-schicht が楔形に表皮層内に陥入せる處にては消失す
- 4) Rundzellen infiltration: Papillar-u. Subpapillarschicht, Schweiss-u. Gefäss の周圍。

II) 中央の陥凹した處

- 1) Epidermis: 菲薄となる。
- 2) Retezapfen: 短小又は缺如する。
- 3) (I) の (4) が周縁部に近き部位にのみ認められる。
- 4) elastische Faseln は退行又は消失す

- 診断 1) 健康皮膚面上の角化性圓板
- 2) 中心の陥凹と邊緣の鋭利な隆起
 - 3) 慢性の経過。

- 類症鑑別 1) 尋常性鱗屑癬 Psoriasis vulgaris: Schuppen は silberweiss で角性の外廓を缺く

- 2) 萎縮性扁平紅色苔癬 Lichen ruber planus atrophicus: roter Hof が著明であり、角性外廓を缺く
- 3) 尋常性疣贅 Verruca vulgaris: 外廓線なく中央陥凹せず
- 4) 播種狀紅斑性狼瘡 Lupus erythematosus disseminatus: 潮紅著明にて外縁鋭利ならず、又裏面に角性突起を有する鱗屑を附着す。

IX) 被角血管腫 Angiokeratoma Mibelli

定義 皮膚に微細な點狀の Angiom を生じ其上に Hyperkeratose を被むるものである。

- 症候 1) 多く symmetrisch に現はれる kleine Angiom である。
- 2) 初めは針頭大から麻實大に及ぶ圓錐形又は半球狀の赤色丘疹として現はれ形は圓く或は時に星芒狀を呈することがある。
 - 3) 初めは紅色又は紫紅色を呈するが次で角層が肥厚し來つて verrucis になり grauweisslich 又は schwärzlich rötlich となる。
 - 4) 時に擴大して erbsengross に達し或は融合することがある。
 - 5) 指趾の背面、耳翼、陰囊に多く發し其他前膊、下腿、肘、膝關節の伸側、胸、背、腹に來る。
 - 6) 小兒期から青年期に發生し 2—2 個から數十に達する事がある。
 - 7) 自覺症狀はない。

療法 Kohlensäure-Schnee, Radium, Elektrolyse, Elektrokoagration

X) 胼胝腫、たこ Tylosis

- 1) mechanischer Reiz が 斷えず反覆するために發生す。Gewerbe-Schwiele

- として職業により種々の部位に發生することもある。
- 2) 健康部との境界は明割を缺き、角層の肥厚と分泌減少のために皮膚乾燥して皸裂を生じ、疼痛又は炎症を來す。
 - 3) histologisch には Hornschicht が肥厚し、其爲に種子層が薄くなり乳頭層に多少炎症性浸潤がある。原因が強力な時には眞皮及び皮下組織の肥厚を伴ふ。
 - 4) 10—50% 水楊酸硬膏、スピール膏、ヘブラ氏膏。

XI) 鶏眼, 魚の目 Clavus

- 1) 境界明割な角栓で圓錐形をなし、眞皮中又は皮下組織中に迄楔入する故に壓迫すると疼痛がある。往々此楔状角栓の周圍に炎症を呈して一層過敏になることがある。
- 2) スピール膏又は 10% サルチル酸コロヂウムを塗布し表面を軟化し剝離し、然る後根蒂を摘抉する。此際電氣分解、電氣燒灼も用ひられる。又 Radium を用ふ。

XII) 皮角 Cornu cutaneum

- 1) Hornschicht が増殖して角状をなすもので、網状層も肥大し其中に延長した眞皮乳頭を存する。
- 2) 健康な皮膚面或は Verruca, Naevus, Papillom, Atherom, Epitheliom, Sarkom, Lupus, Narbe の表面に發生し、外見は全く角に一致するも形、大小、長短は種々で質にも硬軟がある。
- 3) 色は帯黄色乃至黒褐色、表面は多く粗糙で縦横に線條がある。
- 4) 治療は切除。

第十四章 脂腺及汗腺分泌異常症

I 脂漏 Seborrhoea

定義 皮脂分泌の量が過度なるを謂ふ。

症候 脂漏は Seborrhoea oleosa 油性脂漏、と Seborrhoea sicca 乾性脂漏との二種がある。

1) 油性脂漏 Seborrhoea oleosa

過度に分泌される皮脂が其儘存するために皮膚は恰も油を塗つた如き光澤を帯び、之を拭つても又忽ち小油滴を漏出する。之に塵埃が附着し易く、手巾、襟、襦袢等は速に汚染する。

脂漏の最も著しいのは鼻頭で、試みに指間に撮むと擴大した毛囊口から白い絲の様な軟脂が排出される。頭部では毛髪が油澤を帯び或は頭部眉部では數々脂黄色の薄膜をなして皮膚に膠着する、其他顔面では額、頬、鼻唇溝、軀幹では肩胛間部、胸骨部、腋窩、陰股部、包皮内面、陰脣絨髮等が好發部位である。

若し皮脂腺の分泌物が滯溜して排泄管口を硬く閉塞すると其中に含まれた上皮角質の酸化に由つて黒點を呈し、側面から壓迫すると紡錘形蟲様の栓塞物が突出する之を **Komedonen** 面皰と稱し長く毛囊口を閉塞すると皮膚は壓迫の爲萎縮に陥つて面皰の除去された跡に小凹窩を遺す。

脂漏は老幼男女を問はず發生するが最も青年に多く殊に肥胖者と貧血者に多い、又初生兒の頭部に屢々見る、之を **krusta lactea** と呼ぶ。

2) 乾性皮脂漏 *Seborrhoea sicca*

皮脂は多少乾燥し之に角化した上皮細胞が混じて鱗屑となつて皮膚に附着するもので、或は枇糠様に落屑し或は薄紙の如く皮膚に附着する。色は皮脂の量に依り黄褐色又は汚穢の灰色を呈する。皮膚は往々少しく潮紅する。

主として被髪頭部に來り殊に前頭部に著明である。即 *Pityriasis capitis* 頭部枇糠疹である。

本症が長く存在すると其部の皮膚の *Ernährungsstörung* を來し毛髪が脱落して稀疎になる。之を *Alopecia pityrodes* 枇糠性脱毛症と謂ふ。稀には眉毛、鬚髯、陰毛にも來り、多少其脱落を招くことがある。

豫後 不定で容易に治癒するものと頑固に治療に抵抗するとある。全身病に基くことがある故に屢々再發する。

療法 1) 全身状態の改良；便秘、消化不良、貧血を治療し適度の運動に注意し、脂肪性刺激性の食物を避ける。屢々生殖腺臓器製剤の注射が効果がある。

2) 石鹼と温湯で局所を洗滌し常に清潔に保つこと

3) 輕症には 1—2% *Resorzinalkohol*

0,5—2% *Carbolalkohol*

1—2% *Chloralhydrataalkohol*

1—2% *Salicylsäurealkohol*

皮脂の分泌を抑制するには硫黄又は其類似品 *Mitigal*, *Thionol*, *Thigenol* が最も適當する。故に *Schuppen* の多量に附着する際には 10% *Schwefelvaselin* 又は 10% *Schwefelsalbe* を以て之を除去するが宜い。

其他頭部には

Rp. <i>Mitigal</i>	ミチガール	5.0
<i>Chloral-hydrat.</i>	抱水クロラール	2.0
<i>Acid. salicyl.</i>	サルチル酸	1.0
<i>Glycerin</i>	グリセリン	5.0
<i>Spiritus</i>	酒 精	50.0
<i>Aqua</i>	水	30.0

一日一回塗布

顔面には

Rp. <i>Sulfur praecipit.</i>	沈降硫黄	10.0
<i>Spiritus camphorat.</i>	カムフル精	5.0
<i>Aqua</i>	水	100.0

用時振盪 一日一回塗布

I 皮脂缺乏症 *Asteatosis s. Xerosis*

定義 皮脂の分泌が減少し之が爲に皮膚が粗糙になるものである。

症候 皮膚が乾燥して光澤を失ひ粗糙になり或は皸裂し落屑し又は剝脱し易くなる。

諸種の皮膚病に併發し或は栄養不良の兒童に見る。又常に水を使用し石鹼を適用する時、人工的に發生することもある。

療法 純良白色ワセリン又はベルツ水の塗布。

I 酒皸 *Rosacea*

定義 血管擴張によつて生ずる顔面の潮紅で、脂腺と真皮の肥

大を續發するものである。

部位 Nasenspitze に最も多く Stirn, Wange, Kinn にも生ず。

症候 1) 酒皸第一度 Rosacea Iten Grades.

此等の部位が限局性又は散漫性に潮紅して、鮮紅色乃至暗紅色を呈し、時によつて著色が著明になる。局部には Kapillaren u. Venen の Dilatation と皮脂分泌の著明な増進が證明される。

2) 酒皸第二度 Rosacea IIten Grades

酒皸性痤瘡 Acne rosacea とも云ひ Rosacea Iten Grades の潮紅が更に強くなり痤瘡を併發し、殊に鼻頭では Haarfollikel が擴大して trichterförmig を呈し、壓迫すると旺んに皮脂を排泄する。

3) 酒皸第三度 Rosacea IIIten Grades

鼻瘤 Rhinophyma とも云ひ、第二度の變化に加ふるに真皮の Bindegewebe が肥厚増殖し爲に大小の結塊を生じ、柔軟で弾力性硬度を有し、表面には脂腺口哆開して陥凹を作り柚皮の如き外觀を呈する。

経過 極めて緩慢で十數年、數十年に亘るが時に自然に消失することもあり、決して潰瘍を形成しない。

原因 生殖器機能障礙、消化器障礙、貧血、萎縮病、大酒。

療法 1) 原因の療法

2) 擴張した血管には亂切法、電氣燒灼、電氣分解術、雪狀炭酸、水銀石英燈の壓抵照射、

3) Rhinophyma は切除。

4) Schwefelpraeparat

夜間は Liq. Kummerfeldii

晝間は 10% Glyteerlanolinpasta, Thionolwilson 等

IV 多汗症 Hyperidrosis

定義 汗腺分泌の過多なるを謂ふ。

症候 1) 汎發性多汗症 Hyperidrosis universalis

肥胖者、勞働者に見る、或は精神的感動の際に於ける如きは生理的のものであるが貧血者、月經不順、更始期 Hysterie, Neurasthenie 等に見るは病的のものである。

又 Nachtschweiss, Collapsschweiss 等は對症的多汗症 Symptomatische Hyperidrosis である。

2) 局處性多汗症 Hyperidrosis localis

H. l. unilateralis 偏側性多汗症は Sympaticus の疾患或は Zentrale Nervensystem の疾患に現はれ時に健康者にも見る。半面發汗は屢々家族的に現はれる。

H. l. bilaterales 對側性多汗症は手掌、足趾、腋窩、鼻部、前額、陰部、肛門等に来る。

H. manum 手汗は Neurasthenie, Anaemie の者に多い。

此等多汗症には局部に角層膨大、皸裂、間擦疹、皮膚炎等を起し易い。

療法 1) allgemeine Behandlung

虛弱、貧血、神經衰弱等の根本治療を行ひ、毎日温浴を行ひ、或は冷水摩擦、海水浴等を行はせ又強壯劑を與へる。

2) symptomatische Behandlung

汗神經麻痺劑を與へる。

Atropin (0.0005—0.001) を一丸とし一日二丸内服

3) locale Behandlung

2—10% Formalinalkohol

5% Chromsäurewasser

5% Naphtholalkohol の塗布

硼酸, 明礬, Tannoform の粉末撒布

又

Rp. Acid. salicyl.	サルチル酸	5.0	
Tannoform	タンノホルム	10.0	一日數回
Talc. venet.	滑石末	85.0	撒布
Pp. Acid. salicyl.	サルチル酸	5.0	
Acid. tartaric.	酒石酸	10.0	
Acid. boric.	硼酸末	10.0	一日數回
Zinc. oxyd.	亜鉛華	25.0	撒布
Talc. venet.	滑石末	50.0	

但し臍窩等は薬剤により刺戟され易い故に注意を要する。

4) Quecksilber- Quarzlampe, Röntgen も多少効果がある。

V 腋臭 Osmidrosis axillae

定義 新鮮な腋窩の汗汁が汚臭を放つものである。

症候 Pubertät に達し Achselhöhle の Apokrine- Drüsen の發汗が開始すると同時に現はれ, 多汗症を伴ひ屢々遺傳性を示し親子同胞中に同症を見る。

豫後 長く消失しないが壯年期以後に至れば次第に輕減し終には消滅する。稀には高齢者にも存することがある。

療法 多汗症と同様に處置する。

又 1% Resorzinalkohol, 1-2% Mentholalkohol をも用ひる。又 Radium, Röntgen も用ひられるが高度のものは腋窩皮膚の切除によ

つて完全に治癒する。

VI 異汗症 Paridrosis

定義 汗水の性質に異常あるを謂ふ。

症候 1) 臭汗症 Bromidrosis s. Osmidrosis

腋臭は其顯著なるもので殊に白色人種の婦人は腋臭あるものが多い。黒奴の汗は脂肪酸に富み一種腐敗した牛酪の如き臭氣ありと云ふ。

2) 色汗症 Chromidrosis

汗水が黄, 紅, 青, 綠, 鼠, 黑色等を帯ぶるもので自覺症は缺く。

暗青色, 黑色の汗は眼瞼, 頬, 前額, 鼻, 口周圍, 頸部, 胸部, 陰囊等に, 紅色汗は腋窩, 陰囊等に來る。原因不明。

3) 尿汗症 Uridrosis

汗水中に尿素が多量に排泄されるもので銀色の小結晶として皮膚面に附着する。尿毒症の時に見られる。

4) 血汗症 Hämatidrosis

汗に Blut の混ざるもので Pest, Gelbe Fieber, Haemophirie, Menstruationsanomalie に見られる。

5) 減汗症 Oligidrosis

汗分泌の減少するもので Diabetes mellitus, Syringomyelie, Sympaticus の疾患, periphäre Nerven の外傷後にも現はれ或は Prurigo, Pemphigus Psoriasis, Keratoderma tylodes palmaris progressiva に於て患部皮膚面に減汗を見る。

6) 無汗症 Anidrosis

汗水の分泌が全く消失するもので癩痕面又は萎縮面に見る。

Ⅶ 水晶様汗疹 Miliaria crystallina

定義 發汗過多に續發し表皮中に汗水滯溜して露滴狀の小水疱をなすを謂ふ。

症候 氣候の急騰、熱性病等で非常に多量の發汗を來した時に現はれるもので、頸部、胸腹、腋窩、四肢等の健康な皮膚面に忽然として粟粒大の水様澄明の内容を有する小水疱が無數に發生し、數日間存在した後或は破れ、或は吸収されて痕跡を止めず消失する。

自覺症もなく炎症症狀も毫も伴はない。

角質中の汗腺排泄管口に汗水が滯溜して Bläschen を形成するものである。

療法 亞鉛華澱粉を撒布すれば宜い。

Ⅶ 鼻部紅色顆粒症 Granulosis rubra nasi Jadassohn

定義 鼻部に小丘疹を發生し多汗症を伴ふものである。

症候 鼻尖、鼻翼に散漫性の潮紅を呈し、次で紅色小顆粒狀の丘疹を發生し殆ど常に局部多汗症を伴ふ。自覺症を缺く。6—7Lj. の小兒期に初發し 20—30Lj. に至れば自然に消失する。

多く女性に好發し時に家族的に發生する。

療法 Röntgenbestrahlung, Quecksilber-Quarzlampe の Druckbestrahlung

膏劑には硫黃劑を用ひるが大して効果を見ない。

第五十七圖



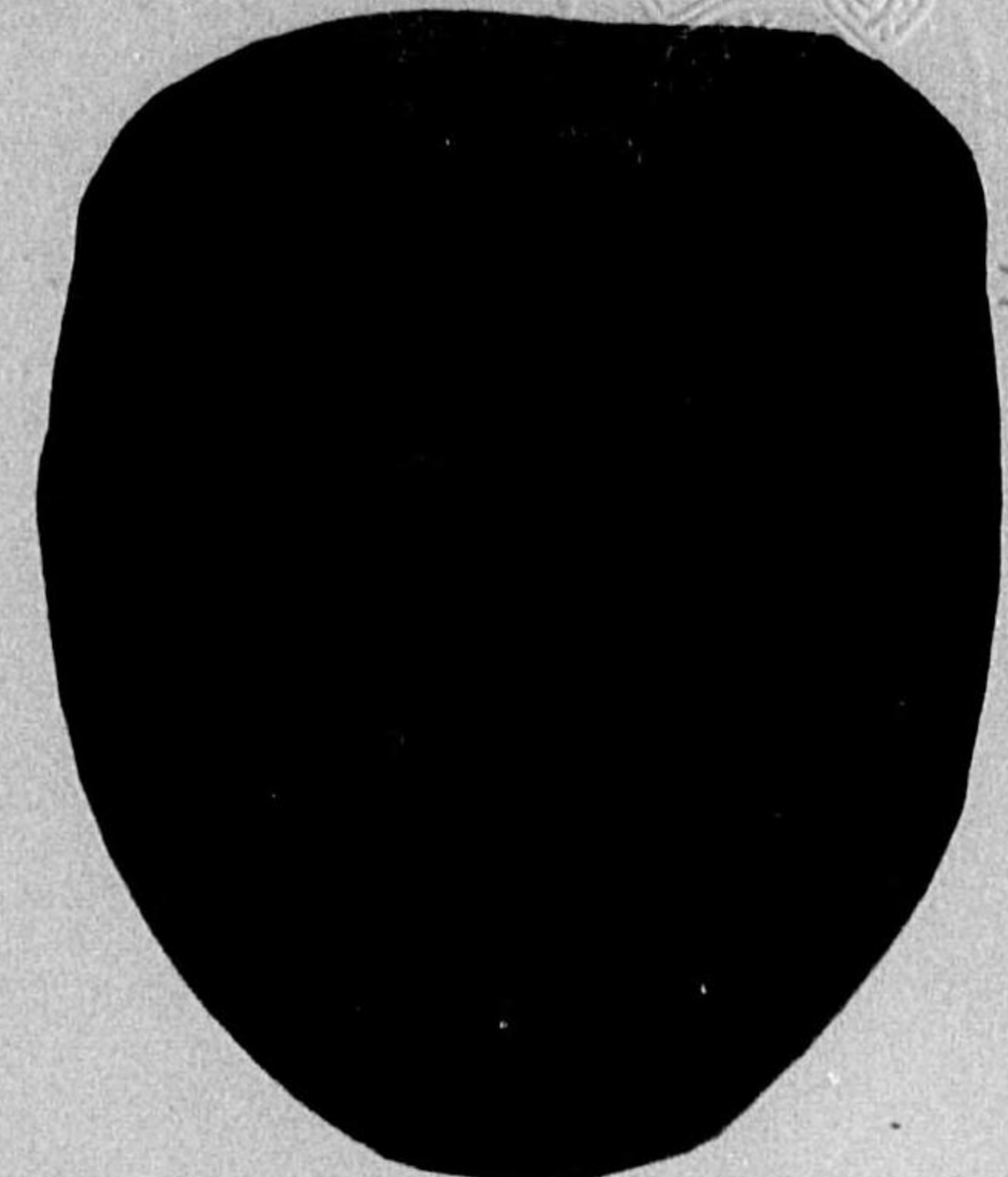
被角血管腫
Angiokeratoma Mibelli

第五十九圖



限局性萎皮症
Skleroderma circumscriptum

第五十八圖



汗孔角化症
Porokeratosis Mibelli

第六十圖



斑狀特發性皮膚萎縮症
Atrophia cutis idiopathica maculosa

第十五章 硬化性及萎縮性皮膚疾患 Sklerotische und atrophische Hautkrankheiten

I 汎發性暈皮症 Skleroderma diffusum

定義 皮膚結締織の硬化に次で萎縮を來す慢性疾患である。

症候 1) Prodrom: Paraesthesiae, Neuralgie, Juckgefühl, Kältegefühl, Gelenkschmerz, Oedem, Hyperaemie, abnorme Schweissabsonderung 等が數ヶ月、數年間存し、或は此等の前驅症狀を全然缺くこともある。

2) 硬化期 Stadium der Sklerose.

皮膚は次第に硬化し來り、終には板の如く緊張し擡んでも皺襞を作らず、指壓を加へても陷凹しないに至る。又一種蠟様の光澤を帯び平滑で皮紋は消失し、之に觸れると常に厥冷する。

次で色素増殖が患部に起る。即散漫性に或は斑狀に茶褐色乃至は赫黑色を呈し、而も其間に色素の脱失する部もあつて白斑を混する。

3) 萎縮期 Stadium der Atrophie.

硬化期に次で現はれる。即硬化した Haut は其儘次第に菲薄になり、更に進んでは皮下の脂肪組織、筋肉等も次第に萎縮する。其結果皮膚は直ちに骨に接觸するに至り、外傷によつて Geschwür や Nekrose を生じ易い。

部位 一定しないが普通上肢、顔面、頸部、胸部、肩胛部等の軀幹上部から symmetrisch に始まる。

手指鞏皮症 Sklerodactylie とは硬化が手指に及んだもので指は其屈伸自由を失ひ屈位に固定される。

経過及豫後 中年の婦人に多く見られ漸次全身に蔓延し、衰弱を招き種々の合併症殊に胸壁に及べば皮膚緊縮して呼吸作用が十分に行はれぬ結果 Lungentuberculose によつて死の轉歸をとる事が多い。

原因 栄養神経障碍説

血管神経障碍説

自家中毒説

多腺性内分泌障碍説 (甲状腺, 腦下垂體, 副腎, 生殖腺)

類症鑑別 1) Atrophia cutis idiopaticum diffusa 汎發性特發性皮膚萎縮症:

Hautatrophie を來すものであるが Sklerose を伴はないもので Haut は下層と固着しない。

2) アヂソン氏病 Morbus Adisonii: Pigmentation を來すが Haut の Sklerose, Atrophie を伴はない。

療法 按摩, 電氣浴, 紫外線浴, 温泉浴, 滋養療法。

2) 亞砒酸劑, 甲状腺劑, 腦下垂體前葉製劑, 生殖腺製劑。

3) Fibrolysin, Narbelysin の注射。

II 限局性鞏皮症 Skleroderma circumscriptum

定義 皮膚の限局した硬化萎縮である。

症候 1) Skleroderma diffusum と同様の變化であるが汎發せず限局するもので、其形により Skleroderma en plaques s. Morphoea 斑状鞏皮症と Skleroderma en bandes 带状鞏皮症とに分つ。

2) 初め乳白色又は淡紫紅色の圓形, 橢圓形又は带状の斑を發生し少しく隆起するが次で中央は稍々褪色し硬化し次で萎縮する。

3) 此際周縁部は猶柔軟で青紅色を呈し lilakring と呼ばれる。

4) 部位: 斑状鞏皮症は胸部, 臀部, 四肢。

带状鞏皮は症前額に多く四肢にも生ず。

5) 多くは永く癬痕様の萎縮斑を貽すが稀には數年後に自然に痕跡を止めず消滅することもある。

療法 Salol, 甲状腺劑, 電氣療法, 水銀石英燈。

■ 初生兒皮膚硬化症 Sklerema neonatorum

I 脂肪性硬化症 Sklerema adiposum, Fettsklerem

生後數日乃至2ヶ月の内に發病し多く相對性に下肢に始まり漸次上部に蔓延す。皮膚は蒼白色又は暗紅色, 暗紫色を呈し, 指壓により陷凹しない。

運動の自由を缺き呼吸及哺乳困難を來し體温下降して數日内に斃れる。

II 浮腫性硬化症 Sklerema oedematosum, Skleropedem

生後數日以内に發し Subcutane Fettgewebe に Oedem を生じ皮膚厥冷して蒼白となり蠟様の光澤があり指壓により陷凹を残す。

足甲, 下腿より起り漸次上行して數日中に死す。

療法 温浴, Couveuse, 人工血清 (食鹽 4.0 重曹 3.0 偏水 1000.0) を一日三回 10c.c. 皮下注射。

浮腫性硬化症には水銀軟膏塗擦又は連鎖狀菌血清注射も時に効あり。

IV 斑状萎縮症 *Maculae atrophicae*

定義 斑状の皮膚萎縮で通常丘疹瘰癧に續發する。

症候 1) 扁豆大乃至錢大で類圓形の斑状をなした皮膚萎縮が軀幹又は四肢に散發又は密生す。

2) 健康皮膚面より少しく陥凹し菲薄柔軟で表面は稍弛緩し、細皺があり且數々擴大した毛囊孔を認める。

3) 初めは紅褐色で後には褪色して蒼白になる。

4) *Syphilis papulosa* の吸收された跡に多く來る。又は *Papel* なくして現はれることもあり、非瘰癧にも來る。

5) 終生消失せず。

療法 なし。

V 特發性皮膚萎縮症 *Atrophia cutis idiopathica*

定義 認むべき原因なくして一部の皮膚萎縮するものである。

I 汎發性特發性皮膚萎縮症 *Atrophia cutis idiopathica diffusa*
又は *Acrodermatitis chronica atrophicans* Hexheimer.

症候 1) 概して *symmetrisch* に手足の背面、肘、膝蓋の如き突起部に好發し中心に向ひ蔓延する傾向がある。

2) 初め上記の部位の皮膚が鮮紅色、蒼紅色を呈し、表面平滑で光澤を有し健康皮膚面から微しく隆起す。

3) 上記の炎症症狀が數ヶ月持続した後萎縮が現はれるのが普通であるが炎症症狀を缺く場合もある。

4) 萎縮に陥つた皮膚は菲薄で皺紙の如く、蒼白色或は淡紅色で彈

力に乏しく乾燥し輕微な枇糠様落屑を示す。

5) 毛髪は大部分脱落し脂腺及汗腺の分泌は著しく減退する。

I 斑状特發性皮膚萎縮症 *Atrophia cutis idiopathica maculosa*
又は *Anetoderma erythematosa* Jadassohn.

症候 1) 四肢の伸側、顔面、腹部、背部に播種状に數個又は多數發生する。

2) 初め丘疹又は蕁麻疹様發疹として始まり數週數ヶ月を経て萎縮に陥る。此際周圍に *roter Hof* を認める。

3) 萎縮斑は圓形又は不正形、豆大又は爪甲大で蒼白又は紫紅色を呈し、少しく皮膚面より陥凹す。

4) 汗腺、脂腺、毛髪も共に萎縮に陥り皮膚乾燥す。

療法 なし。

VI 老人性皮膚萎縮症 *Senile Hautatrophia*

高齢による皮膚の萎縮で皮膚は菲薄になり光澤彈力を失ひ皺多し乾燥して黃褐色を呈す。殊に露出部に著明に現はれる。

VII 顔面片側萎縮症 *Haemiatrophia facialis*

顔面片側の皮膚が萎縮に陥つて菲薄となり、更に萎縮は筋肉骨にも及ぶ、若年の女子に多い。

VIII 外陰部萎縮症 *Kraurosis vulvae*

婦人外陰部に先づ炎症性腫脹潮紅を來し癢痒があり、後に其萎縮を來すもの

である。往々瘡を發生する。

IX 血管性多形皮膚萎縮症 Poikiloderma atrophicans vascularis Jacobi

定義 初め Haut の Rötung と Oedem とを生じ、後に Atrophie と Kapillaren dilatation 及び Pigmentanomalie を呈する稀有の皮膚疾患である。

部位 好んで顔面、頸部、胸部、四肢の伸側に symmetrisch に現はれる。

- 症候** 1) 先づ此等の部位に潮紅浮腫が出没する。
2) 其消褪するに従ひ、不規則な網眼状をなした皮膚の萎縮が發生し、其部分は稍陥凹し菲薄で皺襞に富み僅に光澤を帯びて居る。同時に色素も減退して蒼白色を呈す。
3) 萎縮斑の周圍に網状をなして暗褐色の暗紅色乃至黒色の Pigmentation があり、同時に多數の Kapillarendilatation が認められる。

萎縮斑の中にも毛嚢孔に一致して點状の色素斑が生ずる。

- 4) Haut は一般に乾燥し粗糙で枇糠様の落屑がある。
5) 爪甲の萎縮、毛髪脱落をも伴ひ、口腔、口唇の粘膜も侵される。其他關節障碍、筋肉萎縮を伴ふことがある。

経過 小兒期から始まり緩慢に進行するが或程度以上には進行しない、疾病部位に濕疹、潰瘍、腫瘍を合併發生することはない。

診断 不整形網状萎縮斑、毛細血管擴張、網状色素沈着、部位、慢性の経過。

類症鑑別 色素性乾皮症: Xeroderma pigmentosum: 是は Pigmentfleck が雀卵斑様小點状であり malignes Geschwulst を發し易く紫外線に對し過敏症を示す。

療法 亞硫酸劑、內分泌臟器製劑、紫外線、Grenzstrahlen. (超軟レントゲン線)

X 色素性乾皮症 Xeroderma pigmentosum

定義 幼時已に顔面、手甲等の露出部に雀卵斑に似た Pigmentfleck と Kapillaren-dilatation による Rötung を發生し、次で斑點状の Hautatrophie を來すもので、屢々又 malignes Geschwulst を續發する稀有の皮膚疾患である。

- 症候** 1) 生後間もなく Gesicht に Erythema solare 日光紅斑を生じ後に Kapillaren の Dilatation を來して永續性散漫性の潮紅となる。
2) 潮紅と同時に雀卵斑様の針頭大、粟粒大、麻實大で淡褐色乃至黒褐色の小色素斑が發生し往々隆起して黒疣状になる。
3) 次に此潮紅面上に圓形又は紐状の灰白色をなした癩痕様萎縮斑が現はれる。
4) 患部の皮膚は一般に乾燥して微かに落屑し細皺に富み、或は平滑菲薄となり皸裂、潰瘍、濕疹等を生じ易い。
5) 紫外線に對し過敏症がある。
6) 又此皮膚面の處々に疣贅状小腫瘍を生じ後に癌腫に變性し易い。

部位 顔面が好發部位で最も著明に侵され其他頸部、手甲、足

甲，下腿，胸襟部等にも發生する。口唇粘膜，眼瞼粘膜も侵される。

豫後 輕症のものは長く悪性腫瘍を生ぜず，又は20—30Lj.に至つて癌腫を發生しても割合に良性である。悪性のものでは生後1—2年の間に Carcinom を發生して夭死する。

診断 露出部に於ける潮紅と色素斑，皮膚萎縮，悪性腫瘍の併發，紫外線に対する過敏性。

類症鑑別 1) 酒皸鼻 Rosacea: Pigmentfleck u. Hautatrophie を缺く。

2) 鞏皮症 Sklerodermie: 皮膚萎縮して緊張するが Rötung を缺き，Pigmentfleck を生ずるが散漫性で部位も異なる。

3) 血管性多形皮膚萎縮症 Poikiloderma atrophicans vascularis Jacobi: 萎縮は不正網眼状をなし Pigmentation は網状をなす。紫外線に対する過敏症を缺く。

療法 不治の病で悪性腫瘍に対する豫防として黒痣を早期に切除すること，腫瘍に対しては Radium, Röntgen を用ふ。

X 紅斑性狼瘡 Lupus erythematosus

定義 境界明瞭な紅斑を生じ，毫も膿潰することなくして中心が癩痕様萎縮に陥る慢性萎縮性皮膚疾患である。

I Lupus erythematosus discoides 圓板狀紅斑性狼瘡

症候 1) 針頭大乃至扁豆大で扁平な類圓形の紅斑を生じ鮮紅色乃至暗紅色を呈する。

2) 此斑は漸次周圍に擴大し或は融合して掌大にも達する。

3) 外縁は少しく隆起し常に frisch-rot 又は dunkel-rot で健康皮

膚面と明瞭に境してゐる。

4) 中心は癩痕様に萎縮して少しく陥凹し，初めは紅色であるが後には褪色し又色素が脱失して白斑を生じ此處に擴張した毛細血管が認められる。

5) 斑は灰白又は汚穢灰白の鱗屑で蔽はれ，固着した此鱗屑を剝離すると其裏面には哆開した毛囊口に一致して圓錐形の或は釘狀の角性突起を存する。

6) 時としては鱗屑が微細で只毛囊口に一致して白い點の如き限局した角化増殖を認めることもある。

7) 極めて慢性の経過を示し自覺症はなく，一旦侵された部位は恢復しないのが常である。

8) 顔面，頭部，耳朶，足指背等に散發し，多く對側性に現はれ其數は多くない，粘膜も侵すことがある。

II Lupus erythematosus disseminatus 播種狀紅斑性狼瘡

1) Erythema の性状は Lup. erythem. discoid. と同様である。

2) 其數が多く disseminiert に又は konfluiert に發生し概ね釘頭大から爪甲大で且つ擴大の傾向がない。

3) 顔面，胸部，肩背，四肢を好發部位とする。

4) 急性に發生し其後は少しづゝ増減する，時に痕跡を止めず消失するものがある。

5) **急性播種紅斑性狼瘡** Lup. eryth. diss. acutus は重篤な全身症状を伴つて顔面軀幹に汎發す。其紅斑は narbige Atrophie を缺き又増大しないで細胞浸潤が強い。Pneumonie, Nephritis, Endocarditis, Meningitis を併發して數週内に死の轉歸をとることがある。

診 断 境界明瞭な紅斑，中心の癩痕様萎縮，固着した鱗屑と其裏面の角性突起。

類症鑑別 1) 尋常性狼瘡 *Lupus vulgaris*: 通常 Geschwür を作り眞の Narbe を作る。

2) 尋常性鱗屑癬 *Psoriasis vulgaris*: Schuppen は silberweiss で後に Narbe を止めない。

3) 汗孔角化症 *Porokeratosis Mibelli*: 黒褐色で周縁の角化は更に著しい。

4) 中毒疹 *Toxicodermie*: 中心に narbige Atrophie を缺く

5) 蛇行性潰瘍性梅毒疹 *Syphilis ulcerosa serpiginosa*: 潰瘍癩痕を作り，周圍と底面との浸潤は更に著明である。

療 法 1) Radium, Röntgen, Kohlensäureschnee, künstliche Höhensonne, Exstirpation

2) Grausalbe, Resorzinsalbe, Schwefelsalbe, Pityrol, Teer,

3) Chinin の内服と Jodotinktur の Bepinselung

4) Tuberculin, Arsenpraeparat, Eisenpraeparat

5) Goldpraeparat (*Krysolgan*, *Tryphal*) が著明な効果を呈することが最近知られた。

Krysolgan は $\frac{1}{10}$ mg. *Tryphal* は 0.025 gr, を食鹽水に溶かし靜脈内に注射し，局部の炎症反應又は發熱等がなければ *Krysolgan* は $\frac{1}{4}$ ・ $\frac{1}{2}$ ・1・2・ $\frac{1}{2}$ ・5. mg と増量し *Tryphal* は 0.025・0.05・0.1・0.2 と増量して用ふる。

第六十一圖



紅斑性狼瘡
Lupus erythematosus

第六十二圖



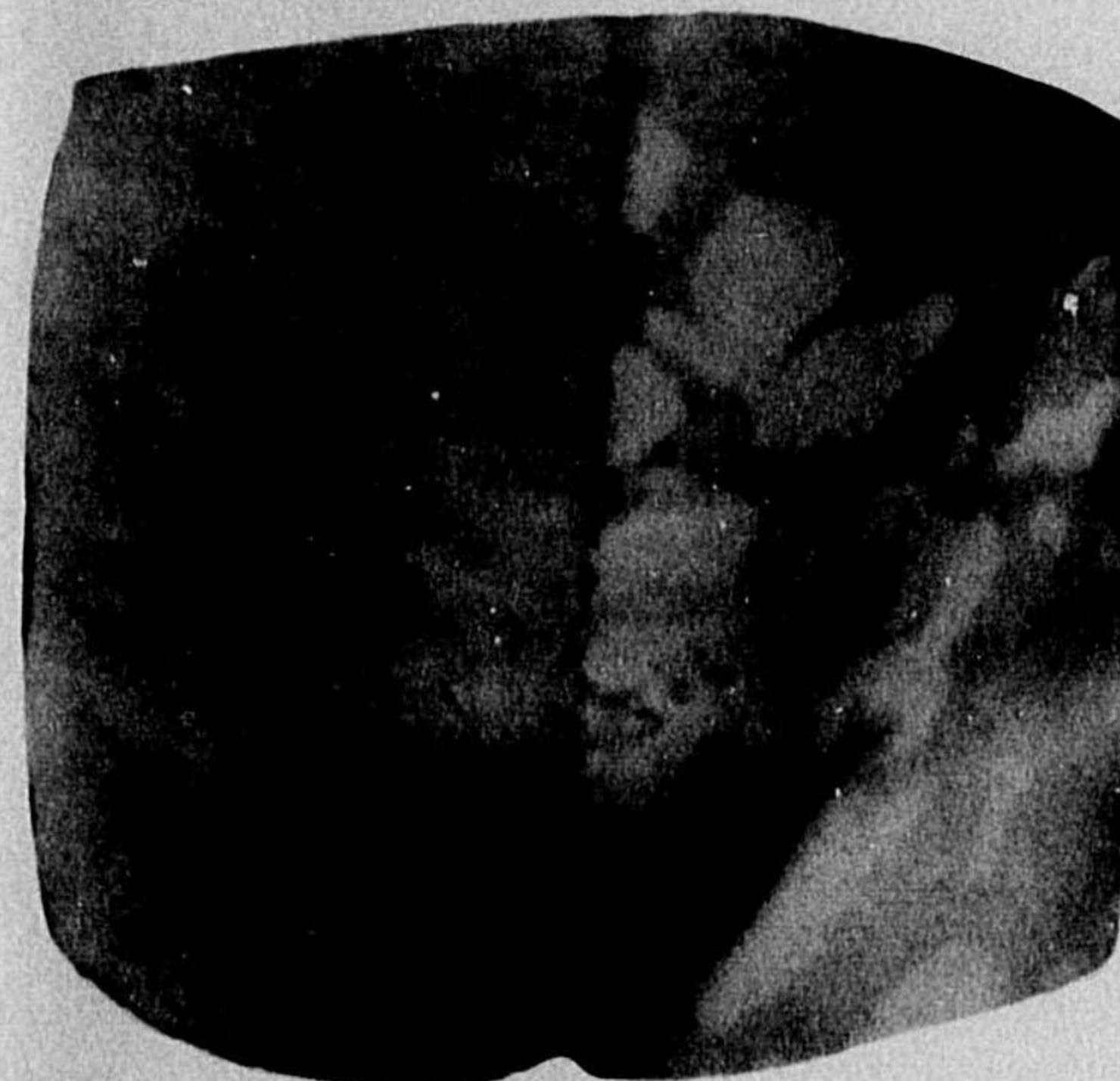
色素性乾皮症
Xeroderma pigmentosum

第六十四圖



尋常性疣贅
Verruca vulgaris

第六十三圖



尋常性白癜風
Vitiligo vulgaris

第十六章 皮膚色素異常 Pigmentanomalien der Haut

I 雀卵斑 (そばかす) Epheliden

定義 主として顔面に発生する褐黒色の微小色素斑である。

症候 1) 多く思春期前後に発生し始める針頭大乃至麻實大の不正類圓形の茶褐色又は暗褐色の斑點である。

2) symmetrisch に Gesicht 其他 Hals, Handrücken, Vorderarm にも生ず。

3) Oberfläche は glatt で abschuppen せず, 他に Kapillarendilatation, Hautatrophie を伴はず Depigmentation をも伴はない。又融合する事もない。

4) 秋冬に薄く, 春夏の日光の強烈な時に稍々著しい。故に **Sommer-sprossen** 夏日斑 なる稱がある。

5) 治療により一時は輕快しても再發し易い。

療法 1) Hebra 氏剝離膏を用ひて表皮細胞と共に色素を除去する。

Rp. Hydrargyr. praecipitat. alb.	白降汞	5.0
Bismut. subnit.	次硝酸蒼鉛	5.0
Vaselin	ワゼリン	10.0

2) Kohlensäure-Schnee.

3) 日光に曝露すると著明になる故其豫防藥として Chininpraeparat が用ひられる。

Rp. Chinin hydrochloric.	鹽酸規尼涅	2.0
Spiritus	酒 精	30.0
Glycerin	グリセリン	2.0
Aqua	餾 水	60.0

II 肝 斑 Chloasma s. Leberflecke

定 義 erworben に發生する平面の Pigmentation である。

症 候 1) 顔面殊に前額、頬部、顴部、眼瞼周圍に來る淡褐色又は暗褐色不正形の大色素斑である。

2) 通常 symmetrisch に來り時に手掌大以上に及ぶものもある。

3) 境界明瞭なるものあり不明なるものあり又濃淡もある。

種 類 1) Chloasma gravidarum 妊娠性肝斑： 最も多く分娩と共に消失し或は終生治しない。

2) Chloa. uterinum 子宮性肝斑： 生殖器障礙に原因するもの。

3) Chloa. cachecticorum 惡液性肝斑： 癌、結核、慢性酒精中毒、マラリヤ。

4) Chloa. traumaticum 外傷性肝斑： 化學的、溫熱的、器械的刺戟。

5) Chloa. solare 日光肝斑。

6) Chloa. toxicum 中毒性肝斑： 發泡膏、芥子泥。

療 法 1) Kausale Behandlung.

2) Hebra 氏弱剝離膏, Lassar 氏強剝離膏。

Rp. Lassar 氏強剝離膏。		
β -Naphthol	ベタナフトール	10.0
Sulf. praecipit.	沈 降 硫 黄	50.0

Sapo kali.	加 里 石 鹼	25.0
Vaselin	ワ ゼ リ ン	25.0

III アチソン氏病 Morbus Addisonii

定 義 皮膚及口腔粘膜に慢性に帯褐色の色素斑を生ずる疾患で常に Nebenniere の變質を伴ふものである。

症 候 1) 顔面、項部、頸部、背部、手背の如き露出部及乳房、腋窩、陰股部の如き生理的色素に富む部位に著色斑が現はれる。

2) 著色は淡褐色乃至黒褐色で散漫性、對側性に來り表面は平滑で何等の異常を伴はない。

3) 此著色斑上に更に針頭大乃至爪甲大の一層濃厚な色素斑を生ず。

4) 著色は口唇、齒齦、眼瞼の如き粘膜にも及ぶのが特徴である。

5) 尙胃腸障礙と神經障礙（筋肉衰弱、食慾減退、惡心嘔吐、腰痛、頭痛、胃痛、眩暈）があり數年以内に斃れる。

原 因 副腎の結核、癌、交感神經障礙。

診 斷 皮膚及粘膜の瀰漫性色素沈着、身體の衰弱、神經症狀。

類症鑑別 1) 雀卵斑 Epheliden: 顔面、手甲に限局し Pigmentfleck は麻實大以下である。

2) 肝斑 Chloasma: 茶褐色で衰弱を伴はず、粘膜を侵さない。

2) 砒素黒皮症 Arsenmelanose: 多く Arsenkeratose を伴ひ又色素脱失斑あり、既往症によつても知られる。

4) 黑色表皮腫 Akantosis nigricans: 皮野疎大になり、屢々 verrucöses Geschwulst を發生し、色も紅色調を帯ぶ。

- 5) 安知必林疹 Antipyrinexanthem: 境界明割圓形の斑で青黒色である。
- 6) 微毒性色素斑 Pigmentsyphilis: Gesicht, Nacken, Hals 等再發性微毒疹の發生し易き部位に多く、境界多く明割ならざる斑で帶青黒色である。又他にも微毒症狀を伴ひ、驅微療法でよく治癒する。
- 7) 癩性色素異常 lepröse Dyschromien: 大小不同の色素斑であるが多くは白斑をも存し常に此部位の知覺異常が證明される。
- 8) 癌性悪液質 Krebskachexie: 一種の Chloasma を生ずるが著色汚穢淡褐色で濃厚でない。
- 9) 結核性黒皮症 tuberculöse Melanodermien: Peritonitis tuberculosa, Darmtuberculose の如きに發生する淡黒色乃至黒褐色の Pigmentfleck で陰股部, 腹壁, 又は頸部等に現はれ, 多くは限局する。Morbus Adisonii と同一種ならんと考へられてゐる。
- 10) 銀皮症 Argyrie: 水銀の皮膚沈着で鼠青色で全身状態は侵されない。

豫後 不良。

療法 なし。

IV 柑色皮症 Aurantiasis cutis Baelz

定義 蜜柑, 南瓜の如き黄色の果汁に富んだ果物の多食により皮膚に一時橙黄色の色素沈着を來すを謂ふ。

症候 1) 手掌, 足趾の皮膚が symmetrisch に帶紅黄色を呈す。

2) 境界明割なることと不明なることとある。

3) 著明なるものにては掌趾の外に廣く身體各部に及び, 稀には口腔粘膜, 結膜にも多少の着色を認める事がある。

4) 自覺症を缺く。

5) 原因が除去されれば數週, 數ヶ月で消失する。

療法 豫防として蜜柑, 南瓜等の多食を禁ず, 此等の果實の攝取を遠ざければ自然に消褪するが發汗劑 (撒曹, Pirocarpin) 入浴等により一層速かに消失する。

V 先天性白皮症 Leucopathia congenita s. Albinismus

- 1) Leucopath. conge. universalis 汎發性先天性白皮症: 全身皮膚色素が先天的に缺乏するもの。
- 2) Leucopath. conge. partialis 局部性先天性白皮症: 限局性の先天性皮膚色素脱失で邊緣に色素増殖を伴はない。共に不治である。

VI 白癜 Vitiligo vulgaris

定義 erworben に生ずる限局性色素脱失症で, 徐々に増大し周圍には却て色素の増殖を見るものである。

症候 1) Haut に圓形又は不正形の色素脱失斑を發生する。

2) 脱色斑は色素減少でなく其全脱失で, 境界は常に明割であり斑の周圍の皮膚には却て色素の沈着がある。

3) 斑の形状, 大小及數は不定で對側性の事も偏側性に發生するこ

ともある。身體の何處にも發生し部位は不定である。

- 4) 白斑は漸次増大する傾向があり、或は相互に融合して廣大な面をなすに至る。
- 5) 白斑部には機能の異常なきが常であるが、時に軽度の知覺鈍麻又は汗分泌の障礙を證明することがある。
- 6) 白斑部の毛髪は Poliosis 白毛, Canities 白髪に變ずる。
- 7) 白斑の治癒する時には白斑内に島嶼狀に淡褐色の色素斑が發生し漸次擴大融合して治癒に赴く。

豫後 難治で治療に頑強に抵抗するが又自然に消失することもある。

診断 白斑(色素全脱失性)、周圍の色素増殖、後天の發生。

類症鑑別 先天性局部性白皮症 Albinismus partialis: 先天性であり白斑の周圍に色素増殖なく且擴大しない。

療法 1) Höhensonne, Quarzlamp

2) Crysarobin, Jodotinktur, Tinct. Cantharidium の塗布

Rp. Pylogallol 1.5

Thionol 3.0

Alkohol 30.0

毎日一回塗布

VII 其他の白斑症

1) サットン氏遠心性後天白斑 Leucoderma acquisitum centrifugum Satton

Naevus pigmentosus を核として其周圍に色素全脱失を生じ、徐々に遠心性又は偏心性に擴大し、圓形又は橢圓形をなし、拇指頭大から手掌大に及ぶ。

母斑は白斑に先ちて既に存在するものであるが白斑の出現と共に始めて顯著になるのが常で通常淡褐色半球狀に隆起する。大きさは豌豆大以下である。

白斑の性質は Vitiligo vulgaris に一致し色素の全脱失である。

2) 海水浴後の白斑 Leucoderma nach Seebad Dohi

1) 海水浴後胸、背其他に disseminiert に純白の白斑を發生する。

2) 大きさは帽針頭大から爪甲大を超えず。

3) Scharf begrenzt で數ヶ月又は數年の間存在する。

3) 癬風性白斑 Leucoderma post Pityriasis versicolor

Dohi

Pityriasis versicolor の後に原疹と大き全く一致せる白斑を發生することが屢々ある。

此白斑は色素の減退で白癬風の如く純白を呈しない。時に麻實大で毛囊に一致して發生することもある。中々頑固に治癒しない。

4) 他の皮膚疾患後の白斑

Psoriasis vulgaris, Pityriasis lichenoides chronica (Parapsoriasis), Lichen ruber, Lichen simplex chronicus Vidal, Eczema chronicum 等の治癒後に一時 Pigment の減少或は消失を來すことがある。

5) 先天性對側性色素異常症, 對側性肢端色素異常症, 又

對側性點狀色素缺乏症 *Dyschromatosis symmetrica hereditaria* Toyama, *Acropigmentatio symmetrica* Dohi u. Komaya, *Leucopathia punktata et reticularis symmetrica* Matsumoto

- 1) symmetrisch に肢端殊に指背, 手背及び趾, 足背に播種狀, 點狀或は斑狀に白斑を發生し, 此間に雀卵斑様不正點狀の色素點がある。白斑は往々純白なるもある。
- 2) 白斑は融合して種々の形狀をなし, 或は網目狀をなす。
- 3) 輕症では手甲, 足背及其附近に限るが重症では軀幹, 顔面にも及ぶ。
- 4) 幼少より現はれ屢々遺傳が證明される。

6) 偽梅毒性白斑 *Leucoderma pseudosyphiliticum* Okamura

- 1) 本邦人殊に 20-30 歳の男子に屢々見られる白斑で, 主として腰部に來り其他背部, 臀部, 側胸部, 腹部に發生する。
- 2) 大きさは爪甲大で圓形橢圓形又は不整形を呈し, 常に同大に止まり時に融合する事がある。
- 3) 白斑は僅に色素減少するのみで従て境界は明瞭でない。

7) サルワルサン皮膚炎後の白斑黒皮症 *Leucomelano-dermie nach Salvarsandermatitis*

- 1) *Salvarsanvergiftung* に因る *Erythrodermie* の後に現はれる。
- 2) 色は純白色で *Vitiligo vulgaris* と異なる。
- 3) *Leucoderma* と同時に其周圍或は白斑内に島嶼狀に鼠色乃至黒褐色の *Pigmentation* がある。
- 4) 屢々 *follikuläre Keratosis* を伴ふ。
- 5) *vegetative Nervensystem* の緊張異常が證明されるが *Vagus* の緊張か *Sympaticus* の異常緊張か, 検査の結果は必ずしも一致しない。
- 6) 如斯變化は陳舊梅毒による *vegetatives Nervensystem* の障礙に因つて發生したとの報告がある。

第十七章 毛髮病 Haarkrankheiten

脱毛症 Alopecia

脱毛症には次の種類がある。

A) Alopecia congenita 先天性脱毛症

一の hereditäre Erkrankung として見られるものである。

B) Alopecia acquisita 後天性脱毛症

I) Alopecia cicatrisans 癩痕性脱毛症

II) Alopecie nach allgemeine Erkrankungen

1) acute fibrile Krankheiten (Typhus abdominalis, Pneumonie, Scharlach, Pocken, Wochenbettfieber etc.)

2) chronische Krankheiten (Syphilis, Lepra)

III) Haut u. Haare の locale Veränderung に因るもの

甲) 局所の攝生不十分なるに原因するもの即結髮性禿髮症

Alopecia pre friseur s. Alopecia gradus

1) Alopecia atrophica parietalis Dohi 顛頂部萎縮性脱毛症

i) 本邦婦人 (20—30 Ij.) 頭頂部の毛髮が脱落し貨幣大より土器大の禿髮を來し、境界圓形又は犬牙状をなし、多少の Jucken を伴ふものである。

ii) 結髮のために頭頂部の皮膚が絶えず索引されて器械的刺戟を受くるために慢性の Dermatitis を起すによる。

iii) Verlauf は全く慢性で數々掌大に達し通常境界明瞭な

橢圓形の散漫性脱毛をなし、内に毳毛を残存すること多く又屢々哆開した毛囊孔が見られる。

iv) 脱毛斑は炎症症状は缺如するが邊緣部に Oedem と leichte Rötung とを見ることが多い。

2) Alopecia atrophica symmetrica temporalis Aramali

顛額部相對性萎縮性脱毛症

i) 11—15—16Ij. の間に diffuse Alopecie を以て發病す。

ii) 脱毛は symmetrisch に beide temporalgegend に來り次に前額部を侵し數々 Medianlinie に於て他側脱毛斑と合す。

iii) 周圍健康部に對する境界は多くは極めて不明瞭である。

iv) 脱落せる毛髮は割合に厚き硝子様透明にして漿液に富んだ鞘に被はれ尋常の脱落毛より太く見ゆ。

v) 皮膚には何等 entzündliches Zeichen 若くは Schuppen, Kruste を認めないのを例とするが稀に Oedem, Pustelchen を認むることがある。

vi) Verlauf は極めて遅く 20Ij. 前後に至り Haut の narbige atrophie と毛髮の決定的脱落を残して止む。

乙) 寄生性疾患に因るもの

Trichophytia profunda, Favus

丙) 原因未詳の毛髮病

Alopecia monileformis pilorum, Monilethrix 聯珠毛

i) 生後 7—8 Woche の間に一旦脱毛し其後稀疎の毛髮が再生する。

ii) 此毛髮は毛幹が一定の間隔を以て紡錘形に膨大し其中間

は却て狹隘となる故連珠状を呈する。

- iii) 狹隘部では毛幹に髓質を缺き皮質も萎縮し或は缺如し随て色素の減少又は消失を致し之が爲に毛髮半白を呈する。
- iv) 狹隘部より容易に斷切し其殘根の斷面は平滑なるか或は分裂す。
- v) 故に本症に罹れるものは常に毛髮の稀少なるのみならず亦極めて短い。
- vi) 毛囊孔には角栓があつて之を除くと其下から彎縮した毛髮が露出する。

丁) 毛髮の母地たる皮膚の疾病に原因する脱毛。

- a) 脱毛が併發症狀に過ぎぬもの
 - 1) Eczema, Erysipelas, Lupus erythematosus, Lupus vulgaris, Syphilis ulcerosus 等の結果として來るもの。
 - 2) 神経系疾患: 神経の外傷顔面片側萎縮症 Neuralgie, Herpes zoster.
- b) 脱毛を主要症候とするもの。
 - 1) Alopecia areata 圓形脱毛症。
 - 2) Alopecia pityrodes 枇糠性脱毛症。
 - 3) destruktive Folliculitiden 破壊性毛囊炎。
 - i) 散發性: Pocken, Syphilis, 萎縮性痤瘡, 毛囊角化症性脱毛
 - ii) 集簇性: Folliculitis dépilantes agmineés Brocq = Alopecia cicatricelles innominees Besnier.
 - イ Pseudopelade = Alop. atrophicans 假性秃髮症。

- ロ Acné décalvante de Lailier = Folliculitis decalvans Brocq 秃髮性痤瘡。
- ハ Sycosis lupoides Brocq = Ulerythema sycosiforme Unna 狼瘡状毛瘡。
- ニ Folliculitis decarvans profunda Nobl = Perifolliculitis capitis abscedens et suffodiens Hoffmann. 深部秃髮性毛囊炎, 膿瘍性浸蝕性頭部毛囊周圍炎。

I 圓形脱毛症 Alopecia areata

定義 臨床上 Haut に何等の病變を認めずに硬毛が圓形をなして全然脱落するものである。

- 症候
- 1) 硬毛部殊に被髮頭部に現はれる圓形の秃髮斑で通常突然に發生し自覺症狀を全く缺く。
 - 2) 秃髮斑の大きさは指頭大から手掌大以上にも及び、境界明劃で多くは圓形、橢圓形を呈す。
 - 3) 初め一個發生し漸次其數を増することがあり或は永く一個に止まり、或は初めから數個發生し擴大して相互に融合するものもある。
 - 4) 患部は全然毛髮なく平滑で健康皮膚色を有し、毫も炎症症狀が無く鱗屑痂皮を帯びない。
 - 5) 脱毛が尙進行の傾向にある時には周圍の毛髮は容易に拔去し得られる。此脱毛は Haarscheide を有せず Haarwurzel が萎縮して細尖である。
 - 6) 唯一個發生して而も容易に治しないものがあり、舊疹はよく治

癒するが新疹を續發して止まぬがあり、経過は不定であるが一般に再發し易い。

7) 良性のものでは數十日、數ヶ月の内に毛髮再生を來すが悪性のもものでは再發反覆し或は全被髮頭部、鬚髯、眉毛、腋毛、陰毛、に蔓延し、尙甚だしきものでは全身の毳毛も脱落するに至る、如斯ものでは再生機能も弱く、或は終生不治に終る。

8) 治癒する時には周圍の脱毛が先づ止み、次で禿髮部に細い白色の毳毛を生じ次第に密生し、漸次硬毛に變ずるのである。

原因 營養神經障礙説、中毒説、寄生説が有り、今日では内分泌障礙説と植物性神經系緊張異常説とが最も信じられてゐる。

診断 圓形の禿髮斑、皮膚平滑で斷毛なきこと、鱗屑なきこと、自覺症なきこと。

類症鑑別 1) 癩性脱毛症 Alopecia leprosa: 知覺鈍麻と底面の浸潤。

2) 微毒性脱毛症 Alopecia syphilitica: 毛髮は稀疎になるのみで大きさ多く爪甲大を出でない。

療法 1) 藥物療法: 石炭酸、水揚酸軟膏、Chrysarobin, Pyrogallol, 巴豆油、沃度丁幾等の刺戟劑の塗擦。

Rp. 1) Carbol	石炭酸	5.0
Acid. salicyl.	サルチル酸	10.0
Vaselin	ワゼリン	100.0

禿髮膏 1日1回塗擦

Rp. 1) Chloral-hydrat.	抱水クロラール	5.0
Aether		25.0
Acid acetic.	結晶醋酸	1.0—5.0

1日1回塗布

- 2) 内服療法: 玄華, セーミン, フマグソラン
- 3) 理學的療法: Ultravioletstrahlen
- 4) 内分泌腺製劑: 卵巣製劑, 甲狀腺劑, 腦下垂體製劑等
- 5) 植物性神經系の緊張異常に交感神經緊張にはギネルゲン, コリン等, 副交感神經緊張にはアトロピンの注射内服

II 枇糠性脱毛症 Alopecia pityrodes

定義 頭部の皮脂漏に伴つて徐々に發生する永久的脱毛症である。

- 症候** 1) 頭部脂漏が青春期から持續して枇糠様の落屑を呈し、數年を経る間に毛髮は次第に稀疎になる。
- 2) 男子では先づ前額或は左右の Temporalgegend に接して髮際が次第に抜上り所謂 Weisheitswinkel 智慧禿をなす。之と同時に Parietalgegend に於ける毛髮も凋落を呈し相互融合して前頭から頂頭に及ぶのである。境界は明割でない。
- 3) 時としては 30Lj. 未滿に來ることあり之を壯年性脱毛症 Alopecia praesenilis s. praematura と云ふ。

4) 禿頭部には猶毳毛を存することゝ全然平滑なることゝある。又禿頭部は通常發汗著しい。

原因 1) 脂漏が多く原因になるが此脂漏と脱毛との關係は一樣ではなく脱毛著しきものにも脂漏の痕跡を認めないこともある。

2) 脂漏のみが原因でなく素質の遺傳がある。

3) 貧血, 萎黄病, 慢性消化不良, 婦人病, 分娩, 結核も原因になる。

療法 1) 原因の除去, 適度の洗髪。

2) Ultravioletstrahlen

3) 落屑癢痒を制す,

Rp.	Resorzin	レゾルチン	1—2.0
	Carbol	石炭酸	2.0
	Glycerin	グリセリン	10.0
	Aq. rosae	薔薇水	50.0
	Spirit	酒精	50.0

4) 發毛劑: 芫菁丁幾, 番木鱧丁幾, 醋酸, 水揚酸

Rp. 1	Tinc. cantharidum	芫菁丁幾	10.0
	Carbol	石炭酸	2.0
	Acid. Salicyl.	サルチル酸	5.0
	Ol. Ricinii	ヒマシ油	10.0
	Spiritus	酒精	80.0
Rp. 2	Tinc. canthari.	芫菁丁幾	1.0
	Chin. miuria.	鹽酸キニーネ	2.0
	Balsamum, Peruvianum	ペルバルサム	2.0
	Vaselin. flavum.	黄色ワゼリン	30.0
Rp. 3	Tinc. canthari.	芫菁丁幾	0.3—1.5
	Resorzin	レゾルチン	0.15
	Chin. muria.	鹽酸規尼涅	0.6
	Sulfur sublimat.	硫黄華	1.5
	Adep. benzoic.	安息香酸豚脂	30.0

■ 毛囊角化性脱毛 Alopecia hyperkeratosis follicularis

身體他部に Lichen ruber acuminatus, Keratosis follicularis を有するもの或は Salvarsanvergiftung 後の Hyperkeratosis として, 或は身體他部に何等病變を作ふことなくして被髮頭部の毛囊部に Hyperkeratose を呈し其結果として脱毛を呈するものである。

IV 集簇性禿髮性毛囊炎 Folliculitis depilantés

agmineés Brocq

頭部, 鬚髯部等の硬毛部に於ける毛囊炎に原發して永久の萎縮性又は癩痕性禿髮を來すものを總稱して謂ふのである。此内には數種の疾病が含まれ孰れも其原因尙不明に屢する稀有の疾患である。

I 假性毛髮症 Pseudopelade Brocq

- 1) Parietal-, Temporal-, Occipitalgegend に scharf begrenzt の脱毛斑を生じ一見 Alopecia areata に類するが形は不正形である。
- 2) 局部の皮膚は白色の光澤を有し, 往々僅に薔薇色を呈し滑澤で癩痕様を呈し周圍皮膚面から少しく陷凹する。
- 3) 周圍の毛根部に於ける軽度の Rötung, Anschwellung, Abschuuppung を見るのみで炎症は殆どなく, Blase, Pustel, Kruste を見ることはない。
- 4) 周圍の毛髮を抜去して見ると, 毛根に濕潤した硝子様の上皮鞘を有し Alopecia areata に於ける如き毛根鞘の萎縮はない。
- 5) 常に慢性で新しい脱毛斑を生じ, 且つ頑固で其脱毛幸にして停止することがあつても完全に恢復することなく永久の脱毛を招く。

II 禿髮性毛囊炎 Folliculitis decalvans

禿髮性瘡 Acné décalvante de Lailier

- 1) Haarfollikel に entsprechen して半米粒大乃至小豆大の紅色丘疹を生じ次で其頂點に Pustel を作る。
- 2) 周縁には entzündlicher roter Hof があつて oedema'ös である。
- 3) Pustel は乾燥して Kruste を作り次で此 Kruste が脱落すれば Haut は narbige Atrophie を呈し毛髮も脱落する。
- 4) 如斯變化が多少集簇性に多發し、大小の病竈を作り多數の不正形淡紅色或は蒼紅色の癩瘡様禿髮斑をなす。
- 5) 主として側頰部、額部、鬚髯部、有髮頭部、就中側頭部に來る。

III 狼瘡狀瘡 Ulerythema sycosiforme Unna, Sycosis lupoides Brocq

- 1) 鬚髯部就中、頰部に好發し顎下部、上口唇、額部及び側頭部に發生することもある。
- 2) 毛囊周囲の小膿泡を以て始まり、漸次密集して一つの局面を作る。
- 3) 皮膚は發赤腫脹し或は時に深く浸潤して表面に痂皮鱗屑を被むる。
- 4) 病機は極めて緩徐であるが毛髮の母地を破壊して完全の脱毛を惹起し、連続的に常に偏心的に周圍に蔓延し中心は瘡痕を留める。
- 5) 中心の瘡痕部は滑澤、白色不正形で表面には不規則な結締組織維小索が隆起することが多い。
- 6) 周縁部は幅 1—3 糧の發赤浸潤を呈し、其面上に毛幹を中心として圓錐形の淡黄色又は綠黄色の膿泡と、類褐色乃至暗赤色の稍柔軟な刺針頭大乃至麻實大の小結節があり浸潤が著しい。

- 7) 此浸潤部では毛髮も已に全く缺如し、或は殘存するものも容易に拔去する事が出来る。其毛根は膜狀に浸淫せる鞘を示す。

IV 深部禿髮性毛囊炎 Folliculitis decalvans profunda

Nobl 1904

膿瘍性浸蝕性毛囊周圍炎 Perifolliculitis capitis abscedens et suffodiens Hoffmann

- 1) 頭部に於ける麻實大乃至豌豆大の皮下毛囊性小結節として始まり通常多發し集簇融合する性質がある。
- 2) 結節は多少潮紅し漸次増大し柔軟で Pseudofluktuation を呈し、胡桃大に達すると多少の疼痛があり化膿して Abszess を作り終に durchbrechen して Fistel を作る。
- 3) 結節上の毛髮は頗る稀疎になり若しくは悉く脱落して淡灰赤色を呈し壓迫すれば Eiter を漏す。
- 4) 同時に subcutane Gewebe を浸蝕破壊し近接するもの相互に交通して皮下に一大空洞を形成し Eiter を充す。
- 5) Verlauf は慢性で頑固であるが早晚治癒する。但し瘡痕性の永久的禿髮を來す。

診 斷 1) Folliculitis dépilantes agmineés 中假性禿髮症は炎症を缺くことによつて直ちに鑑別され又 Alopecia areata に對しては決して毛髮を再生しないことで區別される。

2) 狼瘡狀毛瘡は相互融合して局面を作るが部位が多く鬚髯に來り病竈概ね單發して深い結節や膿瘍は作らない、遠心性に擴大するのが特徴である。

3) 禿髮性毛嚢炎は決して深部の膿瘍を形成せず唯毛嚢に一致して紅斑小結節、小膿疱を作るに止まる、尙癬の如く自覺症状は高度でない。

4) 深部禿髮性毛嚢炎は巨大な皮下膿瘍を形成するから診断に苦しまない。

療法 1) レントゲンが最も効果がある、紫外線の併用も宜い、但し一旦癩瘰化した禿髮は不治である。

2) Glyteerunna, Teerpasta

3) 膿瘍には切開、濕布。

V Trichorrhesis nodosa 結節状裂毛

定義 毛髮に縦裂部を生じて結節状をなし其中央より切斷し易き状態である。

症候 1) 鬚髯に多く來り眉毛、腋毛、陰毛、頭髮には稀れである。

2) 硬毛の處々に微小の灰白褐色の小結節を生じ此部に於て毛幹は縦に細裂し更に上下に兩斷され易い。其断面は竹筴に似てゐる。

3) 此小結節の数は種々で一毛幹に數個を存することがある。

療法 よく油劑 椿油、オリーブ油又は禿髮膏を塗布する。

VI 黄菌毛 Trichomycosis palmellina Pick

症候 1) 主として腋毛に來り稀に陰毛に來ることがある。

2) 毛幹に黄色又は赭黄色の膠様物を鞘状に固着して大小の結節を作り屢々毛根より毛端に及ぶ事がある。

3) 單に毛幹の表面に附着するのみで實質内に侵入しないから毛髮は切斷或は分裂等を起すことがない。

4) 數々腋汗過多に伴發し且つ不潔者に來る。

療法 加里石鹼でよく洗滌する。

VI 砂毛 Piedra

定義 毛髮に白く硬き砂粒様の小結節を固着する寄生菌病である。

症候 1) 屢々婦人の頭髮に生じ稀れに鬚髯に來る。

2) 毛幹の處々に不定の間隔で灰白色紡錘状卵圓形の小結節を生じ毛幹に固着し硬くして砂粒の如くである。

3) 鏡檢すると黄褐色の顆粒状物よりなり幹毛を中心として鞘状に附着する。

4) 本症は傳染するため屢々家旅中に同病者を證明する。

原因 Trichosporon ovoides Osorio 1876

療法 加里石鹼精で洗髮し禿髮膏を塗擦する

Rp.

石炭酸 5.0

水揚酸 10.0

ベルガモット油 5 滴

黄色ワセリン 100.0

第十八章 皮膚腫瘍

Geschwülste der Haut

上皮より発生する皮膚腫瘍

I 疣贅 Verruca, Warze

定義 表皮の限局性増殖で主として角層の肥厚に基づくものである。之を三種に區別する事が出来る。

1 尋常性疣贅 Verruca vulgaris

粟粒大、針頭大の扁平な隆起として始まり、初めは皮膚色で表面平滑であるが次第に増大して豌豆大、大豆大に達する。増大するに従ひ汚穢灰白色を呈し、表面は角層の増殖が著明で縦裂を生じて乳嘴状となり、甚だ硬いが常に乾燥して居り炎症症状を伴はない。又自覚症状を缺く。

手背、足甲、指趾、手掌、足趾に好發し、多くは少年に發生し 30Ij. 以後には少ない。数は1—2個に過ぎないこともあるが漸次増加する傾向があり時としては100を越えるに至る。

一旦發生すると數年間存在するが往々卒然として自然に消失することがある。

2 青年性扁平疣贅 Verrucae planae juveniles

Stecknadelkopfgross, hanfkorngross の扁平な丘疹で僅に Hautniveau より隆起し境界は明劃である。

色は皮膚色又は淡褐色で、形は圓形又は多角形を呈し、表面は終始平滑である。

疹は相互に融合することもあり、自覚症は全く缺く。

主として symmetrisch に Stirn, Temporalgegend, Wange 及び Handrücken に來り播種状に多發する。時には急速に發生し徐々に増加するが稀には又急に消失する事がある。

少年、青年に多い。

3 老人性疣贅 Verrucae seniles

扁豆大乃至爪甲大の汚穢黄色乃至黄褐色の扁平な斑で僅に Hautniveau から隆起する。

形は圓形又は不正形で表面は少しく粗糙である。或は乾燥し或は脂様で爲に脂漏性疣贅 Verruca seborrhoica と呼ばれる。表面の角層は搔破し易く、其底面は不平で出血し易い。

50Ij 以上の殊に男子に多發し Gesicht, Hals, Vorderbrust, Handrücken, Streckseite der Vorderarm, Unterschenkel に多く見る。

自然に消失することはなく長く存在し、稀に之から上皮癌を發生する。

原因 尋常性及青年性疣贅は皮内接種により移植することが出来るので一種の傳染性疾患と考へられるが病原は尙不明である。

老人性疣贅は皮膚の老人性萎縮に原因するものである。

療法 1) 亞砒酸劑 (法列兒水, 亞細亞丸) の内服又は Soralson 亞砒酸曹達水 (1% 1c.c.) の注射。

2) 局所療法。

尋常性疣贅: 發煙硝酸, 硫酸, 石炭酸, 乳酸三鹽化醋酸, 苛性加里を以て腐蝕する法があり、好んで Maculanin (50% 苛性加里粥) が

用ひられる。

又 Elektrolyse も行はれるが孰れも跡に Narbe を作り易い。数が少なれば 10% サルチル酸コロヂウム, スピール硬膏を以て角層を軟化除去した後に基底層を鋭匙で搔破し其痕に過クロール鐵液を塗布するも宜い。

又 Radium の貼用, Röntgen 放射も試みる。

黄色沃度汞 (0.01—0.02 täglich) の丸劑や薏苡仁の内服の有効な事があり, 暗示療法が意外に奏効する事があるため局部に沃度丁幾塗布を繰返すのも一法である。

青年性扁平疣贅: 亞砒酸劑の持長が有効に作用するのが特異であるが Röntgen 照射を兼ねれば更に効果がある。

II 疣贅様表皮發育異常症 Epidermodysplasia verruciformis Lewandowsky

定義 幼年期に初發し全身に疣贅様の丘疹を發生する慢性症である。

症候 1) 頭部, 前額, 軀幹, 上膊, 上腿等に粟粒大乃至豌豆大の扁平丘疹を發生し, 邊縁明劃な正圓形或は橢圓形乃至不正形を呈し, 毫も炎症症狀なく, 質は軟で表面に剝離し易い灰白色乃至黃褐色の靴襠様或は葉狀落屑を被むり或は厚い黄色脂肪様の鱗屑塊をなす。鱗屑を剝離すると淡紅色の稍濕潤した扁平面が現はれ小血點を生ずる。密生した部位では相互に融合して網狀をなし或は其間に僅に健康皮膚面を見る。

2) 前膊, 手背, 指背には全く青年性扁平疣贅に一致する滑澤な丘疹を發生し屢々鱗屑を帯びることがある。

3) 手掌には帽針頭大から豌豆大に至る白色又は黄色半透明の斑が生ずる。

- 4) 自覺症狀を缺き癢痕を作らない。
- 5) 多く 10Lj 以下の幼年期に始まり漸次増加して往々數十年に及ぶ。
- 6) 稀に Hautkrebs を續發する。

療法 1) 亞砒酸劑。

2) Röntgen

III 傳染性軟屬腫 Molluscum contagiosum

定義 中心に臍窩を有する疣贅様の新生物で, 常に多發し其内容が漏泄附着すれば傳染するものである。

- 症候** 1) 針頭大乃至豌豆大の小腫瘍である,
- 2) 半球狀に皮膚面上に隆起し, 表面平滑で皮膚色又は乳白色或は淡紅色を帯び, 一種蠟様の光澤を有し中央に grübchen がある。
 - 3) 質は軟かく試みに兩側から壓迫すると白泥様の物質を排出し少しく出血する。自覺症はない。
 - 4) 部位は軀幹, 顔面, 頸部及び陰部と其周圍に好發する。
 - 5) 好んで小兒を侵し, 初めは數個であるが漸次増加して數十個, 數百個に及ぶことがある。散發又は簇生する。
 - 6) 自然に乾燥して脱落することがあり, 多く自然に治癒するが稀に化膿菌の感染によつて炎症を呈し膿潰することがある。

原因 傳染性があるのは確實であるが病原體は尙不明である。

組織 純然たる Epitheliom の Bild を呈し, Retezapfen が肥大增殖し分岐融合して瓣狀の腫瘍を作る。上皮細胞は退行して大なる橢圓形の強く光線を屈折する軟屬腫小體 Molluscumkörperchen を作る。

診断 豌豆大迄の半球状の小結節，蠟様の光澤，中心の臍窩，壓迫により白泥物を出すこと。

類症鑑別 1) 尋常性疣贅 *Verruca vulgaris*: 質が硬く表面に角層増殖があつて數々分裂して居り中央の凹窩がない。

2) 軟性母斑 *Naevus mollis*: 軟く皮膚色を呈し表面に光澤なく中心に臍窩もない。

療法 解剖攝子で挟んで壓潰し内容を排除した後沃度丁幾を塗布する。

發生後日淺く形尙小さいものは沃度丁幾を反覆塗布すれば治癒する。増大して大豆大以上に及び或は炎症を呈したものは鋭匙で搔抓し止血後 *Euguforn*, *Vioform* を撒布し殺菌ガーゼを宛て、繃帯を施す。

IV 尖圭コンチローム

Condylomata acuminata, *Spitzes Condylom*

定義 陰部附近に生ずる柔軟疣状の上皮性腫瘍である。

部位 男子では冠狀溝，龜頭，包皮縁，尿道口，婦人では大小陰唇内面，膣口，膣壁等に多く又臍窩，肛圍にも發生する。

症候 1) 初めは粟粒大，針頭大の丘疹として單發又は簇生し忽ち増大して米粒大，桑實大以上に達し相互に融合し又は密生して廣い部面に及ぶ。

2) 皮膚面から疣状又は菌状に隆起し，表面は縦横の溝によつて分裂し鶏冠の如くなる。

3) 質は軟かで色は乳白色又は淡紅色である。表面は乾燥するが又周圍の分泌物の刺戟により濕潤し易く，上皮剝離して糜爛し淡紅

・粘膜様になり悪臭を放つことも多い。

4) 自覺症は缺くが糜爛した時には灼痛がある。

原因 淋疾，包莖，白帶下等で分泌物の刺戟が原因に考へられてゐる。然し淋疾のない者にも現はれる。

組織 表皮網状層の肥大で，網突起も延長し従て真皮乳頭も延長且つ分枝し，血管，淋巴管の擴張，多少の細胞浸潤を伴ふ。

豫後 良性であるが再發し易い，稀には卒然として自然に消滅することもある。

診断 部位，草樹状鶏冠状の柔軟な腫瘍。

類症鑑別 扁平コンチローム *Condyloma lata*: 常に扁平で決して表面増殖して樹枝状に分枝することはなく，基底には浸潤があり表面濕潤して分泌が多く其中には容易に *Spirochaeta* が證明され，其他にも淋巴腺腫脹其他の微毒徴候が認められる。

療法 1) 患部を清潔にし *Zinc-Amylum*, *Dermatol* の類を撒布して常に乾燥せしめる。

2) *Resorzin pulver* を一日一回づゝ撒布すると數日で脱落することがある。

3) 結晶石炭酸，三鹽化醋酸，過クロール鐵液，硫酸銅等で腐蝕する。

4) 基底から切除し大なる鋭匙で搔抓する又小なるは *Diathermie*, *Paquelinsche Brenner* を行ふが宜い。

5) 再發を豫防する爲に次の如きものを用ふる。

Rp. 1	硫酸銅	1.0	Rp. 2	レゾルチン	1.0
	枯 礬	5.0		ウイルソン氏膏	10.0
	サビナ葉末	5.0			

V 皮膚乳嘴腫症 Papillomatosis cutis

常に symmetrisch に陰部周囲, 臍窩, 腋窩稀に頭部, 耳翼周囲, 頸部等に Condylomata acuminata に似た尖圭柔軟の腫瘍が密生して局面を作り, 其間に大小無数の裂溝を存して漿液膿様の分泌液を滲溜するものである。局面の境界は明割であるが附近には乳嘴腫の孤立散在するのが認められる。経過は不定で一部は脱落して暗褐色の色素沈着を止め他方は蔓延する。療法は尖圭コンヂロームに準ずる。

結締織より発生する良性腫瘍

VI 纖維腫 Fibrom

硬性纖維腫 Fibroma durum s. hartes Fibrom

小豆大から時に林檎大以上に及び硬く, 皮下に移動する。単発するのが常である。軀幹四肢に多い。

軟性纖維腫 Fibrom pendulum s. Weiches Fibrom

針頭大から小豆大, 大豆大で主として頸部, 顔面, 軀幹に発生し, 軟く普通皮膚色又は暗褐色を呈し, 大なるは懸垂する。療法は共に切除する。

VII レエクリングハウゼン氏病

Recklinghausensche Krankheit

Neurofibrom 神経纖維腫, Fibroma molle 軟性纖維腫

症候 主に angeboren に來るもので大小, 形状不同の柔軟な腫瘍を多數に発生し, 時に其数が數百, 數千に達する。多くは正常皮膚色であるが大なるものは時に青紅色を呈するものがあり, 表面は孰れも平滑である, 通常無痛性であるが時として一部の結節中に特發性及び壓迫に因る疼痛を有するものがある。

單發性のものは先天性に発生し又多數のものは少年期, 思春期に達して現はれる。

本症は一の先天性の畸形で屢々家族的に證明され, Fibrom の他に大小種々の色素性母斑及び神経纖維腫を合併し或は發育不全, 畸形, 低脳を伴ふことがある。

自然に消退することは決してなく全身状態は佳良であるが, 晩年に至り悪性腫瘍に變ずることがある。

療法 少數ならば切除する。

VIII 蟹足腫又は瘰癧息肉 Keloid

定義 特異質に基づいて発生する瘰癧様結締織の増殖である。特發性のものと瘰癧に續發するものとある。

症候 1 **真正又特發蟹足腫** Wahres od. spontänes Keloid

原因なくして主に胸部の健康皮膚面に硬い扁平な腫瘍として現はれる。形は不定, 境界は明瞭で皮下に對しよく移動する, 表面は平滑で常色, 桃紅色又は暗紅色を呈し, 時に血管擴張を伴ふ。單發するもあり多發するもあるが, 決して破潰しない。自覺症は缺くのが常であるが時に發作性に反覆する Neuralgie を伴ふものがある。

2 瘻痕性腫足腫 Narbenkeloid

瘻痕に又は膿疱、潰瘍に續發するもので數ヶ月、數年の間に發生し後には瘻痕面を超して増大する。

- 療法 1) 10—30% Thiosinamin 硬膏, 1—3% Pepsin 軟膏
 2) Fibrolysin, Narbelysin 注射。
 3) Elektrolyse
 4) Radium, Röntgen
 5) totale Resektion

IX 脂肪腫 Lipom

多く大人に來り質軟く半球狀に隆起し瓣狀の構造を有するのが特色である。時として後に石灰化することがある。
 單發性、多發性、散漫性の三種に區別される。

X 黄色腫 Xanthom

定義 一種の脂肪球を含む細胞よりなる真皮中の Geschwulst で黄色の斑又は結節をなす。

症候 1) 扁平又斑狀黄色腫 Xanthoma planum s. maculosum
 主として眼瞼に生ずる故眼瞼黄色腫 Xanthoma palpebrarum の稱がある。老齡に多く、初めは針頭大の小斑として發生し漸次擴大して半米粒大から豌豆大に達する。皮膚と同高若しくは少しく隆起し、鮮紅色乃至暗黄色で、境界は常に明劃に表面は平滑である。

多く數個に過ぎないが時には多數に發生し融合して眼瞼を取巻くこともある。前額、鼻部、頸部、關節屈面、陰部等にも現はれる。

2) 結節性黄色腫 Xanthoma tuberosum

粟粒大、豆大から鶏卵大にも達し球形或は橢圓形を呈し、弾力性の硬度を示す。多く中年に來るが小兒に來ることもあり、前者と合併して現はれることも稀でない。常に symmetrisch に四肢の Streckseite 殊に肘部、膝蓋部、手甲、足背に好發する。

3) 糖尿病性黄色腫 Xanthoma diabetorum

Diabetiker に現はれるもので、特異な點は發生が往々迅速で粟粒大乃至豌豆大の Knötchen が全身に汎發すること、往々自然に消失して又新生することである。尙發疹の中央は固有の黄色を呈するが邊緣は稍赤色味を帯びる。

Xanthom は一般に subjektive Beschwerde を缺くが Xanthoma diabetorum は時に spontaner Schmerz がある。

時として Schleimhaut, Eingeweide に Xanthom を生ずる事がある。

原因 Cholesterin の Stoffwechselanomalie に基づき、多數の脂肪小體を包有する所謂 黄色腫細胞 Xanthomzellen よりなる。

豫後 佳良であるが自然治療は營まない。

類症鑑別 粉瘤 Atherom の多發した時に類似するが部位を異にし黄色の度も弱く固有の Atheromblei を證明する。

療法 Resektion, Elektrolyse, Radium

XI 弾力纖維性假性黄色腫 Pseudoxanthoma elasticum

症候 Cutis に於ける elastische Fasern の變性に因つて發生する稀有

の疾患で胸腹部、肘窩、膝窩、或は顔面、頸部等に、多く對側性に針頭大から爪甲大に及ぶ象牙様或は硫黄様黄色の斑又は丘疹として現はれる。

孤立又は集簇密生し、融合して種々の形狀を呈するが、境界は明割 稍々硬く自覺症はない。

Xanthom に類似するが、黄色調が之より弱く且つ往々蒼白色、皮膚色又は褐色、鉛色を呈するものがあり histologisch には Elastische Fasern の Degeneration が證明され Xanthomzellen を缺く。

療法 Resektion od. Elektrolyse

XII 膠様粒腫 Kolloidmilium

症候 露出部、即顔面、手背、頸部等に發生する針頭大乃至豌豆大の發疹で、黄色又は橙黄色を呈し扁平に少しく皮膚面から隆起する。水泡様の透見性があつて穿刺すると膠様内容物を漏泄する。自覺症はない。

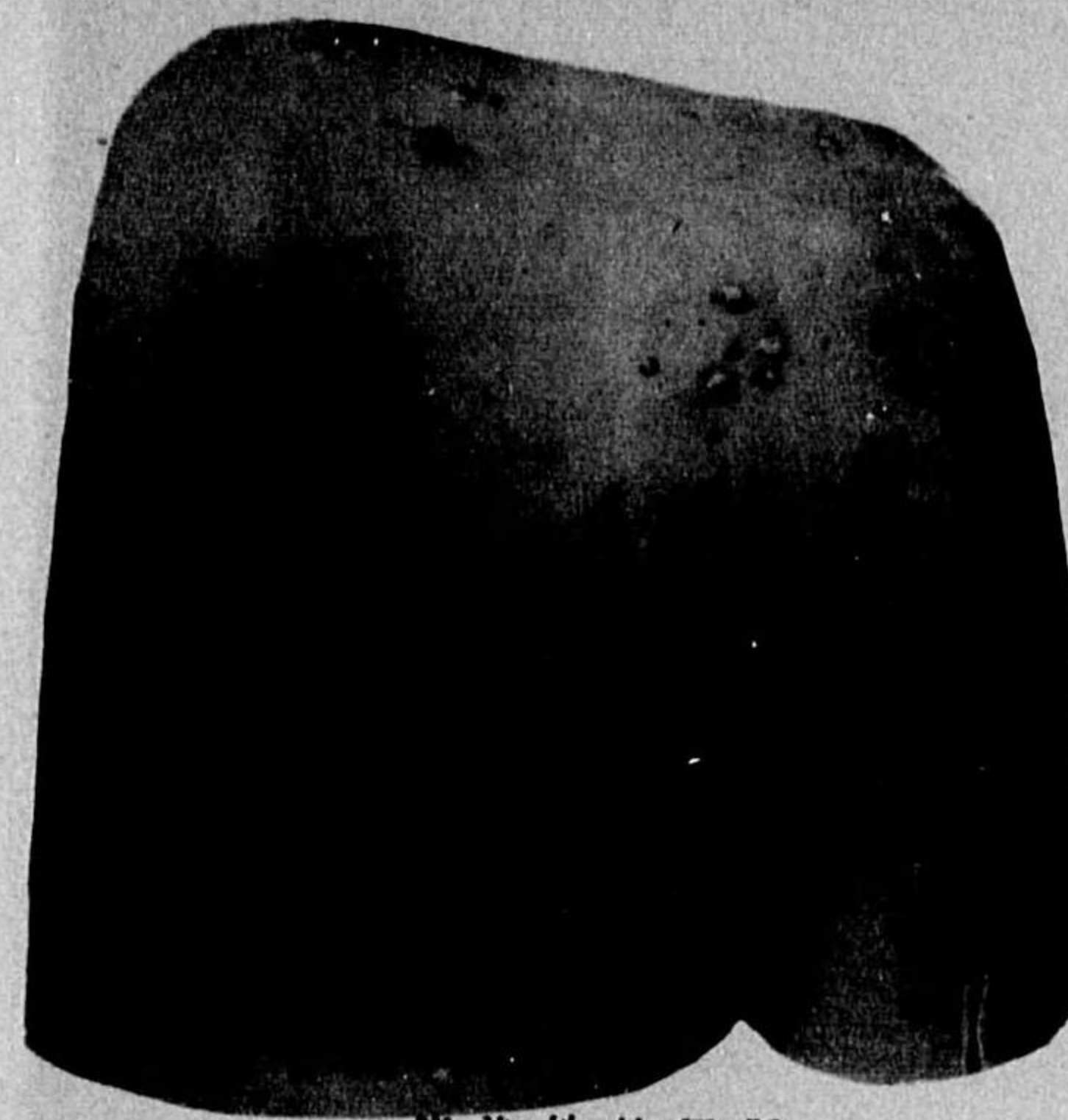
Bindegewebe の Degeneration により發生するものと看做されてゐる。

療法 切除、焼灼

XIII 石灰沈着症 Calcinosis

皮膚の結締織内、脂肪組織内に Calciumsalz の沈着するために發生するもので、關節の周圍又は Sehne に沿つて好發し、限局性のもは皮膚結石 Hautstein、皮膚骨腫 Osteoma cutis を生じ、汎發性のもは種々の形狀を呈する硬結を呈する。表面は緊張して光澤を帯び或は紅褐色を呈し、Kapillaren の Dilatation を伴ひ其間に白斑が透見される。又 Gelenk の rheumatische Anschwellung, Schmerz und Fieber がある。

第六十五圖



傳染性軟屬腫
Molluscum contagiosum

第六十六圖



蟹足腫
Keloid

第六十七圖



黄色腫
Xanthom

第六十八圖



海綿様血管腫
Angioma cavernosum

先天性畸形に属するもの

XIV 母 斑 Nāvi

母斑とは先天性の素質に因り種々の年齢に於て發現する皮膚の限局性小畸形で、擴大増殖することなく良性のものである。

之に次の三種を區別する。

- A. 組織母斑 Gewebsnāvi: 主として皮膚組織の一部からなる母斑。
- B. 器官母斑 Organnāvi: 皮膚の一器官が増殖するもの。
- C. 列序性母斑 Naevus systematicus: 母斑の發生が一定の排列を有するもの。

A] Gewebsnāvi

1 色素性母斑 Naevus pigmentosus

黄褐色、暗褐色乃至濃黒色を呈する Pigmentfleck で形状大小は不定である。

此内に

- N. pigmentosus papillaris: 表面が乳嘴状を呈するもの。
- N. pigmentosus piliferus: 色素増生と共に強毛の發生を伴ふもの。

Lentigo 黒痣: 針頭大から豌豆大の色素性母斑で、皮膚面から隆起し往々硬毛を有するものがある。老年に至り癌腫變性を來すこと

がある。

2 小児斑又青色斑 Kinderfleck s. Mongolenfleck

小児に分娩時又は生後数日で現はれる淡青色の斑で、時に手掌大以上にも及ぶ。薦骨部に好發するが身體隨處に來る。7—8Ij に達すると多くは消失するが稀には顔面に來り消失し難いものがある。

3 軟性母斑 Naevus mollis

皮膚面から扁平又は球狀に隆起し或は polypös に懸垂する。質は軟く色は健康皮膚色又は色素増生を伴ふ。

4 硬性母斑 Naevus durus

角質増殖の著名なもので表面は疣狀を呈し、往々線狀に配列する。色素の増生を伴ふと伴はぬとある。

療法 切除、熱灼。

B] 器官母斑 Organnävi

1 血管腫又血管性母斑 Hämangiom, Angiom, Nävus vascularis

單純性血管腫 *Angioma simplex* は乳頭部の血管が増殖擴張し、大小不同の淡紅色乃至暗紅色を呈するもので、皮膚面からは殆ど隆起

せず、且増大しない。

海綿様血管腫 *Angioma cavernosum* は扁平に或は腫瘍狀に皮膚面から隆起し、質は軟で壓迫すると扁平になる。色は皮膚淺層に位するものでは紅色、暗紅色を呈し、深層に位置するものは蒼紅色或は暗黒色を呈する。漸次擴大する傾向がある。

療法 Kohlensäureschnee, Radium, Resektion.

2 貧血性母斑 Naevus anaemicus

局部毛細管の先天性發育異常で針頭大、大豆大の蒼白斑をなし周圍を摩擦して充血せしむれば著明になる。前胸部、腹部、上膊、前膊、肩胛等に好發する。

3 淋巴管腫 Lymphangiom

單純性淋巴管腫 *Lymphangioma simplex* は粟粒大乃至豌豆大の水疱群で中に透明な Lymph を滲溜する。皮膚は緊張し透見性である。時には角質の増殖を伴ひ稀には Hämangiom と合併する。頸部、肩胛部、口唇、舌粘膜等に來る。

海綿様淋巴管腫 *Lymphangioma cavernosum* は極めて稀有で胡桃大から時に小兒頭大に達する Geschwulst として皮下に存在し、穿刺すれば Lymph を漏泄する。側面から見ると少しく透見性のこともあり、又 Lymph. simplex を合併して表面に水疱を見ることもある。

療法 Hämangiom に等し

4 軟骨性母斑 Nävus cartilagineus

好んで耳翼の前方頰部に生じ、針頭大から櫻實大で種々の形をなして隆起し、

軟骨様硬度を呈す。皮膚には変化はない。耳軟骨と同様の軟骨組織を内に蔵する。

5 面皰性母斑 Komodonennävi, Nävus komedonicus

多く胸部稀に顔面に偏側性に面皰の簇生羅列を見るものである。種々の他の母斑を伴ふこともある。

6 皮脂腺腫 Adenoma sebaceum, Pringlesche Krankheit

定義 Talgdrüsen の増殖を主とする一種の先天性畸形である。

部位 顔面殊に鼻唇溝、頬、額部に發し其他頸部、項部、被髮頭部、前胸部にも來る。

症候 針頭大乃至小豆大の Knötchen で、扁平に或は半球狀に隆起し、色は黄褐色又は普通皮膚色のものもあるが、多くは毛細血管の擴張を伴つて淡紅色或は紅色を呈す。表面は平滑で多少光澤があり質は概ね硬い、數は十數個に過ぎないものと數百に至る Knötchen が密生し一部融合することもある。2-3 Lj から發生し漸次増加するが思春期に至ると停止する。

本症は屢々結節性腦硬化 tuberöse Hirnsklerose に併發し癩癩様發作、智的發育不良を伴ふことがある。

療法 CO_2 -Schnee, Elektrokoagulation, Radium

7 汗腺腫 Syringom, Hydroadenom

定義 汗腺排泄管乃至汗腺排泄管となるべき表皮突起より發生する良性腫瘍で屢々 Cyste を形成するものである。

部位 常に symmetrisch に發生し眼瞼殊に下眼瞼に最も多く次に前胸部、上腹部、眼瞼周圍等に發生する。

症候 針頭大乃至小豆大の Knötchen で僅に Hautniveau 上に隆起し、全く普通皮膚色か或は稍黄褐色を呈し質は硬い、表面の皮膚は異常なく通常孤立散在性に來るが多數密生融合することもある。婦女子に多く幼時から發生するが思春期以後に發生することも稀でない。數は數個から數百個に及ぶが大きさは大豆大を超えない。

療法 1) 紫外線, Röntgen, CO_2 -Schnee

2) 焼灼、電氣分解

8 多發性丘疹狀毛囊上皮腫 Trichoepithelioma papulosum multiplex Jarisch

定義 丘疹狀をなす比較的良性の多發性上皮腫である。

症候 顔面、殊に鼻根、眼瞼、鼻唇溝から頬邊に或は頸部、上胸部に粟粒大から豆大の扁平丘疹が播種狀に若しくは集簇性に對側性に發生する。質は硬く表面は健康皮膚色か又は淡褐黄色を呈するが少しく光澤があり往々中心に凹窩を認める。多くは半球狀に又は扁平に皮膚面上に隆起するが、時に皮膚中に埋没するもある。自覺症はない

思春期に一致して發生し始め徐々に増大して大豆大に至れば止む。自然に退行することはない、良性であるが時に扁平皮膚癌に變性することがある。

類症鑑別 1) Adenoma sebaceum は部位が類似するが形較々小さく柔軟で多少淡紅色を呈す。且發生も早く多く 5 Lj 以下に始まる。

2) Hydroadenoma とは histologische Untersuchung に依らなければ確實に鑑別し難い。

療法 切除、焼灼、Radium

C] 列序性母斑 Naevus systematicus

其配列が多くは一定神経の経路に一致し特殊の形状を示すが其構造は不同で前記各種の母斑が種々に混合して現はれる。

筋組織より発生するもの

XV 皮膚筋腫 Dermatomyom

定義 球状の腫瘍で滑平筋繊維の増殖によつて発生するものである。

症候 真皮中に針頭大、豌豆大或は櫻實大の Knoten を生じ表皮とは癒着するが皮下に對してはよく移動する。表面は僅に皮膚面から隆起し往々紅色乃至帶褐色を呈するがあり、又膠様に透射し囊腫を疑はしむるものがある。硬度は稍硬く時に軟骨様硬度を示す。数は單發するもの(Solitäre Hautmyom)と、多發するもの(Multiple Hautmyom)とあり、部位は全身に播種狀に又は一部に密集するが四肢の伸側に來ることが最も多い。

又 Myoma dartos は乳房、陰囊、陰唇等の滑平筋に富む部位に限局し皮下層より発生し時に著明の大きさに達す。

Hautmyom の特徴は自發的に又多くは壓迫摩擦等の刺戟により數々激烈な疼痛發作を生じ、數十分持續することであるが、大なる Myom に多く又必發する症候ではなく時には全く之を缺き或は軽い癢痒に止まるもある。徐徐に發育し一定の大きさに達すると進行停止し數十年に亘つて存在し稀に自然に消失することがある。

診断 疼痛發作あるものは之に依り診斷されるが、然らざるものは組織検査に依らねばならない。

療法 切除、多發性のものは Radium, Röntgen.

囊腫に屬するもの

XV 稗粒腫 Milium

定義 稗粒大の小球で、容易に摘出し得る一種の毛囊々腫である。

部位 顔面殊に眼瞼、側頭、頬邊、又は陰部等に、其他癩痕部にも發生する。

症候 皮膚面に稗粒大の隆起をなし、白色又は帶黄白色で硬い、針を以て其上の非い表皮を破つて少しく壓迫すると眞珠様の小粒が排出される。数は數個に過ぎぬもあり時には多數に現はれ、青年殊に婦人に多い。

療法 針又は小刀で表皮に小切開を加へ側方から壓迫して壓出する、再發し易い。

XVI 粉瘤 Atherom

定義 皮下又は真皮中に多くは毛囊、稀には皮脂腺から發生する一種の閉塞囊腫である。

症候 豌豆大から時に手掌大に達する球形の腫瘍で能く移動する。表面の皮膚は屢々緊張して其頂上に面皰に似た小臍があつて腫瘍と癒着し壓迫すると白色泥狀の内容を排出する。稍々青色に又は黄色に透見することがある。

全く無痛であるが時に炎症を起して疼痛を生じ内容膿潰することがある。發育は緩徐で稀には自然に吸收され又石灰化する事もある。

部位 被髮、頭部、顔面、陰囊に好發し稀には全身に多發する。

療法 包膜と共に摘出する。

XVII 汗囊腫 Hidrocystom

定義 汗腺輸出管の末端が囊状に擴大して發生する Bläschen である。
部位 顔面殊に頬, 前額, 側頭, 眼瞼, 鼻頭, 口唇に多い。
症候 針頭大乃至豌豆大の Cyste で主に真皮中に位し大なるは青白色透射性で光澤がある。針を刺すと水様の澄液を漏して縮少する, 炎症なく自覚症もない。

中年の婦人に多く時に數百に達し, 顔面の發汗によつて症狀顯著になる。従て夏季に著しく冬季には消退する事もある。

療法 焼灼又は電氣分解。

悪性腫瘍

XX 皮膚癌 Carcinoma cutis

定義 皮膚に原發する癌腫である。

症候 扁平皮膚癌, 深行性皮膚癌, 乳頭狀皮膚癌に分つ。

1) **扁平皮膚癌 Das flache Hautcarcinom** 一名悪性上皮腫 Malignes Epitheliom, 蠶蝕性潰瘍 Ulcus rodens. 帽針頭大で蠟様の光澤がある透射性淡紅色の Knötchen として, 或は扁豆大帯黄紅色の光澤ある陥凹した斑として始まる。

徐々に増大し, 表面に黄褐色或は暗黒色の薄い痂皮を被むる, 所謂 Epithelschorf 上皮痂である。之を剝離すると扁平の潰瘍で, 其表面は微細顆粒状を呈し淡紅色で潰瘍縁は狭い隆線をなしてゐる。更に其周囲の皮膚は radiär の Falte を示すことが多い, 此 Geschwür の Boden u. Rand は頗る硬く板の如くであるが, 皮

下に對しては能く移動する。

経過は極めて慢性で數年或は數十年に及ぶ, 其間に潰瘍の中心は表皮を形成して Narbe をなすが, 同時に病變は徐々に周圍に擴大し又癩痕中に眞珠様の Knötchen を新生して再び破潰する, 斯くして後には終に深行性皮膚癌に移行する。

2) **深行性皮膚癌 Das tiefgreifende Hautcarcinom** 軟骨様硬度を有する大豆大の Knötchen として發生し, Haut は初めは桃紅色平滑であるが, 次第に其中心が菲薄になり臍窩状に陥凹する。數ヶ月乃至1—2年の内に中心が軟化し, Haut は dunkel-rötlich に變じ遂に破潰して Krebsgeschwür 癌潰瘍を形成する。此の時には疼痛を伴ふ,

此 Krebsgeschwür は岩穴状或は噴火孔状で, 急峻に陥没し邊緣は硬く浸潤し且つ不正の隆起を呈し, Boden は uneben で往々乳白色蠟様の光澤を帯びた Knötchen が散在する, 潰瘍は徐々に周圍及深部に擴大し, 同時に周圍の皮膚に新結節を生じ融合する。

3) **乳頭狀皮膚癌 Das papilläre Hautcarcinom** 深行性皮膚癌の一變形で表面が乳頭状に増殖し分裂して柘榴實の状をなし, 終には崩壊して Krebsgeschwür を作る。

部位 顔面, 頭部, 龜頭, 包皮, 陰囊, 大陰唇, 陰核に多い。

豫後 扁平癌は多年に亘り良性で regionäre Lymphdrüsen-metastase も極めて稀である。

深行性癌は數年内には Metastase を生じ死の轉歸をとる。

診断 軟骨様硬度, 邊緣の隆線, 放射状の皺襞, 光澤, 癩痕, 緩慢な發育, 淋巴腺の硬結, 年齢, 部位及顯微鏡所見。

類症鑑別 護膜腫 Gumma: 潰瘍縁厚く浸潤し硬度も劣る。驅毒療法の効果。

尋常性狼瘡 Lupus vulgaris: 浸潤軽く邊縁に隆線がない。固有の Lupusknötchen を證明する。

療法 切除, 焼灼,

Röntgen, Radium 殊に扁平皮膚癌に有効である。

XX ペーゼット氏病 Pagetsche Krankheit

定義 Brustwarze, Warzenhof, 或は äussere Genitalien 等に發生する扁平皮膚癌である。

症候 一側の乳房に發生するのが常で, 初めは鮮紅色の Knötchen 或は扁平な潮紅腫脹面を生じ, 鱗屑痂皮を作り, 稀薄な漿液性分泌物があつて, 屢々結痂し且癢痒を伴ひ全く濕疹に類似する。而も濕疹治療法は毫も効果を示さず, 患部は漸次増大して終には浅い潰瘍面となる。此 Geschwür は浅く表面桃色で單純な Granulationsfläche に髣髴たるものであるが, Boden を palpieren すれば板の如く硬い浸潤がある。且つ Rand は頗る明劃に健康皮膚と境界する。

äussere Genitalien に於ては多くは frischrot 又は dunkelrötlich の Papel 又は Erosionsfläche として始まる。

経過 頗る慢性で數年, 數十年に亘り中心には屢々癩痕を生じ, 終には深行性皮膚癌に移行する。淋巴腺への Matastase は極めて稀である。

診断 濕疹 Eczema: 境界明劃を缺く。

潰瘍性梅毒 Syphilis ulcerosa: 経過が遙に迅速で硬度は elastisch

derb であるが, 確實な診断には histologische Untersuchung に俟つがよい。即肥大延長した上皮索中に大型の上皮細胞がある。Protoplasma は透明で Chromatin に富む大なる Kern を有す。即 Pagetzellen が證明される。

療法 切除, 抓把。

Röntgen, Radium は廣汎で切除し得た際に又は後療法に用ひる。

XXI ボーウエン氏病 Bowensche Krankheit

定義 身體隨所殊に äussere Genitalien に来る稀有の癌前驅症である。

症候 丘疹, 結節又は斑を以て始まる。發疹は帽針頭大, 扁豆大乃至指頭大で形は多く圓形に, 鮮紅色乃至暗赤色を呈し, 健康皮膚面との境界は鮮明である。表面は多く平滑で皮膚面から僅に隆起し或は僅に落屑痂皮を作る。痂皮を除くと Erosion 又は Geschwür を示し極めて出血し易い。時に表面に一部癩痕形成をなすもの, 毛細管擴張を來せるもの, 黒褐色で母斑と見做された例もある, 又時に表面に角質増殖して疣狀をなすことがある。

多くは單發するが時に多發することがあり, 自覺症は缺くか又は軽度の癢痒がある。

一部は癩痕を形成するが病竈の底面及周縁には稍硬い浸潤があり漸次周圍に擴大する。

部位 外陰部殊に婦人に最も多く, 龜頭, 冠狀溝, 包皮内板, 大小陰唇, 腔口粘膜に來り其他身體隨處に來る。

豫後 一時治癒する如くでも容易に治せず, 數年乃至十數年で癌腫に移行する。

療法 Röntgen, Radium, Co₂-schnee, Elektrokoagulation, 焼灼。

XXII 其他の癌前驅症

癌の發生期状態若しくは發生の前提をなす病變は、一般に癌前驅症と呼ばれ先に述べた Pagetsche Krankheit, Bowensche Krankheit は之に屬するものである。此他 Erythroplakie, Leukoplakie, Cornu cutaneum, コンヂローム 様癌前驅症等がある。尙更に他の皮膚疾患にして屢々癌を發生するものとして知らるゝものには Xeroderma pigmentosum, Röntgendermatitis, Lupus vulgaris, Lupus erythematosus, Narbe, Naevi, Verruca, Keratosis senilis, Arsenkeratose, Keloid, Eczema, Psoriasis, Morbus de Darier 等が擧げられるが是等に就ては夫々の章に於て述べた故茲には省略する。

狭義の前記癌前驅症と呼ばれるものは、其異同に就き現今尙議論が多く又其特異的疾患として癌前驅症なるものが存在するや否やに關しても議論が決しないのであるが、屢々癌腫に變性する意味に於て其存在を認むべきものである。孰れも極めて稀な疾患である故此處には極めて簡単に記載することにした。

1. Erythroplakie

専ら外陰部、(龜頭、包皮、冠狀溝、陰唇)に來り形不規則な鮮紅色乃至暗赤色の斑として始まる。境界は比較的明劃で Hautniveau より殆ど隆起しない。表面 nassen し光澤を帯び或は乳頭狀を呈することもある。次第に擴大するに従ひ浸潤を生じ硬度を増す、極めて出血し易い。自覺症狀は殆どない。経過は長く數年乃至數十年で癌腫に變性する。老年の男子に多い。

2. Leukoplakie

龜頭、包皮内板、小陰唇、陰核に來る白斑で、境界明劃な不整地圖狀の限局性

白斑をなし乳白色を呈し、初めは單なる白斑で扁平菲薄な所謂羊皮紙様硬性浸潤を證明するが、次には角層が肥厚して板狀又は扁平疣狀をなし又塊狀をなし強い浸潤を觸れるに至る、又此斑上に糜爛又は潰瘍を來すこともある。自覺症狀は全くないか又は癢痒或は疼痛を訴へることもある。

3. 外陰部コンヂローム様癌前驅症

陰莖、龜頭、包皮内板又は冠狀溝に好發し殆ど男子に限り稀に女子外陰部に來る。

初めは定型的尖圭コンヂロームの所見を呈し或年月を経て急に増殖し遂には包皮を穿孔するに至る。多くは細菌の感染を受けて血性膿汁を附着し濕潤汚染され、爲に尿道口は認め難きに至る。表面には擴張した Kapillaren が透視される。palpieren すると深部に極めて硬い浸潤が證明される。包皮は多く癒着して離轉し得ない。化膿感染の進行により潰瘍を形成し或は壞疽を來すこともある。早晚 Carcinom に變性し淋巴腺へ Metastase を生ず。

比較的若年の者に來り Carcinom に變性する迄の年月は速きは半年永きは10年以上に及ぶ。

4. 皮角 Cornu cutaneum (第十三章参照)

最も多く頭部に現はれ Gesicht, Rumpf にも來り又屢々 äussere Genitalien に來る。

形は圓錐形又は細長い圓柱狀をなし、基底は殆ど常に正圓形をなす、表面には長軸に沿ひ縦に、稀には横に不規則な凹條があり、稀には光澤ある平滑な表面をなす、色は鮮紅色から暗褐色乃至黒色に及び、數は數個から時に數百個に至る。

成熟した後卒然脱落するもあるが時に殊に äussere Genitalien のものは Carcinom に移行し易い。

XXIII 皮膚肉腫 Sarcoma cutis

定義 皮膚に原發若しくは續發する肉腫である。

症候 Rundzellensarcom 圓形細胞肉腫, Riesenzellensarcom 巨態細胞肉腫, Spindelzellensarcom 紡錘狀細胞肉腫の三種があり單發又は多發し硬度は時に軟, 時に硬, 形状は球狀, 結塊狀, Polyp 狀等臨床所見は極めて多様で, 初めは豌豆大の結節として發生し著しく増大して終には破潰する。

又他部の皮膚及び内臓に轉移を生ずる。

最も悪性なのは Melanosarcom 黒色肉腫で, 多くは Naevus pigmentosus から發生し初めは灰白青色で次第に黒褐色乃至黒色になり増殖破潰が速かで帶血墨汁様の液を分泌する。速に胃, 肝, 腦膜等に轉移を生じて死を招く。

類症鑑別 確實な診斷は組織検査に俟たねばならぬが唯 Carcinom に比較すれば腫瘍の増大の迅速な割に硬度が著明でなく, 破潰することが遅く潰瘍の邊緣が柔軟で, 痛腫の如く象牙様硬度を示さない。

療法 單發性のものは早期に切除する, 其他は Radium, Röntgen.

XXIV 菌狀息肉腫 Mycosis fungoides

定義 多くは濕疹状態を以て始まり, 次第に結節及び浸潤を作り屢々退

行するが毎に再發し且つ破潰する傾向があり, 慢性に經過して早晚死を致す稀有の悪性疾患である。

症候 第一期, 紅斑期又濕疹期 Stadium erythematosum s. eezematosum. 一年乃至數年に亘つて皮膚に紅斑又は鱗屑性或は濕潤性濕疹面を發生する。境界は比較的明劃で癢痒は最も激烈である, 漸次全身に擴大し皮膚の浸潤肥厚を招き且つ諸處のリンパ腺腫脹を來す。

第二期, 扁平浸潤期 Stadium der flachen Infiltration で第一期の病變部に浸潤が強くなり, 皮膚が肥厚して扁平に隆起し淡紅色は暗紅色に變じ且つ處々に豆大の Knötchen を發生する。此變化は往々吸收されるが又再發し終に第三期に入る。

第三期, 息肉期 Stadium der Tumorbildung 胡桃大乃至林檎大に至る大小不同の息肉を孤立性又は集簇性に多數に發生し, 形は不同色は鮮紅色又は黃褐色を呈す。

屢々相融合し或は突然收縮して消失し或は中心軟化して外に破潰し潰瘍を作る。顔面, 軀幹, 四肢に散發し粘膜にも來る。

第四期, 惡疫質期 Stadium der Kachexie 患者の一般状態が漸次侵され羸瘦し食慾不振, 慢性下痢を催し又惡感戰慄の下に發熱し五, 六年の間に合併症 (Sepsis, Pneumonie, Pleuritis, Nephritis etc.) の爲に斃れる。

此他電擊性菌狀息肉腫 Mycosis fungoides démlée と稱し前驅症を伴はずに直ちに菌腫を發生するものがある。

豫後 經過中患者は一時輕快しても全治することは殆どなく, 早くは半年晩くも 10 年内には斃れる。

診斷 固有の息肉の發生する前には診斷は容易でない。唯老年の殊に男子に於て皮膚に劇烈な癢痒があり, 汎發性又は局面性の濕疹を生じ頑固で容易に治癒しない時には本症の前驅期たるを疑はねばならない。息肉期に於ては前驅症の有無, 劇烈な癢痒, 結節の形状其自然の退行及再發等によつて診斷

される。

療法 Röntgen 線放射は最も良く癢痒を去り濕疹及腫瘍を吸収せしめる。Quarzlampe も用ふべきである。但し再發を豫防するは共に困難である。其他には亞硫酸劑と局所の軟膏と泥膏療法がある。

XXV 白血病性及假性白血病性皮膚病

Leucaemia et Pseudoleucaemia cutis

定義 Leucaemie od. Pseudoleucaemie の Kranke に發生する各種の皮膚疾患を謂ふ。

症候 二種あつて第一型は Haut に hochgradig の diffuse Infiltration を來し、爲に厚い皺襞と深い溝を生じ恰も獅子面 Facies leontina を呈する。皮膚の表面は或は乾燥し或は軽く落屑し或は表皮が菲くなつて往々濕潤する。

第二型は限局性の Tumor を作るものである。即 Gesicht, Rumpf, Extremitäten に針頭大乃至梅實大の結節を多發し、色は桃色乃至紅褐色で孤立し又は融合する。表面は扁平で緊張して光澤を帯び觸れれば柔軟である。決して Geschwür を作らない。

第二型は又屢々第一型と混じて發生する。

自覺症としては癢痒が激烈である。

診断 白血病又は假性白血病に伴ふもので、殊に lymphatische Leucaemie 及 Pseudleucaemie に多く來る。淋巴腺、脾臓、肝臓の腫脹があり、血液及組織の検査によつて診断される。

療法 亞硫酸療法, Röntgen 療法。

第十九章 動物寄生及刺咬症

人體に寄生する囊蟲 Cysticercus(條蟲 Taenia の幼蟲), 蟯蟲 Oxyuris vermiculares, 日本住血吸蟲 Schistosomum japonicum Katsurada 等も亦皮膚に病變或は癢痒を原因することがあり、外部に寄生するものにも頭蝨 Pediculus capitis, 衣蝨 Pediculus vestimenti, 陰蝨 Phthirus pubis, 蚤 Pulex irritans, 床蝨(南京蝨) Cimex lectularius 等がある。其他恙蟲, 蠍 Skorpione, 蜘蛛 Araneina, 蜈蚣 Chilopoda, 蜂 Hymenoptera, 蚊 Mosquitos, 虻 Brachycera, 毒蛾 Lepidoptera, 蛭 Hirudininen, 毒蛇 Thantophidii の刺咬に因つて皮膚に病變を呈するは周知の事實であるが、此内主なるものとして屢々之を見又は Dermatolog の診療する機會の多きは疥癬 Skabies と鼠咬症 Rattenbisskrankheit とである。

I 疥癬 Skabies (Krätze しつ, ひぜん)

定義 疥癬蟲の寄生に因つて生ずる癢痒性皮膚病である。

原因 疥癬蟲には數種あるが、最も多いのは人體疥癬蟲 Acarus skabiei, Sarcoptes hominis である。其雌蟲は皮膚の表面で交接し受胎した後に表皮中に隧道を作り、其中に産卵し尾端に在ること2—3ヶ月で枯死する。針で此隧道の尾端を刺すと肉眼で見得らるゝ淡黄白色の小粒を發見するが之を顯微鏡下に檢すると龜形の扁平な小蟲で共蠢動するのを認めることが出来る。

雄蟲は雌蟲より小さく隧道を穿たず皮膚の表面に棲息して交接を營

み角層中或は小結節又は水疱の中で老死する。

隧道中の卵は化して幼蟲(Larve)となり、成熟すれば皮膚の表面に出る。

症候 1) Ausschlag は miliar- bis halbreiskorngross の Papel を散發する。正常の皮膚面上に散在性に存在し、丘疹は淡紅色、鮮紅色或は健常皮膚色を呈し、圓錐形である。其頂點には往々 Bläschen 或は Pustelchen を作る。

2) 尙特徴として疥癬隧道 Milbengang を認める。長さ 1—2mm. 時に 1—2cm. に達する灰白色又は淡黒色の細い線で、直線又は曲線を描き、其尾端 Schwarzende には往々白い小點を發見する。即雌蟲である。此隧道は疥癬雌蟲が角層中に掘鑿するもので、其黒色を呈するのは脱糞に由るのである。

隧道は通常は炎症を伴はないが、時には底面に炎症を認め小浸潤、潮紅、水疱、膿疱を伴ふこともある。

此隧道は著明でないことも屢々ある。此際試みに皮膚面に墨汁を塗布して後之を拭去ると黒色線として明かに認められる。

3) 劇烈な癢痒が必ず伴ふ、殊に夜間褥中に於て最も著しいのが特色である。蓋し疥癬蟲は光線を忌み晝間は靜止し夜間褥温によつて活動を始め、此輕微の皮膚刺戟が癢痒感を原因するのである。

4) 此癢痒の爲に搔破濕疹 Kratzeczem を合併し、各種の濕疹狀變化(表皮剝脱、丘疹、水疱、血痂、糜爛)や或は化膿菌の感染により膿痂疹、癩等を生じ易い。殊に小兒の如きは皮膚が軟弱で化膿菌感染を起し易く爲に症狀激烈である。之を膿疱性疥癬 Skabies pustulosa と云ひ特に手掌、足趾に著明である。

5) 人より人に觸接傳染し、多く家族間に傳染蔓延するを見る。但

感染後症狀の著明になる迄には 4—5 週間を要する。

部位 特有の好發部位がある。即指間、拇球、腕關節及肘關節の屈面、腋窩の前後、乳房下面、緊帶部、陰莖、大腿内側である。絶えず壓迫又は摩擦を受ける部位が好發部位である。

其感染の経路により手指に始まる場合と、陰部及其附近に始まる場合とが多く初發部位を中心として漸次全身に蔓延する。

経過 陰部又は手指に初發し 2—3 Woche で全身の好發部位に蔓延する。發疹は Pigmentation を遺して治癒するが一方に又新疹を生じ搔破する爲に濕疹化を招き各種の症狀を呈す、適當の治療を行はねば半歳、年餘に亘つて治癒しない。

ブツク氏諾威疥癬 Skabies norvegica Boeckii と稱するものは疥癬が數年間治癒せず、爲に手掌、足趾、肘關節、膝關節等の表皮が胼胝狀に肥厚して其中に大小不同の空洞を作つて宛も海綿の如く、無数の疥癬蟲、幼蟲及蟲卵を此空洞中に包藏するものである。

診斷 部位、疥癬隧道、其尾端に於ける疥癬蟲の證明、夜間の激痒、家族の傳染。

類症鑑別 1) 濕疹 Eczema: 丘疹膿疱は散漫性の潮紅面上に發生するが疥癬の皮疹は毎に健康皮膚面に散發する。部位も疥癬程一定しない。

2) 癢痒 Prurigo: 癢痒があるが下腿前面に最も多く肘窩、膝關節には決して發生しない。

3) 丘疹膿疱性梅毒疹 Syphilis papulo-pustulosa: 癢痒がない。

4) 小兒ストロフルス Strophulus infantum: 疥癬は小兒では固有の部位を示さず屢々手掌、足趾にも發疹し膿疱を作り Strophulus infantum に類するが、後者では部位が不定で身體隨所に現